

# PROGEAR

ワイヤレス二次元ハンディターミナル

## PGR-120-G

ユーザーズマニュアル



株式会社ウェルキャット

# 商標について

- Microsoft、Windows、Visual Basic は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Bluetooth は Bluetooth SIG, Inc.の登録商標であり、株式会社ウェルキャットはライセンスに基づいて使用しています。
- 各マニュアルの著作権は株式会社ウェルキャットにあります。
- 各マニュアルの一部または全てを無断で使用、複製することはできません。
- その他記載されている製品名および会社名は、それぞれの企業の登録商標または商標です。

# 正しく安全にお使い頂くために

弊社製品をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございます。

ご使用前にこのユーザーズマニュアルをよくお読みになり、製品の適正な選択、使用および保守することが重要です。製品の仕様・機能・内容の確認に努め、使用する際には表示・マニュアルをよく読み、事故につながるような使い方をしないように心がけましょう。製品の保守・点検をこまめに行うことも大切です。表示内容を見逃して誤った使い方をした時に生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し説明します。表示は危険の程度で分類されています。



この表示を見逃して誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される緊急性が高い内容を示しています。



この表示を見逃して誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容です。



この表示を見逃して誤った取扱いをすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

以下の絵表示は、お守り頂く内容区分を説明しています。



このような絵表示はしてはいけない「禁止」であることを示します。図の中に具体的な禁止の内容が示されています。



このような絵表示は必ずして頂く「強制」であることを示します。図の中に具体的な指示の内容が示されています。



このような絵表示は注意を促す内容であることを示します。図の中に具体的な注意の内容が示されています。

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するためにも、次の事柄は必ずお守りください。

## 必ずお守りください



製品を使用する場合は、ご使用のパソコンや周辺機器のメーカーが指示している危険、警告、注意の表示を厳守してください。

### PGR-120-G 本体、バッテリーパック (BP-002) 共通



#### 危険



必ず専用の周辺機器をご使用ください。

PROGEAR シリーズ専用周辺機器  
・バッテリーパック (BP-002)  
・シングルチャージャ (QC-008) 別売  
・バッテリーパック充電器 (QC-009) 別売



高温になる場所（火やストーブのそば、炎天下など）や引火性ガスの発生する場所での使用、放置、充電はしないでください。

漏液、発熱、破裂、発火、故障の原因となります。



電子レンジや高圧容器などの中に入れないでください。

漏液、発熱、破裂、発火、故障の原因となります。



火の中に投入したり、加熱したりしないでください。

漏液、発熱、破裂、発火、故障の原因となります。



レーザーを人に向けしないでください。

レーザー光が目に入ると視力に障害をきたす恐れがあります（『レーザー安全基準について』（P.8）参照）。



バッテリーパックの端子や、本体のバッテリーパック用端子/充電端子をショートさせたり、ハンダ付けしたりしないでください。

漏液、発熱、破裂、発火、故障の原因となります。



バッテリーパックの（+）と（-）の向きを逆にして使用、充電しないでください。

漏液、発熱、破裂、発火、故障の原因となります。



水や海水などに浸けたり、濡らしたりしないでください。

漏液、発熱、破裂、発火、故障の原因となります。

## 警告



バッテリーパックの充電の際、所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電をやめてください。

漏液、発熱、破裂、発火、故障の原因となります。



落下させる、投げつけるなど強い衝撃を与えないでください。

漏液、発熱、破裂、発火、故障の原因となります。



発熱・発煙・異臭などが発生した時は、電源を切りバッテリーパックを取外してください。

そのまま使用すると、発熱、発火の原因となります。バッテリーパックではさらに漏液、破裂の原因ともなります。



分解、改造をしないでください。

けがや感電、火災などの事故または故障の原因となります。内部の点検、調整はお買上げの販売店にお任せください。万一、改造などにより生じた問題については、一切の責任を負いかねます。



バッテリーパックの端子や、本体のバッテリーパック用端子/充電端子に手や指など身体の一部が触れないようにしてください。

感電、傷害、故障の原因となる場合があります。



薬品に近づけないでください。

薬品が触れる場所や薬品のそばで使用、保管しないでください。感電、火災などの事故または故障の原因となります。



バッテリーパックの充電は専用充電器を使用してください。

他の充電器で充電すると、バッテリーパックが発熱、破裂、発火する原因となります。

## 注意

**高温となる場所、湿気・ほこりの多い場所で使用・保管しないでください。**



火のそば、直射日光が当たるところなど高温になる場所での使用や保管は避けてください。火災などの事故またはケースの変形や故障の原因となります。また湿気、ほこりの多いところでの使用や保管は避けてください。感電、火災などの事故または故障の原因となります。

**不安定なところに置かないでください。**



機器が落ちたり倒れたりして、けがや機器の故障の原因となります。

**乳幼児の手の届くところに置かないでください。**



けがなどの原因となります。

**本製品は、事務用、産業用などの一般的用途を想定したものであり、以下のような高度な安全性が要求される用途での使用を想定した製品ではありません。**



・陸上、海上、航空輸送ならびに交通の運行制御管理、原子力核施設の制御管理、生命維持装置の制御管理など

弊社は、このような生命、人体、環境に対し重大な危険性を伴う用途での使用により発生した損害に対し、いかなる責任も負いかねますのであらかじめご了承ください。

## PGR-120-G 本体について

### 警告



持ち運びの時には、ストラップが引っ掛からないようにしてください。

ストラップの取扱いには十分注意してください。ストラップが他の物に引っ掛かると、けがや事故の原因となります。



高精度な制御や微弱な信号を扱う電子機器の近くでは使用しないでください。

電子機器(医療用電子機器、火災報知器、自動ドア、その他の自動制御機器など)が誤動作するなどの影響を与えることがあります。



異物を本体の内部に入れないでください。

もし本体の内部に異物や液体が入った場合は使用を中止し、お買上げの販売店にご連絡ください。そのまま使用すると感電、火災などの事故または故障の原因となります。

### 注意



コンピュータや蛍光灯、電子レンジなどのノイズを発する機器からはなるべく離して使用してください。

ノイズの影響により正常に通信できなくなる場合があります。



必ず手に取って操作してください。

床や机に置いたまま、あるいは充電器に置いたままの状態では操作をすると機器の故障や誤作動の原因となります。



強い衝撃を与えないでください。

本体を落とす、投げる、叩くなどしないでください。故障の原因となります。



水中に入れたり、強い勢いで水をかけたりしないでください。

本体は水没、噴射水に対し保護されません。内部に水が入り感電、火災などの事故または故障の原因となります。



磁石、ブザー、スピーカー、ブラウン管や、RFID のアンテナ近くなど、強い磁界が発生する恐れがあるところで使用、保管しないでください。

本体の誤動作や故障の原因となります。

## バッテリーパック (BP-002) について



Li-ion

### 使用済みバッテリーパック (BP-002) について

PROGEAR シリーズ本体にはリチウムイオン二次電池 (バッテリーパック : BP-002) を使用することができます。リチウムイオン二次電池は、「資源有効利用促進法」により、電池メーカーおよび電池を使用する機器メーカーに回収・リサイクルが義務付けられた小型二次電池です。弊社では一般社団法人 JBRC の会員として、使用済み小型二次電池の回収・リサイクルを実施しております。寿命となったバッテリーパックは一般のゴミと一緒に捨てず、回収に関しては弊社までお問合せください。



**危険**



バッテリーパックが漏液して液が皮膚、衣服に付着した時は、すぐにきれいな水で洗い流してください。また、液が目に入った時は、こすらずにすぐにきれいな水で洗った後、直ちに医師の診療を受けてください。

放置すると、失明やその他傷害を起こす原因となります。



バッテリーパックを火の中に投入したり、加熱したりしないでください。

漏液、発熱、破裂、発火の原因となります。



バッテリーパックを水や海水などに浸けたり、濡らしたりしないでください。

漏液、発熱、破裂、発火の原因となります。



釘をさしたり、ハンマーで叩いたり、踏みつけたりしないでください。

漏液、発熱、破裂、発火の原因となります。



**警告**



バッテリーパックが漏液、変形・変色した時には使用しないでください。

そのまま使用すると、バッテリーパックの発熱、破裂、発火、または漏液の原因となります。また火気に近づけると漏液した電解液に引火する恐れがあります。



## レーザー安全基準について

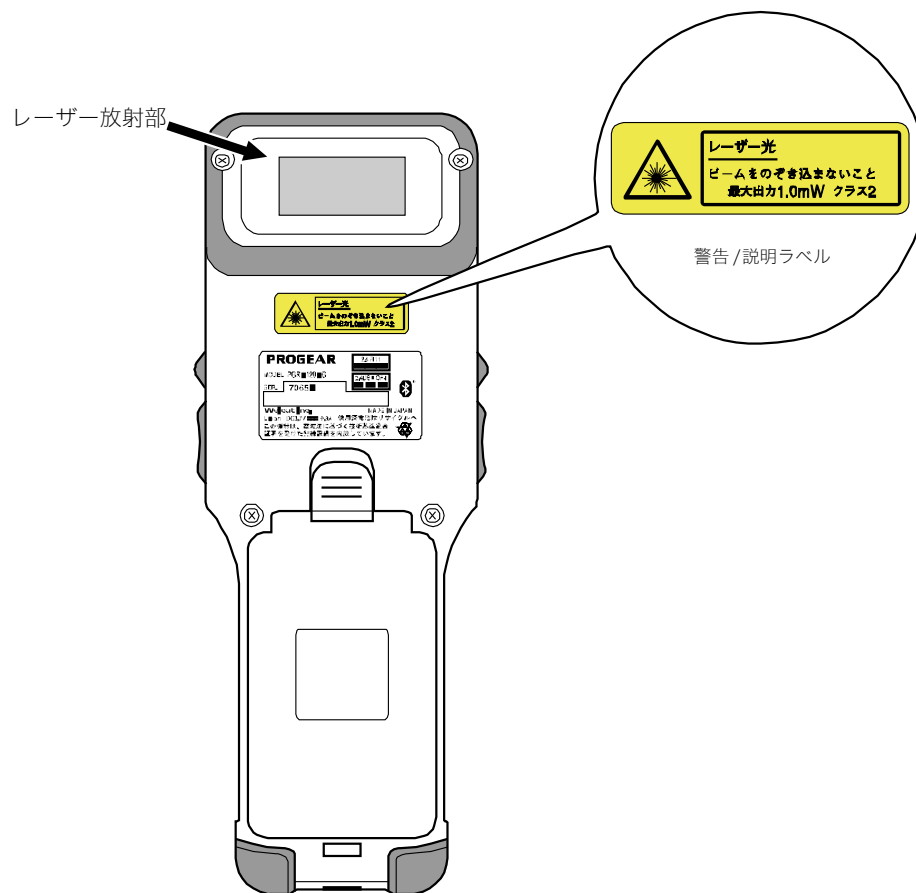
本製品はレーザー製品の安全基準 IEC825 Class2 に準拠しています。

最大出力：1mW

波長：650nm

クラス 2 ではまばたき等の嫌悪反応で目が保護されますが、レーザー光をのぞき込んだり直接目に入れたりしないでください。

## レーザーに関する警告ラベル



### 注意

ユーザーズマニュアルに反した使用や、製品の分解はしないでください。危険なレーザー放射の被ばくを招くことがあります。

## 液晶画面について

製品によって、赤、青、緑などの輝点が点灯したままになったり、小さな黒点が発生したりすることがあります。また、低温環境下でご使用の場合、若干表示の切替わりが遅く見えることがあります。これは液晶の特性によるバラつきであり不良ではありません。

## 電波に関する注意

- 本機は電波法に基づく工事設計の認証を受けた無線設備を内蔵しています。
- 本機を分解したり、本機の内部に触れたりすることは電波法で禁止されており、法律で罰せられることがあります。故障の際の内部点検、調整はお買上げの販売店にお任せください。

本製品を下記のような状況でご使用になることはおやめください。

- ・心臓ペースメーカーや医療機器の近くで、本製品をご使用にならないでください。  
医療機器に電磁妨害を及ぼし、生命の危険があります。
- ・電子レンジの近くで、本製品をご使用にならないでください。  
電子レンジによって本製品の無線通信への電磁妨害が発生します。

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）、特定小電力無線局（免許を要しない無線局）、アマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

- ・この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局、特定小電力無線局、アマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
- ・万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するかまたは電波の発射を停止した上、弊社営業担当にご連絡頂き、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談ください。
- ・その他、この機器から移動体識別用の構内無線局、特定小電力無線局、アマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことがおきた時は、弊社営業担当へお問合せください。

製品銘板に記載されている **2.4DS-OF4** は、次の内容を意味しています。

|       |          |                                      |
|-------|----------|--------------------------------------|
| 2.4   | 使用周波数帯域  | 2.4GHz 帯                             |
| DS・OF | 変調方式     | DS-SS 方式、OFDM 方式                     |
| 4     | 想定干渉距離   | 40m 以下                               |
| ■■■   | 周波数変更の可否 | 全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避不可であることを意味する。 |

製品銘板に記載されている **2.4FH1** は、次の内容を意味しています。

|     |          |                                      |
|-----|----------|--------------------------------------|
| 2.4 | 使用周波数帯域  | 2.4GHz 帯                             |
| FH  | 変調方式     | FH-SS 方式                             |
| 1   | 想定干渉距離   | 10m 以下                               |
| ■■■ | 周波数変更の可否 | 全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避不可であることを意味する。 |

- ・本機は日本国内でのみ使用可能です。海外では電波規格が異なるため、使用できません。

# 目次

|                                 |    |
|---------------------------------|----|
| 商標について .....                    | 1  |
| 正しく安全にお使い頂くために .....            | 2  |
| 必ずお守りください.....                  | 3  |
| レーザー安全基準について.....               | 8  |
| レーザーに関する警告ラベル.....              | 8  |
| 液晶画面について.....                   | 9  |
| 電波に関する注意.....                   | 9  |
| 目次 .....                        | 11 |
| マニュアルの構成.....                   | 17 |
| ■本体マニュアル.....                   | 17 |
| ■関連機器マニュアル.....                 | 17 |
| 本書の見方 .....                     | 18 |
| ■本書の構成.....                     | 18 |
| ■表記上の注意.....                    | 19 |
| システム体系 .....                    | 20 |
| ■製品構成.....                      | 20 |
| ■WLAN 通信システム構成 .....            | 21 |
| ■Bluetooth 通信システム構成 .....       | 22 |
| <br>第 1 章   ハードウェア              |    |
| 1-1   製品について .....              | 24 |
| 1-1-1   同梱品の確認.....             | 24 |
| 1-1-2   別売品.....                | 25 |
| 1-1-3   各部の名称と機能 .....          | 26 |
| ■LED 表示 .....                   | 27 |
| ■操作キーの名称.....                   | 28 |
| ■液晶画面ステータスバー .....              | 29 |
| 1-2   本体の使い方 .....              | 30 |
| 1-2-1   ハンドストラップの取付け .....      | 30 |
| 1-2-2   バッテリーパックの取扱い .....      | 31 |
| ■バッテリーパックの取付け.....              | 31 |
| ■バッテリーパックの取外し.....              | 32 |
| 1-2-3   バッテリーパックの充電.....        | 34 |
| ■本体充電.....                      | 35 |
| ■バッテリーパック充電.....                | 36 |
| 1-2-4   バッテリーパックの残量表示とアラーム..... | 38 |
| ■バッテリーパックの残量表示.....             | 38 |

|                         |                                               |           |
|-------------------------|-----------------------------------------------|-----------|
| 1-2-5                   | バックアップ用電池.....                                | 39        |
| ■                       | バックアップ用電池の充電.....                             | 39        |
| ■                       | メモリのバックアップ.....                               | 39        |
| 1-2-6                   | バッテリーパックの長期保管.....                            | 40        |
| <b>1-3</b>              | <b>通信の種類.....</b>                             | <b>41</b> |
| ■                       | WLAN 通信.....                                  | 41        |
| ■                       | Bluetooth 通信.....                             | 42        |
| <b>1-4</b>              | <b>基本的な使い方.....</b>                           | <b>43</b> |
| 1-4-1                   | 電源の ON/OFF.....                               | 43        |
| 1-4-2                   | バーコードの読取りかた.....                              | 44        |
| ■                       | 読取りかた.....                                    | 44        |
| 1-4-3                   | 使用時に役立つ機能.....                                | 45        |
| ■                       | システムメニューの強制起動.....                            | 45        |
| ■                       | 液晶画面のバックライト輝度設定.....                          | 45        |
| ■                       | ブザー音量の調整.....                                 | 45        |
| ■                       | オートパワーオフ（自動的に電源 OFF）.....                     | 45        |
| <b>1-5</b>              | <b>お手入れのしかた.....</b>                          | <b>46</b> |
| <br><b>第 2 章 ソフトウェア</b> |                                               |           |
| <b>2-1</b>              | <b>ソフトウェアについて.....</b>                        | <b>48</b> |
| 2-1-1                   | データについて.....                                  | 48        |
| ■                       | ドライブの構成.....                                  | 48        |
| ■                       | ファイル名について.....                                | 50        |
| ■                       | 拡張子について.....                                  | 50        |
| ■                       | システムやアプリケーションソフトが作成するファイル.....                | 51        |
| <b>2-2</b>              | <b>アプリケーションソフトの作成.....</b>                    | <b>52</b> |
| ■                       | 周辺ソフトウェア.....                                 | 52        |
| ■                       | 動作環境.....                                     | 53        |
| <b>2-3</b>              | <b>WLAN 通信環境の構築.....</b>                      | <b>54</b> |
| 2-3-1                   | パソコン側の準備.....                                 | 54        |
| 2-3-2                   | 本製品側の準備.....                                  | 55        |
| ■                       | 設定ウィザードによる WLAN 通信設定.....                     | 55        |
| ■                       | システムメニューでの WLAN 通信設定.....                     | 58        |
| ■                       | DHCP を使ってパソコンから設定.....                        | 59        |
| <b>2-4</b>              | <b>WLAN 通信によるアプリケーションソフトのダウンロード.....</b>      | <b>60</b> |
| <b>2-5</b>              | <b>Bluetooth 通信環境の構築.....</b>                 | <b>62</b> |
| 2-5-1                   | パソコン側の準備.....                                 | 62        |
| ■                       | COM ポートの確認.....                               | 62        |
| 2-5-2                   | 本製品側の準備.....                                  | 62        |
| <b>2-6</b>              | <b>Bluetooth 通信によるアプリケーションソフトのダウンロード.....</b> | <b>63</b> |

|                               |           |
|-------------------------------|-----------|
| <b>2-7 アプリケーションソフトの実行方法</b>   | <b>66</b> |
| ■ファイルリストから選択して実行              | 66        |
| ■起動時に自動実行                     | 68        |
| <b>第3章 システムメニュー</b>           |           |
| <b>3-1 システムメニューの使い方</b>       | <b>70</b> |
| 3-1-1 操作キー                    | 70        |
| ■キーの文字割当て一覧                   | 71        |
| 3-1-2 システムメニューの起動             | 72        |
| 3-1-3 初めてシステムメニューを起動する時       | 72        |
| 3-1-4 システムメニューの操作方法           | 73        |
| ■設定項目の選択                      | 73        |
| ■キーでデータを入力する                  | 74        |
| ■その他の操作                       | 76        |
| ■バーコードでデータを入力する               | 77        |
| <b>3-2 システムメニュー一覧</b>         | <b>78</b> |
| <b>3-3 システム：快適にご使用頂くための設定</b> | <b>80</b> |
| 3-3-1 自動実行：アプリケーションソフトの自動実行   | 81        |
| 3-3-2 時計：時刻の確認                | 82        |
| ■現在の時刻                        | 82        |
| 3-3-3 パスワード：パスワードの設定・解除       | 83        |
| ■設定：パスワードの設定                  | 84        |
| ■解除：パスワードの解除                  | 84        |
| 3-3-4 オートパワーオフ：自動的に電源 OFF     | 85        |
| <b>3-4 WLAN：WLAN 通信の設定</b>    | <b>86</b> |
| 3-4-1 SSID：SSID の設定           | 86        |
| 3-4-2 ローミングレベル：ローミングレベルの設定    | 87        |
| 3-4-3 省電力モード：省電力モードの ON/OFF   | 87        |
| 3-4-4 セキュリティ：WLAN 通信のセキュリティ設定 | 88        |
| ■暗号化                          | 88        |
| ■認証                           | 93        |
| ■注意表示                         | 93        |
| 3-4-5 詳細設定：WLAN 通信に関する詳細な設定   | 94        |
| 3-4-6 MAC アドレス：MAC アドレスの表示    | 96        |
| <b>3-5 ネットワーク：ネットワーク接続の設定</b> | <b>97</b> |
| 3-5-1 TCP/IP：TCP/IP の設定       | 97        |
| 3-5-2 DHCP：DHCP の設定           | 99        |
| ■スタートアップの種類                   | 99        |
| ■更新禁止項目                       | 100       |
| ■サーバポート番号                     | 100       |

|                                                 |            |
|-------------------------------------------------|------------|
| 3-5-3 FTP : FTP の設定 .....                       | 101        |
| ■サーバアドレス.....                                   | 101        |
| ■ユーザ名.....                                      | 102        |
| ■パスワード.....                                     | 102        |
| ■詳細設定.....                                      | 103        |
| 3-5-4 DNS : DNS サーバの設定 .....                    | 104        |
| ■プライマリ.....                                     | 105        |
| ■セカンダリ.....                                     | 105        |
| ■詳細設定.....                                      | 106        |
| 3-5-5 SNMP : SNMP の設定 .....                     | 106        |
| ■コミュニティ (R/Only) .....                          | 107        |
| ■コミュニティ (R/W) .....                             | 107        |
| ■詳細設定.....                                      | 108        |
| <b>3-6 受信 : WLAN/Bluetooth 通信でファイルを受信 .....</b> | <b>109</b> |
| 3-6-1 受信 : WLAN/Bluetooth 通信でファイルを受信 .....      | 109        |
| ■ファイルの受信.....                                   | 110        |
| <b>3-7 ファイル : ファイルの実行・送信・削除など .....</b>         | <b>112</b> |
| ■実行 : アプリケーションソフトの実行.....                       | 114        |
| ■閲覧 : 画像データの表示.....                             | 114        |
| ■情報 : ファイル詳細情報を表示.....                          | 115        |
| ■送信 : ファイルをパソコンや他の端末に送信.....                    | 115        |
| ■削除 : ファイルを削除.....                              | 117        |
| ■全てチェックをつける : 全てのファイルを選択.....                   | 118        |
| ■全てチェックを外す : 全てのファイルの選択を外す .....                | 118        |
| <b>3-8 端末 ID : 端末識別用 ID を設定 .....</b>           | <b>119</b> |
| <b>3-9 デバイス : ハードウェアの機能を設定 .....</b>            | <b>120</b> |
| 3-9-1 バーコード : バーコードスキャナの設定.....                 | 120        |
| ■トリガモード.....                                    | 121        |
| ■デコードレベル.....                                   | 122        |
| ■フォーカス.....                                     | 123        |
| 3-9-2 Bluetooth : Bluetooth の登録設定.....          | 124        |
| ■ローカルデバイス.....                                  | 124        |
| ■リモートデバイス.....                                  | 125        |
| 3-9-3 音/バイブ : 音量・LED・バイブレーションの設定 .....          | 128        |
| ■ボリューム.....                                     | 128        |
| ■インジケータ.....                                    | 129        |
| ■キークリック音.....                                   | 132        |
| <b>3-10 メンテナンス : 基本情報とメンテナンスの設定 .....</b>       | <b>133</b> |
| 3-10-1 システムバージョン : OS バージョンの確認.....             | 133        |
| 3-10-2 初期化 : レジストリ/ドライブの初期化.....                | 134        |

|                            |                                  |            |
|----------------------------|----------------------------------|------------|
| 3-10-3                     | ドライブ：ドライブ情報の表示.....              | 136        |
| 3-10-4                     | ウィザード：簡単に通信設定ができる画面の起動 .....     | 137        |
| <b>3-11</b>                | <b>テスト：ハードウェアデバイスのテスト.....</b>   | <b>138</b> |
| 3-11-1                     | WLAN：WLAN 通信のテスト.....            | 138        |
| ■                          | 条件設定.....                        | 139        |
| ■                          | 無線/ping テスト.....                 | 140        |
| 3-11-2                     | Bluetooth：Bluetooth 通信のテスト.....  | 141        |
| 3-11-3                     | バーコード .....                      | 142        |
| ■                          | バーコードオプション.....                  | 142        |
| 3-11-4                     | 画面：液晶画面のテスト.....                 | 144        |
| 3-11-5                     | キー：キー動作とインジケータのテスト .....         | 145        |
| <br><b>第 4 章 仕様</b>        |                                  |            |
| <b>4-1</b>                 | <b>製品の仕様 .....</b>               | <b>147</b> |
| 4-1-1                      | PGR-120-G ワイヤレス二次元ハンディターミナル..... | 147        |
| ■                          | 外形寸法.....                        | 150        |
| 4-1-2                      | QC-008 シングルチャージャ.....            | 151        |
| 4-1-3                      | QC-009 バッテリーパック充電器.....          | 151        |
| <b>4-2</b>                 | <b>読取仕様.....</b>                 | <b>152</b> |
| 4-2-1                      | エイミング.....                       | 152        |
| 4-2-2                      | 読取深度.....                        | 153        |
| 4-2-3                      | バーコードの傾きと読取り可能角度 .....           | 154        |
| ■                          | スキュー.....                        | 154        |
| ■                          | ピッチ.....                         | 155        |
| ■                          | チルト.....                         | 155        |
| ■                          | 読取り範囲.....                       | 156        |
| <b>4-3</b>                 | <b>画面出力キャラクタ .....</b>           | <b>157</b> |
| <b>4-4</b>                 | <b>レジストリ .....</b>               | <b>158</b> |
| <br><b>第 5 章 よくある質問と回答</b> |                                  |            |
| <b>5-1</b>                 | <b>よくある質問と回答 .....</b>           | <b>160</b> |
| <b>5-2</b>                 | <b>読取りが困難なバーコード .....</b>        | <b>166</b> |
| <b>製品保証.....</b>           |                                  | <b>168</b> |
| ■                          | 製品保証について.....                    | 168        |
| <b>消耗品.....</b>            |                                  | <b>169</b> |
| ■                          | 保守について.....                      | 169        |
| ■                          | 修理について.....                      | 169        |
| ■                          | 消耗品.....                         | 169        |



## 付録

|      |                 |     |
|------|-----------------|-----|
| 付録-1 | 出荷時設定一覧 .....   | 171 |
| 付録-2 | サンプルバーコード ..... | 174 |
| 付録-3 | 用語集 .....       | 180 |

# マニュアルの構成

## ■ 本体マニュアル

| マニュアル                                     | 内容                                                                |
|-------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|
| ワイヤレス二次元ハンディターミナル<br>PGR-120-G ユーザーズマニュアル | 本書です。<br>使用上の注意、各部の名称、操作方法、システムメニュー操作法、仕様などについて説明しています。           |
| ワイヤレス二次元ハンディターミナル<br>PGR-120-G クイックマニュアル  | PGR-120-G の早見マニュアルです。<br>各部の名称、基本操作、環境の設定方法など基本的な使用方法に絞って説明しています。 |

## ■ 関連機器マニュアル

| マニュアル                                | 内容                                                                                 |
|--------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| シングルチャージャ<br>QC-008 ユーザーズマニュアル       | シングルチャージャのマニュアルです。<br>充電方法、仕様について説明しています。                                          |
| バッテリーパック充電器<br>QC-009 ユーザーズマニュアル     | バッテリーパック充電器のマニュアルです。<br>充電方法、仕様について説明しています。                                        |
| バッテリーパック<br>BP-002 取扱説明書             | リチウムイオン二次電池のマニュアルです。                                                               |
| 保護カバー<br>DC-008 取扱説明書                | 本体をほこり、傷から守る保護カバーのマニュアルです。                                                         |
| WebGlider PROGEAR<br>WGE-001 マニュアル * | WebGlider PROGEAR のマニュアルです。製品インストール後、オンラインヘルプで参照することができます。                         |
| WebGlider 統合サーバ<br>WGS-001 マニュアル *   | WebGlider 統合サーバのマニュアルです。製品インストール後、オンラインヘルプで参照することができます。                            |
| WLF-003-BT<br>BluePorter-V マニュアル *   | BluePorter-V のマニュアルです。製品インストール後、オンラインヘルプで参照することができます。<br>Bluetooth 通信アダプタが付属しています。 |

\* 各ソフトウェアの中に組込まれたオンラインヘルプです。

# 本書の見方

## ■本書の構成

本書は、次の内容で構成されています。

|                               |                                                                |
|-------------------------------|----------------------------------------------------------------|
| <a href="#">システム体系</a>        | 本製品のシステム構成の全体を説明しています。製品のご理解にお役立てください。                         |
| <a href="#">第1章 ハードウェア</a>    | 本製品各部の使い方、バッテリーパックの取付け・充電、バーコードの読取りかたなど、ハードウェアの使い方について説明しています。 |
| <a href="#">第2章 ソフトウェア</a>    | アプリケーションソフトを作成するための環境、作成方法、インストール手順、実行方法について説明しています。           |
| <a href="#">第3章 システムメニュー</a>  | 基本的な機能の操作方法とシステムメニューについて説明しています。                               |
| <a href="#">第4章 仕様</a>        | 製品の仕様一覧です。                                                     |
| <a href="#">第5章 よくある質問と回答</a> | よくある質問やトラブル、それらを解決するために確認する必要がある項目について説明しています。                 |
| <a href="#">製品保証</a>          | 製品保証およびユーザー登録方法について説明しています                                     |
| <a href="#">消耗品</a>           | 消耗品について説明しています。                                                |
| <a href="#">付録</a>            | 出荷時設定、サンプルバーコードが記載されています。                                      |

## ■表記上の注意

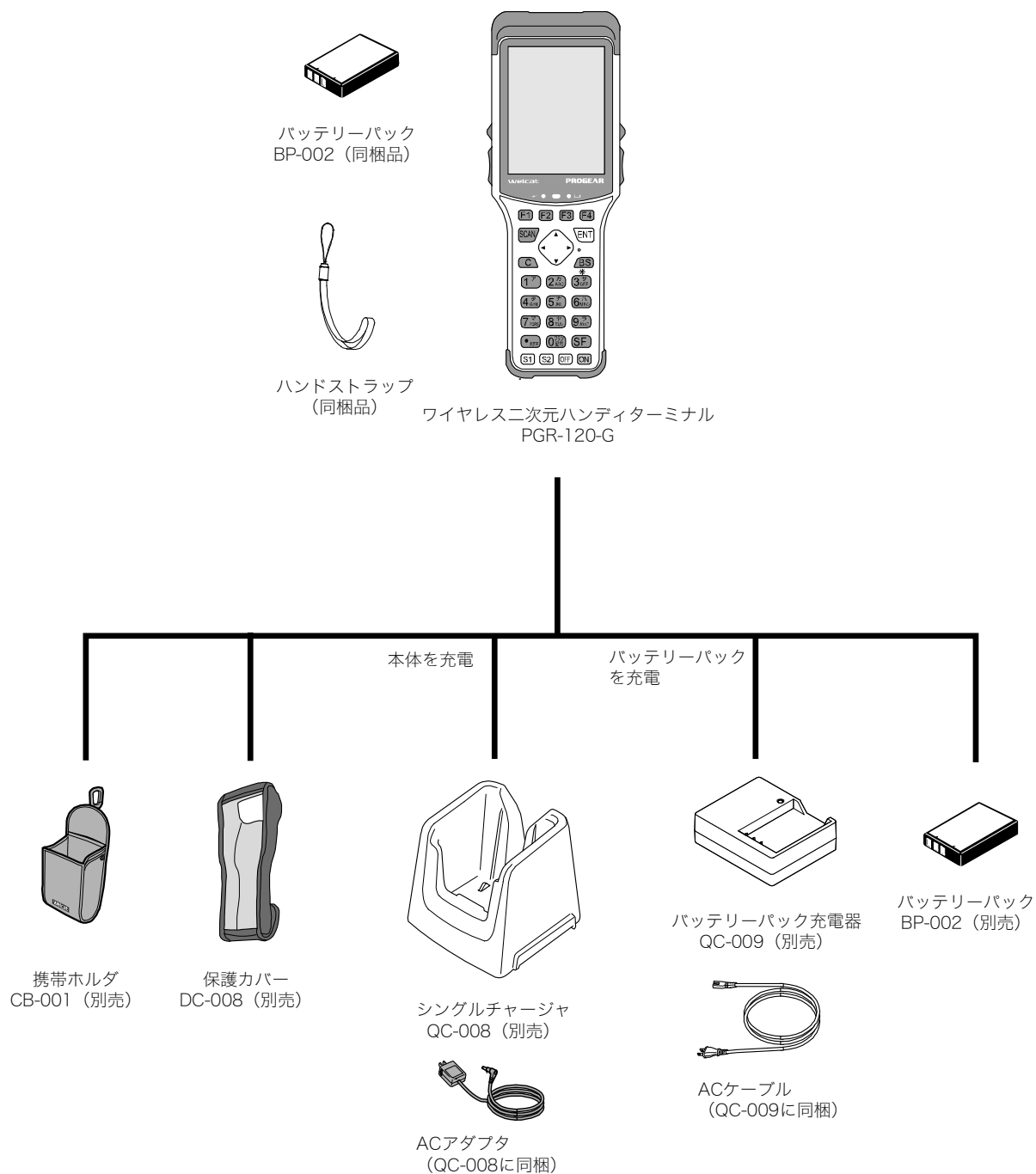
本書では、次の表記が使用されています。

|                                                                                     |                                                                                            |
|-------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
|    | 守って頂きたい事項、操作上注意を要する事項を記載しています。この記載をよくお読みになり、必ず指示に従ってください。                                  |
|    | 役立つ情報やヒントとなる情報を記載しています。                                                                    |
|    | 関連する情報が記載されているページや他のマニュアルを紹介しています。                                                         |
| 本製品/本体                                                                              | PGR-120-G 本体のことです。                                                                         |
| 【 】キー                                                                               | 操作パネルのキー名称は【 】で記載しています。（例）【ON】キー                                                           |
| [ ]                                                                                 | 画面に表示される項目は[ ]で記載しています。（例）[システムメニュー]                                                       |
|    | システムメニューの操作方法を説明しています。                                                                     |
|    | システムメニューの一部の操作では、実行時のバッテリーパック残量が規定値（操作により異なります）を下回る場合、操作が制限されます。それらの操作説明には、このマークを記載しています。  |
|  | 一部のシステムメニューの操作は、DHCP クライアント機能を使ってパソコンから一括して設定することができます。DHCP クライアント機能の操作説明には、このマークを記載しています。 |

# システム体系

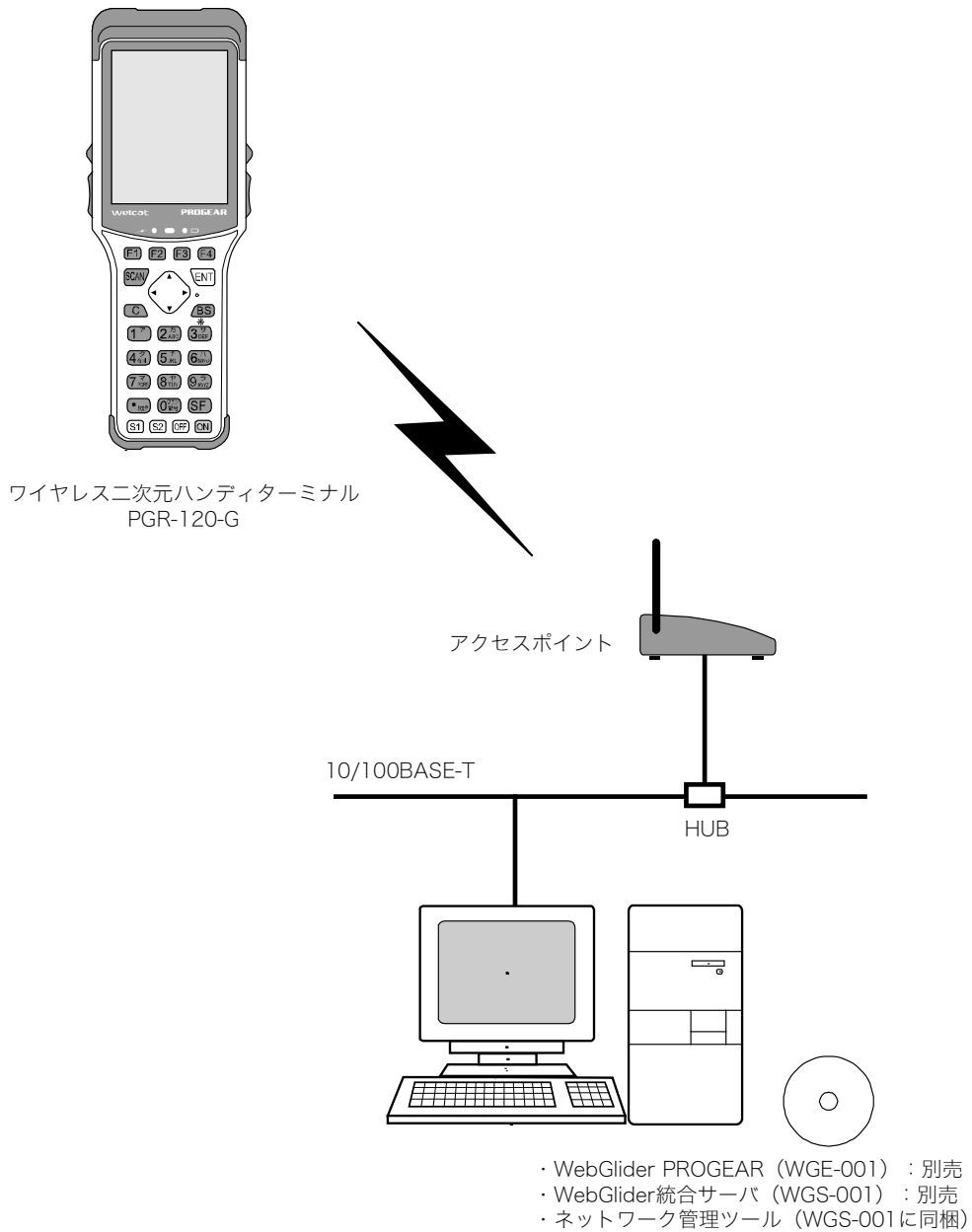
## ■製品構成

本製品を使用するための基本的な製品構成です。必要に応じてご用意ください。



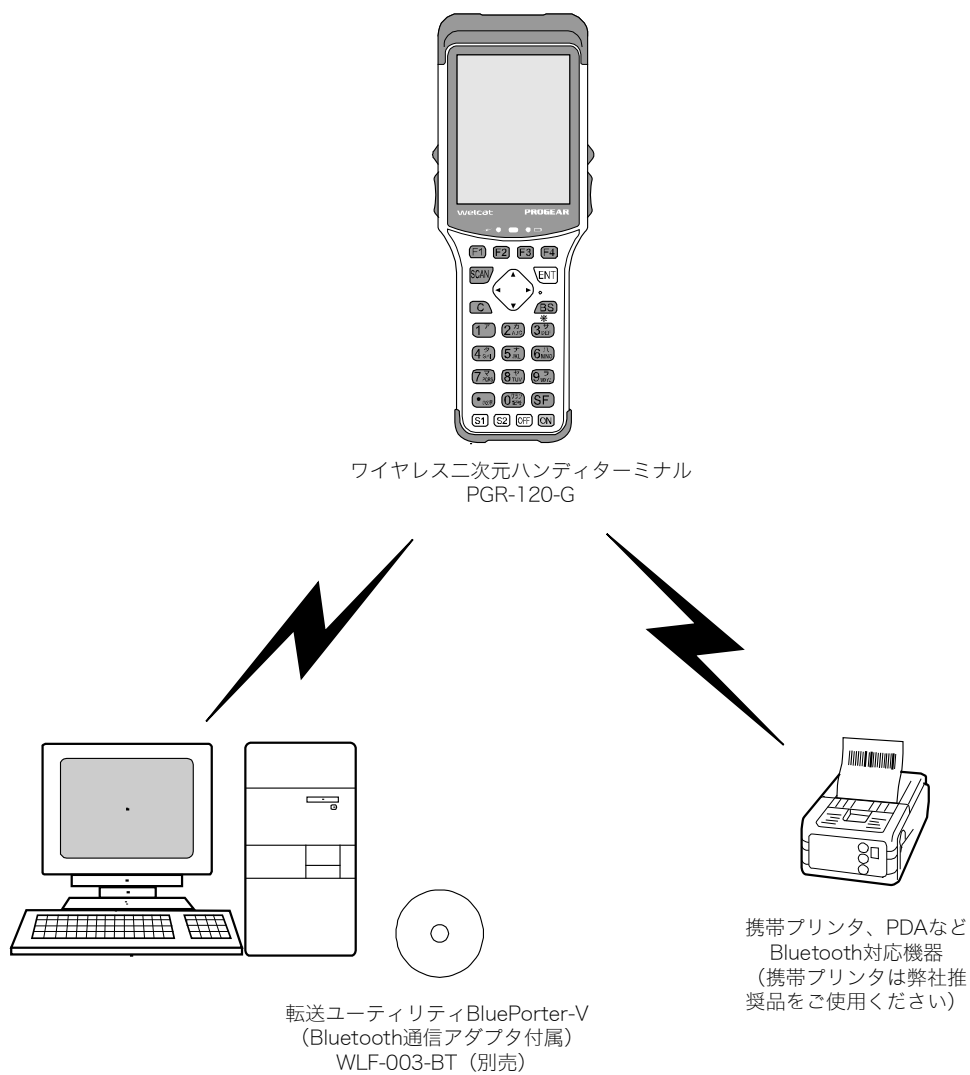
## ■WLAN 通信システム構成

WLAN 通信を使ってパソコンと通信する場合のシステム構成です。



## ■Bluetooth 通信システム構成

Bluetooth 通信を使って他の機器と通信する場合のシステム構成です。



# 第1章

## ハードウェア

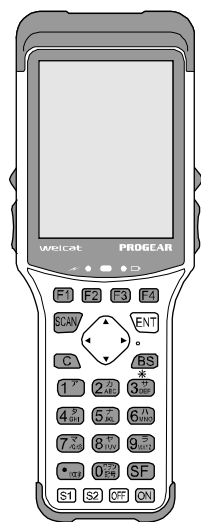


## 1-1 製品について

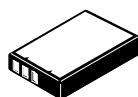
### 1-1-1 同梱品の確認

本製品には、次の品が同梱されています。全てが揃っていることをご確認ください。

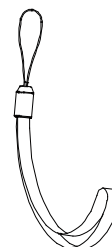
もし不足品、不良品等ありましたら、弊社までご連絡ください。



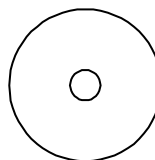
ワイヤレス二次元ハンディターミナル  
PGR-120-G



バッテリーパック  
BP-002



ハンドストラップ



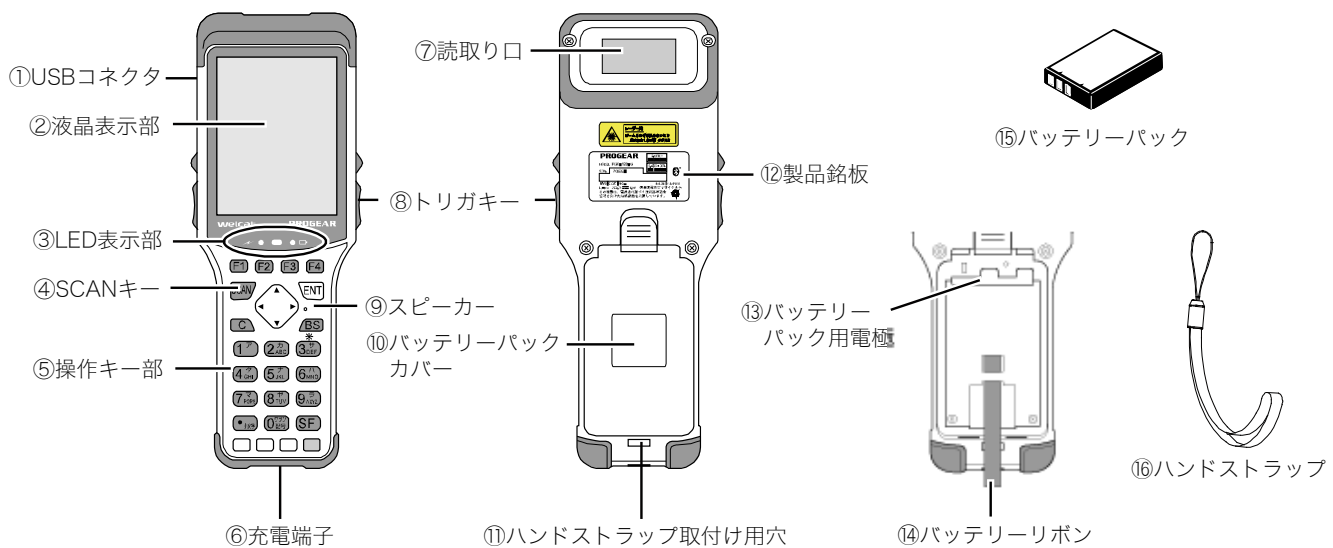
ユーザーズマニュアル  
CD-ROM

## 1-1-2 別売品

本製品には、以下の関連製品があります。必要に応じてご用意ください。

| 製品名                                        | 型番         | 説明                                                                                                                                                                                                                   |
|--------------------------------------------|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| バッテリーパック                                   | BP-002     | 本製品に同梱されているバッテリーパックと同一の、充電式リチウムイオン二次電池です。                                                                                                                                                                            |
| 保護カバー                                      | DC-008     | 傷やほこりから本体を保護するためのカバーです。                                                                                                                                                                                              |
| シングルチャージャ                                  | QC-008     | 本体充電をする充電器です。<br>本製品 1 台を充電できます。                                                                                                                                                                                     |
| バッテリーパック充電器                                | QC-009     | バッテリーパック単体を充電する充電器です。<br>バッテリーパック 1 個を充電できます。                                                                                                                                                                        |
| 携帯ホルダー                                     | CB-001     | 本製品を収納して、腰に装着するホルダーです。                                                                                                                                                                                               |
| WebGlider PROGEAR                          | WGE-001    | パソコンとのデータ通信や、WebGlider PROGEAR ブラウザを使ってシステム構築をする場合に必要です。                                                                                                                                                             |
| WebGlider 統合サーバ                            | WGS-001    | PROGEAR シリーズ本体と HTTP 通信するシステムを構築する際に必要です。<br><br>WebGlider 統合サーバと通信を行うためには、本製品に WebGlider PROGEAR ブラウザをインストールする必要があります。<br><br>WebGlider 統合サーバの CD-ROM には、ネットワーク管理ツールが含まれています。ネットワーク管理ツールは、ファイル転送や DHCP 設定を行う際に必要です。 |
| 転送ユーティリティ<br>BluePorter-V<br>Bluetooth パック | WLF-003-BT | パソコンとファイル送受信をする転送ユーティリティに Bluetooth 通信アダプタが付属しています。<br><br>Bluetooth 通信アダプタを使用して、ファイル送受信ができます。                                                                                                                       |

### 1-1-3 各部の名称と機能

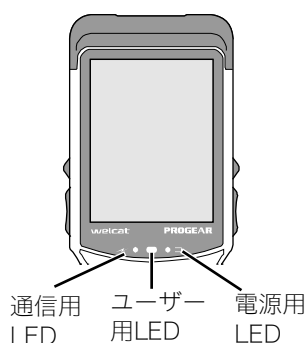


| 番号 | 名称                | 説明                                                                        |
|----|-------------------|---------------------------------------------------------------------------|
| ①  | USB コネクタ          | メンテナンス時に使用します。                                                            |
| ②  | 液晶表示部             | 文字、画像を表示します。                                                              |
| ③  | LED 表示部           | 通信用、電源用、ユーザー用の 3 種類の LED が情報を表示します（次項「 <b>LED 表示</b> 」参照）。                |
| ④  | SCAN キー           | バーコードを読取る時に押します。または、システムメニューを強制的に起動する時に使用します（「1-4-3 使用時に役立つ機能」（P.45）を参照）。 |
| ⑤  | 操作キー部             | 各キーの名称は「 <b>操作キーの名称</b> 」（P.28）、各キーの動きは、「3-1-1 操作キー」（P.70）を参照してください。      |
| ⑥  | 充電端子              | シングルチャージャの充電用端子です。                                                        |
| ⑦  | 読取り口              | バーコードの読取り口です。<br><b>※レーザーが放射されるので、のぞき込まないでください。</b>                       |
| ⑧  | トリガキー             | バーコードを読取る時に押します。                                                          |
| ⑨  | スピーカー             | ブザー音などを鳴らします。                                                             |
| ⑩  | バッテリーパックカ<br>バー   | バッテリーパック収納部のカバーです。バッテリーパックカバーが閉まっていることを検知する機能があるため、正しく取付けないと本製品は起動しません。   |
| ⑪  | ハンドストラップ取<br>付け用穴 | ハンドストラップを取付けます。                                                           |

| 番号 | 名称              | 説明                                            |
|----|-----------------|-----------------------------------------------|
| ⑫  | 製品銘板            | シリアル番号が記載されています。<br>問合せ等の際は、このシリアル番号をご連絡ください。 |
| ⑬  | バッテリーパック用<br>電極 | バッテリーパック用の電極です。                               |
| ⑭  | バッテリーリボン        | バッテリーパックを取出す時に使用します。                          |
| ⑮  | バッテリーパック        | 同梱のリチウムイオン二次電池です。                             |
| ⑯  | ハンドストラップ        | ⑪ハンドストラップ取付け用穴に装着して使用します。                     |

## ■LED 表示

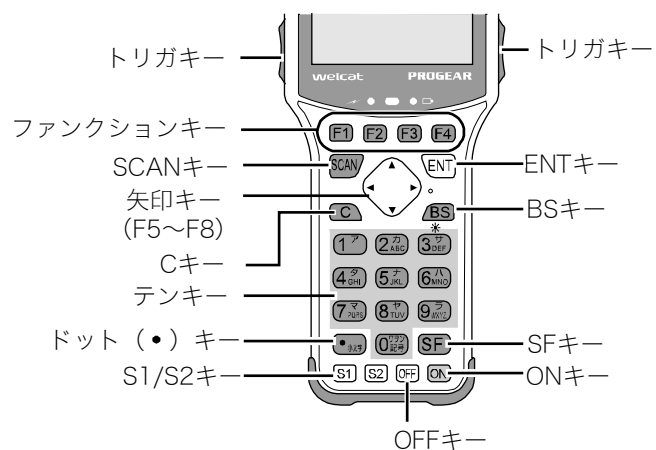
各 LED 表示は、次のような動作状態を表します。



|           |                                                                                                                                           |
|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 通信用 LED   | 通信状態を表示します。<br>緑色：WLAN 受信時に点灯します。<br>橙色：WLAN 送信時に点灯します。                                                                                   |
| ユーザー用 LED | ユーザーがアプリケーションソフトで設定可能な LED です。<br>緑色：点灯/点滅/消灯をアプリケーションソフトで設定できます。<br>赤色：点灯/点滅/消灯をアプリケーションソフトで設定できます。<br>橙色：点灯/点滅/消灯をアプリケーションソフトで設定できます。   |
| 電源用 LED   | 充電状態を表示します。<br>緑色：シングルチャージャ使用時、充電が完了した時に点灯します。<br>赤色：バッテリーパック電圧が低下した時に点滅します。<br>シングルチャージャを使用して充電中に点灯します。<br>橙色：シングルチャージャを使用して予備充電中に点灯します。 |

## ■操作キーの名称

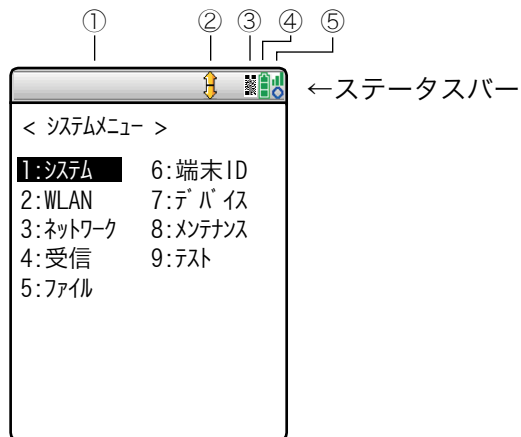
操作キーの名称は、次のようになっています。



システムメニュー操作時のキーの働きは、「3-1-1 操作キー」(P.[70](#))を参照してください。

## ■液晶画面ステータスバー

液晶画面上部には、本製品の状態を示すステータスバーがあります。



ステータスバーには、次の情報が表示されます。

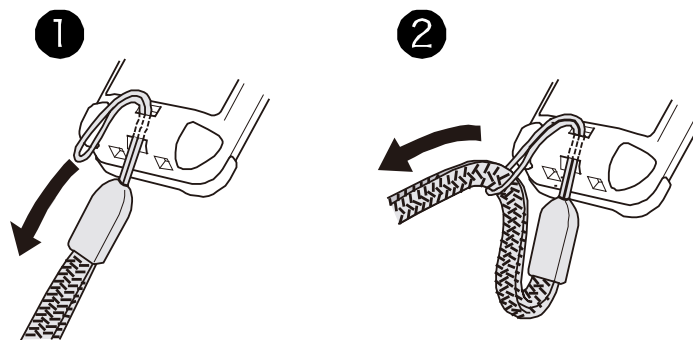
| No. | 名称             | アイコン                                                                                | 説明                                                                             |                     |
|-----|----------------|-------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|---------------------|
| ①   | 文字列表示領域        |                                                                                     | アプリケーションソフトによっては、文字列が表示されます。                                                   |                     |
| ②   | アプリステータス       |  | アプリケーションソフトによっては、上下にスクロール可能な時に表示されます。                                          |                     |
|     |                |  | 文字入力時、英字入力が必要な時に表示されます。                                                        |                     |
| ③   | スキャナ/Bluetooth |  | オートモード                                                                         | スキャナ使用が可能な時に表示されます。 |
|     |                |  | スタンダードモード                                                                      |                     |
|     |                |  | ファインモード                                                                        |                     |
|     |                |  | Bluetooth の接続中に表示されます。                                                         |                     |
|     |                |  | Bluetooth データの送受信中に点滅します。                                                      |                     |
| ④   | バッテリーパック       |  | バッテリーパック残量を表示します。バッテリーパック残量が少なくなるに従って本数が減っていきます。<br>バッテリーパック残量がわずかになった時は点滅します。 |                     |
|     |                |  | 充電中に表示されます。                                                                    |                     |
| ⑤   | WLAN アンテナバー    |  | WLAN 通信中の電波強度を表示します。電波強度が弱くなるに従って本数が減っていきます。                                   |                     |
|     |                |  | 圏外に移動した時に表示されます。                                                               |                     |

## 1-2 本体の使い方

### 1-2-1 ハンドストラップの取付け

ハンドストラップの取付け用穴は、背面の下部にあります。

- ① 細いほうのひもを、取付け用穴に通します。
- ② 太いほうのひもを、取付け用穴に通した細いひもに通して固定します。

**注意**

- ・ ハンドストラップを持って本体を振り回さないでください。細いひもの部分が摩耗し、切れる恐れがあります。
- ・ ハンドストラップに腕を通した状態で本体が可動機器などに挟まれるなどした場合、手を引き込まれ、思わぬ事故の原因となりますので十分注意してください。

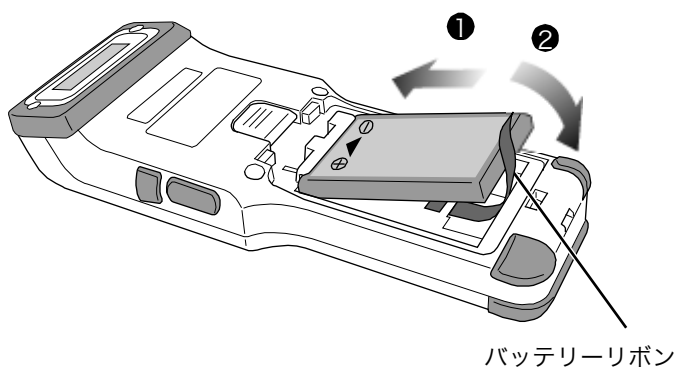
## 1-2-2 バッテリーパックの取扱い

### ■バッテリーパックの取付け

**注意**

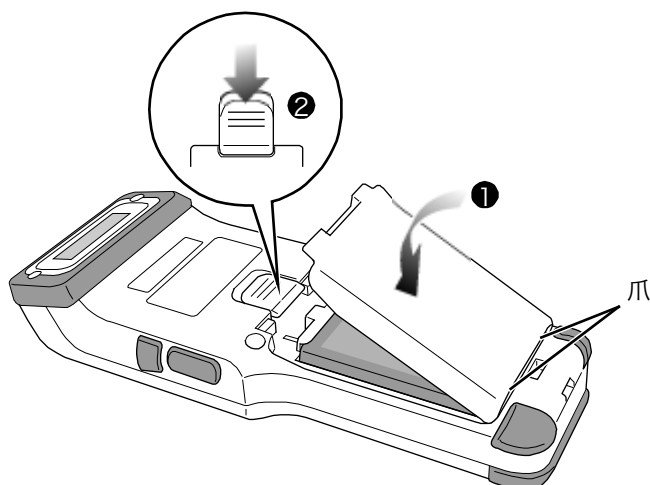
- ・指定されたバッテリーパック以外は使用しないでください。
- ・初めて使用する時は、必ず充電してからお使いください。

- ①バッテリーパックのラベル面を上にして、バッテリーパックの▲マークを電極側へ押し込みます。必ずバッテリーリボンがバッテリーパックの上側に出て、バッテリーリボンにたわみがないよう、下図のように取付けます。



- ②バッテリーパックの端子とバッテリーパック用電極が正しく接触したことを確認し、反対側を押し込みます。

- ③バッテリーリボンがはみ出さないようにバッテリーパックカバーを閉じ、ロックレバーがカチッと音がるまで押し込みます。ロックレバーの下側に隙間がないことを確認してください。





- ・ロックレバーが完全に矢印方向（バッテリーパックの方向）に下がり、隙間がないことを確認してください。

ロックが不完全な場合、バッテリーパックが外れたり落下したりした時の破損の原因になります。

**注意**

- ・バッテリーパックカバーには、水の浸入を防ぐためのパッキンが取付けられています。装着する際は、パッキンが外れていないか、ゴミが付着していないか、バッテリーリボンを挟み込んでいないか確認してください。ゴミが付着している場合は、乾いた清潔な布などで拭き取ってください。

- ・電極を触ったり、引っ張ったりしないでください。ゴミが付着したり、変形による接触不良の原因になります。ゴミが付着したり、汚れたりした場合は清潔な乾いた布で清掃してください（「1-5 お手入れのしかた」(P.46) 参照）。

- ・必ずバッテリーパックカバーを取付けた状態で使用してください。バッテリーパックカバーが閉まっていることを検出する機能があります。正しく取付けないと、使用できません。

**■バッテリーパックの取外し**

バッテリーパックを本体から取外します。

**注意**

電源が完全に OFF になっていることを確認してから取外してください。

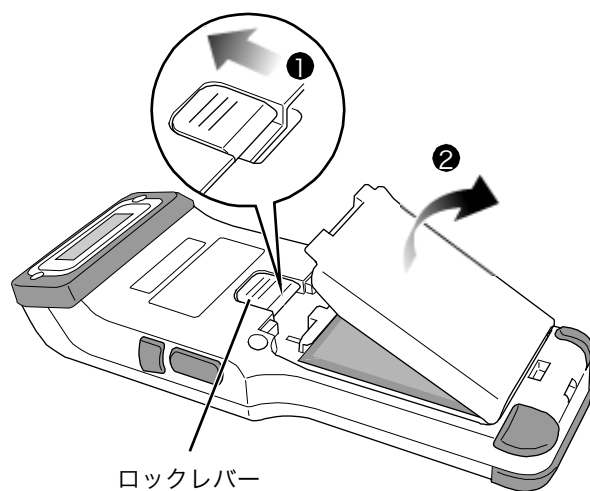
**注意**

- ・動作中にバッテリーパックが外れると、システム情報が消失します。システム情報が消失すると、次回の起動に時間がかかります。

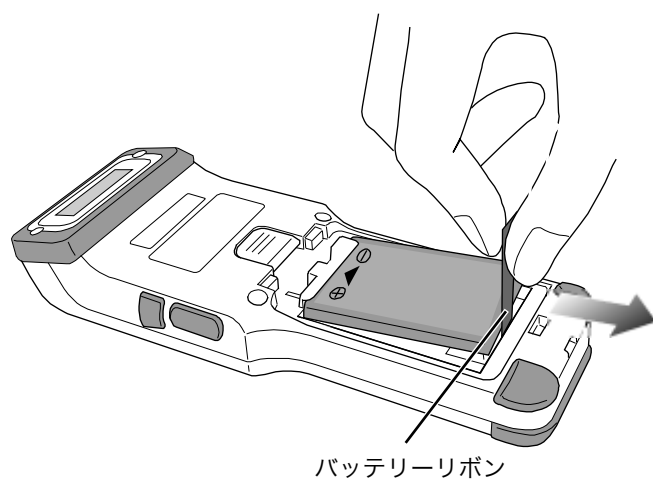
- ・ファイルの書込み中（データ交信中、ファイル受信、バックアップ中等）またはデフラグ中に、バッテリーパックを取外すと、ファイルが壊れる恐れがあります。ファイルを削除するか、パソコン等に転送してデータを復旧するなどの対応をしてください

①ロックレバーを矢印の方向（読取り口の方向）に動かし、ロックを解除します。

②バッテリーパックカバーをロックレバー側から手前に引いて外します。



③バッテリーリボンを持ち上げ、バッテリーパックを浮かして矢印の方向に取出します。



## 1-2-3 バッテリーパックの充電

本製品の充電には、専用の充電器（別売）を使用します。充電方法には、本体充電とバッテリーパック充電の2種類があります。

- ・本体充電：本体にバッテリーパックを装着した状態で充電
- ・バッテリーパック充電：バッテリーパック単体で充電

次の充電器を使用します。

- ・本体充電：シングルチャージャ（QC-008）
- ・バッテリーパック充電：バッテリーパック充電器（QC-009）

### 注意

充電は、0℃～40℃の室内で行ってください。これを超える温度範囲の場合、充電エラーになります。

充電エラーになっても、適正温度になると充電が再開されますが、故障の原因となりますので、0℃～40℃の範囲外では使用しないでください。

### 参考

充電しても起動しない、極端に短い時間でローバッテリーが発生するなどの場合は、以下のことが考えられます。

#### □0℃～40℃の範囲外での充電

- ・充電器に装着した時点で充電が開始されても、充電中に温度範囲を超えると、その時点で充電エラーとなり、充電を停止します。

また、0℃～40℃の温度範囲であっても、低温の場合は充電可能な容量が低下し、使用時間が短くなります。

- ・バッテリーパックの端子が正しく接触されていない場合や充電が規定時間を上回っても完了しない場合、またはバッテリーパックの電圧が異常な場合は、0℃～40℃の温度範囲であっても充電エラーになることがあります。

その場合は、直ちに充電を中止してください。本体の充電電極とバッテリーパックの端子を清掃しても充電エラーになる場合は、弊社にお問合せください。

#### □バッテリーパックの劣化

バッテリーパックは、充放電を繰り返すうちに劣化し、充電可能な容量が低下します。使用時間が短くなり運用に耐えられなくなった場合は、新しいバッテリーパックに交換してください。

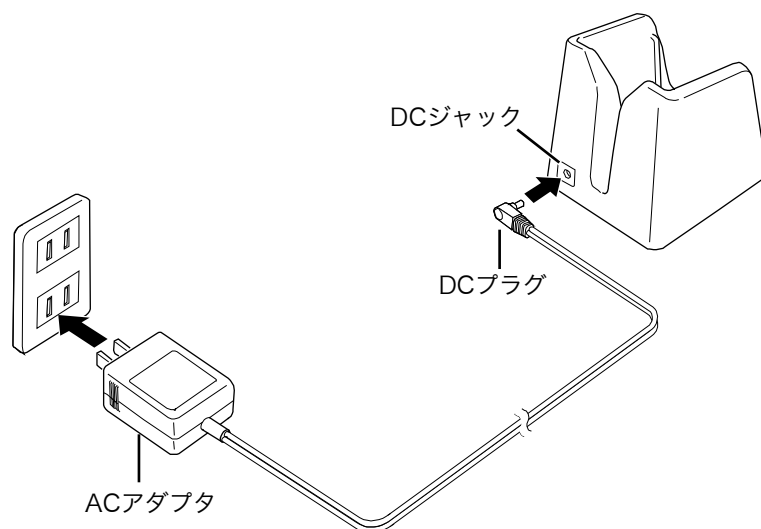
#### □充電電極の接触不良

バッテリーパックまたは本体の充電電極がゴミなどで汚れている場合は、接触不良により正常に充電できない場合があります。その場合は、清潔な布で拭き清掃してください。

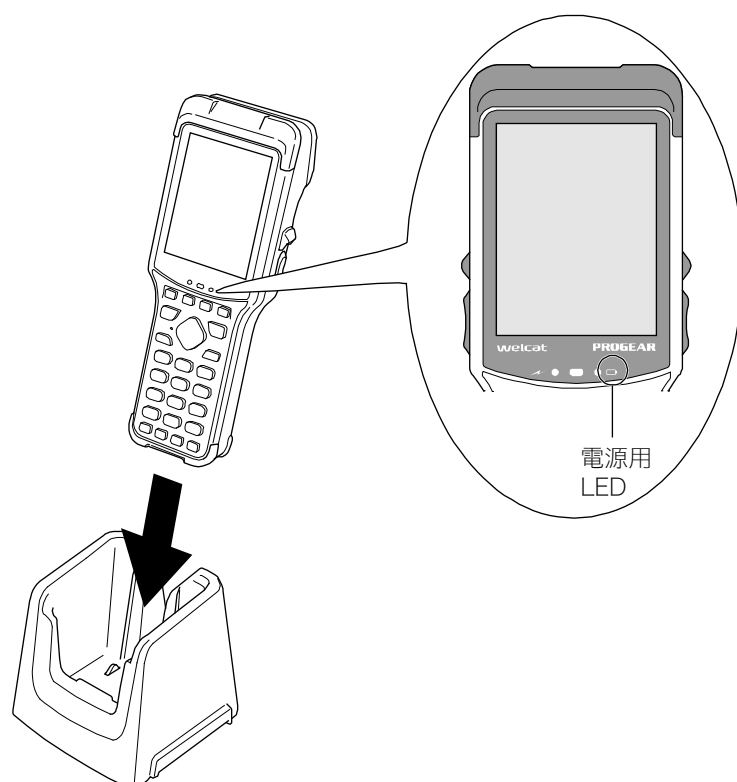
## ■本体充電

本体にバッテリーパックを取付けたまま、次の手順で充電します。

- ①本製品の電源を OFF にします。
- ②シングルチャージャの背面にある DC ジャックへ DC プラグを差込みます。  
AC アダプタをコンセントに接続します。



- ③本製品をシングルチャージャに装着します。



本製品の電源用 LED が点灯し、充電中であることを表示します。

電源用 LED が充電の状態を示します。

| 電源用 LED | 充電状態  |
|---------|-------|
| 橙色点灯    | 予備充電  |
| 赤色点灯    | 充電中   |
| 緑色点灯    | 充電完了  |
| 消灯      | 充電エラー |

### ●充電時間

充電時間は、約 4 時間です。

#### 注意

充電中は、【ON】キーを押して電源を ON しないでください。充電中に電源 ON すると、F ドライブのデータが壊れることがあります。

充電は、本製品の電源を OFF にしてから行ってください。充電エラーとなり、充電が停止することがあります。

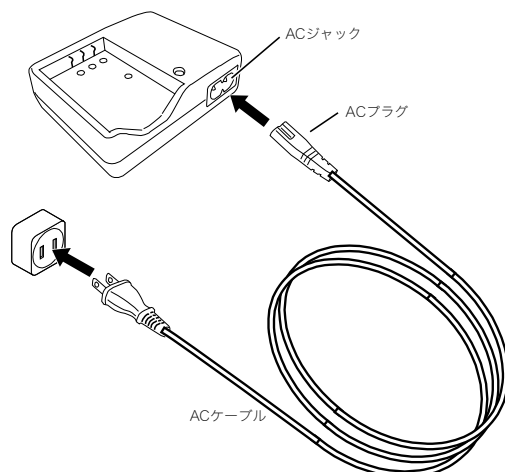
### ■バッテリーパック充電

本体からバッテリーパックを取外し、次の手順で充電します。

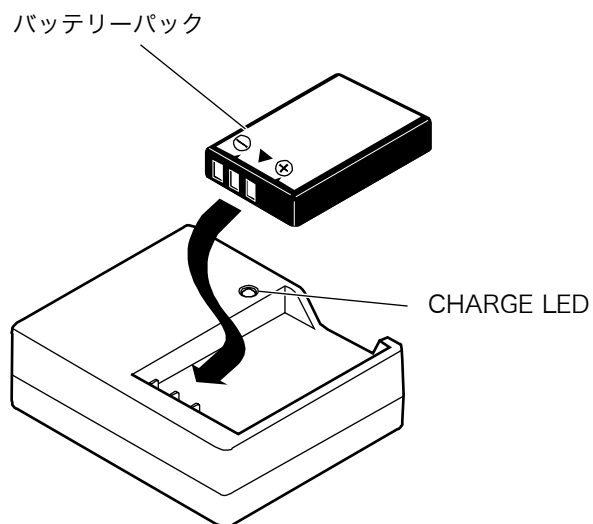
①本製品の電源を OFF にします。

②バッテリーパックを取出します（「■バッテリーパックの取外し」(P. 32) 参照）。

③バッテリーパック充電器の側面に AC ケーブルを取付け、AC ケーブルをコンセントに接続します。



④バッテリーパック充電器にバッテリーパックを取付けます。



バッテリーパックを取付けるとバッテリーパック充電器の CHARGE LED が点灯し、充電中であることを表示します。

CHARGE LED は以下の状態を示します。

| CHARGE LED | 充電状態  |
|------------|-------|
| 赤色点灯       | 充電中   |
| 緑色点灯       | 充電完了  |
| 消灯         | 充電エラー |
| 消灯         | 待機    |

### ●充電時間

充電時間は、約 3.5 時間です。

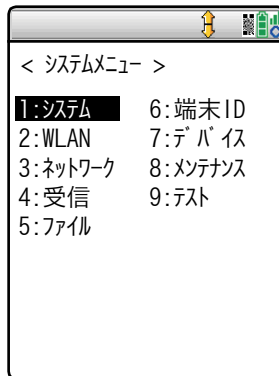
## 1-2-4 バッテリーパックの残量表示とアラーム

### ■バッテリーパックの残量表示

バッテリーパックの残量が少なくなると操作が制限され、その後、電源が OFF になります。

バッテリーパック残量は、液晶画面上部のステータスバーに表示されます。

バッテリーパック残量アイコン

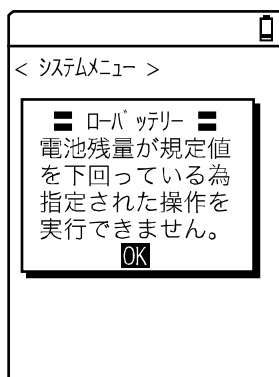


にバッテリーパック残量が表示されます。バッテリーパック残量アイコンが空（0 本）になった後、さらに電圧が低下すると、バッテリー残量アイコンが点滅します。

バッテリーパック残量がなくなると、強制的に電源が OFF になります。

### ●バッテリーパック残量が少ない場合の制限

システムメニューの一部の操作は、バッテリーパック残量アイコンが 1 本または 0 本以下（操作により異なる）になると、次の画面が表示され操作が制限されます。



本マニュアルでは、制限対象の操作には  が表示されています。

## 1-2-5 バックアップ用電池

本製品には、バッテリーパックを交換する直前のシステム情報を保存し、次に電源を入れた時に、保存されたシステム情報を読み込んで起動時間を短縮する機能（サスペンド）があります。この機能のために、本製品にはバックアップ用電池が内蔵されています。

本製品を初めてご使用になる前や、長期間使用しなかった後にご使用になる時は、次の方法でバックアップ用電池を充電してください。

### ■バックアップ用電池の充電

本製品には、システム情報をバックアップするためのバックアップ用電池が内蔵されています。次の方法で、バックアップ用電池を充電します。

- ①満充電されたバッテリーパックを用意します。
- ②本製品にバッテリーパックを装着すると、バックアップ用電池への充電が開始されます。  
バックアップ用電池が完全に消耗していた場合、充電には最低 24 時間かかります。その間、バッテリーパックを取外さないでください。

### ■メモリのバックアップ

#### ●バッテリーパックによるメモリバックアップ

|          |                                                                                   |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 使用バッテリー  | バッテリーパック                                                                          |
| 用途       | 本製品の動作                                                                            |
| 充電時間     | 専用充電器を使用します。本体充電時間は約 4 時間、バッテリーパックの充電時間は約 3.5 時間。                                 |
| バックアップ期間 | 満充電のバッテリーパックを装着した場合のデータ保存期間は、以下の通りです。<br>・システム情報のデータ：約 7 日                        |
| 使用上の注意   | S ドライブに作成したファイルは、バックアップされません。電源 OFF 時に全て消去されます。<br>重要なファイルは、終了時にサーバにアップロードしてください。 |



## ●バックアップ用電池によるメモリバックアップ

|          |                                                                               |
|----------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 使用バッテリー  | バックアップ用電池                                                                     |
| 用途       | 本製品内蔵のシステム情報の保持。                                                              |
| 充電時間     | 常温（25℃）の環境で、12 時間で約 70%、24 時間で約 100%充電できます。                                   |
| バックアップ期間 | 通常終了 <sup>※1</sup> 後にバッテリーパックを取外した場合のデータ保存期間は以下の通りです。<br>・システム情報：約 3 分        |
| 使用上の注意   | S ドライブに作成したファイルは、バックアップされません。電源 OFF 時に全て消去されます。重要なファイルは、終了時にサーバにアップロードしてください。 |

※1 通常終了：【OFF】キー押下後にバッテリーパックを取外す終了方法

## 1-2-6 バッテリーパックの長期保管

長期間バッテリーパックを使用しない場合は、【OFF】キーを押して通常終了した後、涼しく湿気がなくなるべく温度が一定の場所に保管することをお奨めします。満充電および高温環境下での保管はバッテリーパックの寿命を縮めることとなりますので、ご注意ください。

## 1-3 通信の種類

本製品には WLAN 通信と Bluetooth 通信の2種類の通信機能が搭載されており、他の機器とデータのやり取りを行うことができます。

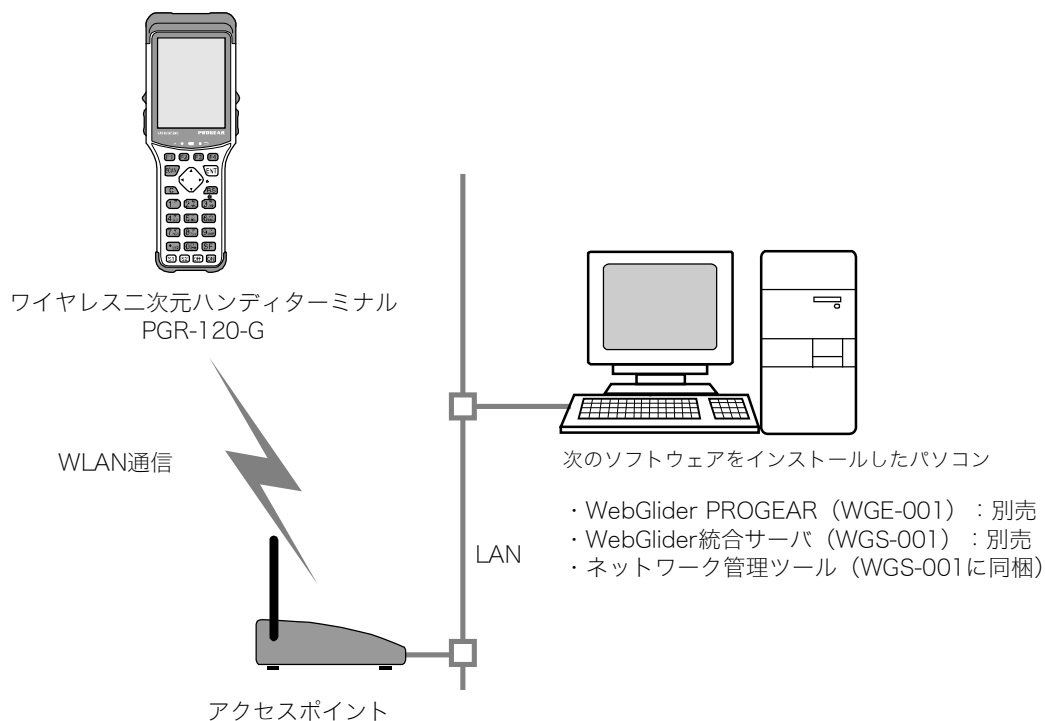
### ■WLAN 通信

アクセスポイントをイーサネット LAN に接続し、WLAN 通信設定と TCP/IP 設定を行うと、パソコンとの間で通信することができます。

パソコンで作成したアプリケーションソフトのダウンロード、データの送受信、またはパソコンから本製品の設定を行うことができます。

この通信には、別売のアクセスポイント、イーサネットケーブル、HUB が必要です。

WLAN 通信設定に関する詳細は、アクセスポイントのマニュアルと「2-3 通信環境の構築」「3-4 WLAN」、「3-5 ネットワーク」を参照してください。



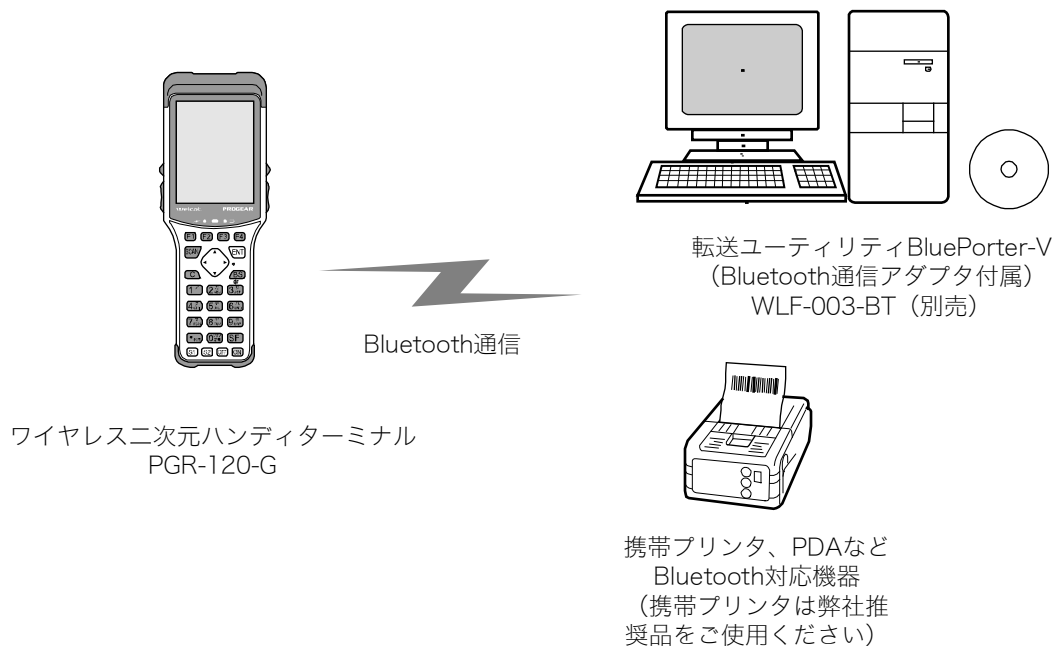
- ・ 本製品からパソコンにファイルを送信する場合  
「3-7 ファイル：ファイルの実行・送信・削除など」(P.[112](#))
- ・ 本製品がパソコンからファイルを受信する場合  
「3-6 受信：WLAN/Bluetooth 通信でファイルを受信」(P.[109](#))

## ■Bluetooth 通信

パソコンの USB ポートに Bluetooth 通信アダプタを接続すると、本製品との間でファイルの送受信ができます。

この通信には、別売の転送ユーティリティ BluePorter-V Bluetooth パック (WLF-003-BT) が必要です。

また、Bluetooth 通信機能を持つ携帯プリンタにデータを送信して印刷する、などの利用方法もあります。



Bluetooth 通信には、次の設定が必要です。

| 項目            | 説明                                                     | 参照ページ                                    |
|---------------|--------------------------------------------------------|------------------------------------------|
| 端末 ID         | 識別用の ID を設定します。<br>BluePorter-V を使ってファイルを送受信する時に設定します。 | 「3-8 端末 ID：端末識別用 ID を設定」(P.119)          |
| Bluetooth の登録 | Bluetooth の通信に必要な接続先の登録やセキュリティなどの設定をします。               | 「3-9-2 Bluetooth：Bluetooth の登録設定」(P.124) |

## 1-4 基本的な使い方

### 1-4-1 電源の ON/OFF

【ON】 キーを1秒以上押すと、電源がONします。

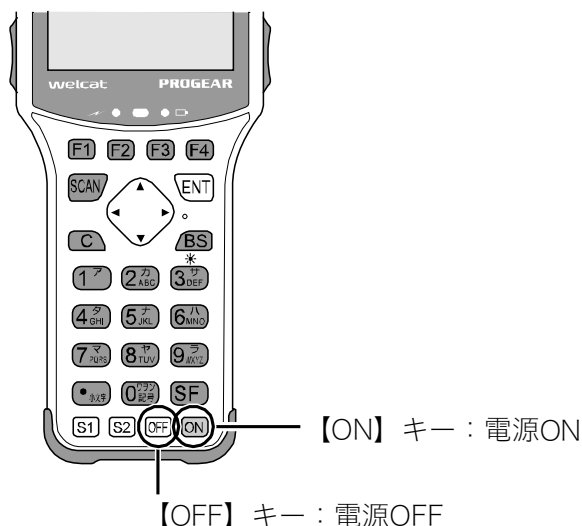
【OFF】 キーを押すと、電源がOFFします。

#### 注意

【ON】 キーを押してシステムメニューが表示されるまでの間や、【OFF】 キーを押して液晶画面が完全に消えるまでの間にバッテリーパックを取外すと、Fドライブのデータが壊れる可能性があります。起動、終了処理中はバッテリーパックを取外さないでください。

#### 参考

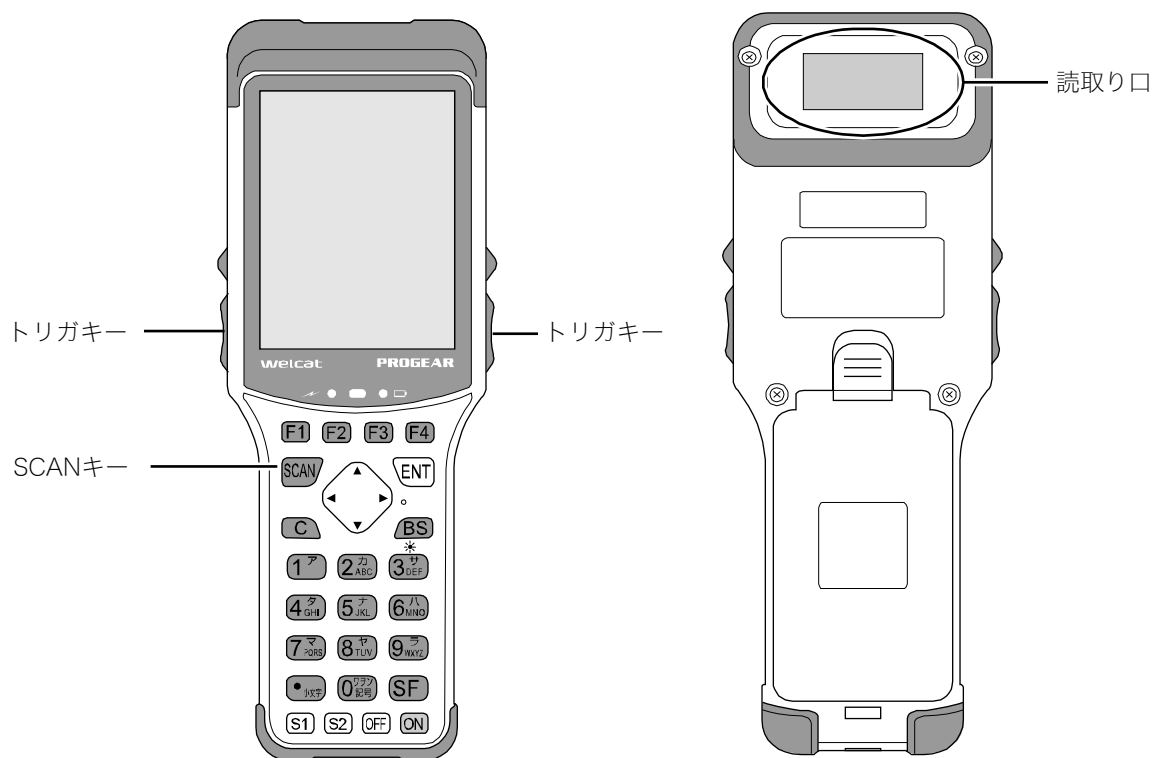
- ・【ON】 キーを押してからシステムメニューが表示されるまでの時間に差がでることがあります。これは、ファイルの断片化を解消するための処理時間であり、故障ではありません。システムメニューが表示されるまでそのままお待ちください。
- ・アプリケーションソフトの自動実行が設定されている場合は、設定されているアプリケーションソフトがスタートします（「3-3-1 自動実行：アプリケーションソフトの自動実行」(P.81) 参照）。



## 1-4-2 バーコードの読取りかた

### ■読取りかた

バーコードを読取る時は、背面の読取り口をバーコードに向け、【SCAN】キーまたは左右にあるトリガキーを押します。



### 注意

読取り口からはレーザー光が照射されます。のぞき込んだり、目にあてたりしないでください。

## 1-4-3 使用時に役立つ機能

### ■システムメニューの強制起動

電源 OFF 状態の時、【SCAN】キーを押しながら【ON】キーを押して本製品を起動すると、アプリケーションソフトの「自動実行」が設定されている場合であっても強制的にシステムメニューが起動します。

### ■液晶画面のバックライト輝度設定

【ON】キーを押しながら【3】キーを押すと、バックライトの輝度の調整をすることができます。  
バックライト輝度は、次のように切替わります。

暗い → 普通 → やや明るい → 明るい  
↑

ただし、アプリケーションソフトで、キー入力後一定時間のみバックライトを明るくするように設定されている場合は、設定された明るさで一定時間点灯した後、暗くなります。

### ■ブザー音量の調整

ブザーの音量、キークリック音などを調整することができます。

システムメニューで [7:デバイス] - [3:音/バイブ] を選択して設定します。



詳しい設定方法は、「3-9-3 音/バイブ：音量・LED・バイブレータの設定」(P.[128](#))を参照してください。

### ■オートパワーオフ（自動的に電源 OFF）

一定時間操作されなかった場合、自動的に電源を OFF にします。

システムメニューで [1:システム] - [4:オートパワーオフ] を選択すると、電源 OFF までの時間などを設定することができます。



詳しい設定方法は、「3-3-4 オートパワーオフ：自動的に電源 OFF」(P.[85](#))を参照してください。

## 1-5 お手入れのしかた

- 読取り口

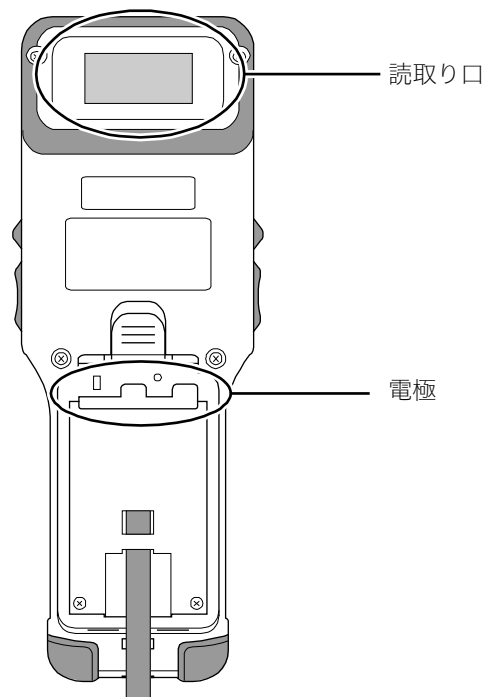
読取り口のフィルタが汚れていると、バーコードを正しく読取れない場合があります。

- 電極

バッテリーパックの使用時間が短くなる、起動しにくくなる、突然電源が OFF になる等の症状が見られる場合、バッテリーパックの劣化以外に、電極の汚れによる接触不良が原因となっていることがあります。汚れが原因の場合、バッテリーパック側と本体側の電極を清掃することで症状が改善します。

### ●清掃方法

清潔で乾いた柔らかい布、綿棒等で、読取り口のフィルタや電極の汚れを拭き取ります。汚れた布や指、固い物では決してこすらないでください。また強く拭くと傷がついたり、特に本体側の電極は変形したりする恐れがありますので、軽く拭くように注意してください。



# 第2章

## ソフトウェア



## 2-1 ソフトウェアについて

本製品のソフトウェアは、次の2種類で構成されています。

|             |                                                                                                                             |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| システムプログラム   | 本製品の基本動作を制御するプログラムです。<br>パソコンの OS（基本ソフトウェア）に相当するもので、あらかじめ本製品に搭載されています。基本的な動作パラメータの設定や各種確認作業を行う「システムメニュー」はシステムプログラムの一部です。    |
| アプリケーションソフト | ユーザーの業務処理に使用するプログラムです。<br>バーコードの読取りや、パソコンへのデータ転送などは、主にこのプログラムを使用します。「2-2 アプリケーションソフトの作成」（P.52）の開発環境を用いてユーザー様が作成して頂く必要があります。 |

### 2-1-1 データについて

#### ■ドライブの構成

本製品にはデータを格納する領域として、FドライブとSドライブの2つのドライブがあります。ファイルを受信する時は、まずSドライブで受信し、その後Fドライブへ移動して格納されます。

| ドライブ  | データ保持                                                 |
|-------|-------------------------------------------------------|
| Fドライブ | 不揮発性メモリ<br>バッテリーバックやバックアップ用電池が消耗した後も、ドライブのデータは保持されます。 |
| Sドライブ | 揮発性メモリ<br>電源 OFF 時に全てのファイルが消去されます。                    |

#### ●Fドライブ

アプリケーションソフト、マスターファイル、データファイル等、全てのファイルを格納するための領域として使用します。

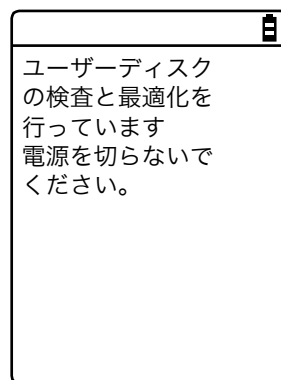
Fドライブは、内蔵のFlash ROM デバイスにファイルを書込みます。Flash ROM デバイスはアクセス速度が遅く、また書込みによりファイルの断片化が発生します。ドライブ内に断片化されたファイルが多く存在したり、ファイルの総サイズが大きくなったりすると、本製品の起動時間が長くなります。Fドライブを構成するFlashROM デバイスにも寿命がありますので、頻繁に読書きするデータやアプリケーションソフト動作中に一時的に作成するファイルはFドライブではなくSドライブに作成してください。

Fドライブは、ファイルの断片化を解消するためにシステムの定めたタイミングでドライブの最適化を

行います。この最適化の処理を行うためには、Fドライブの空き容量が1MB以上必要です。また、Fドライブの空き容量が1MB以下になると、ファイルへの書き込みのたびに最適化処理が行われるので、ファイルへのアクセス速度がさらに遅くなります。空き容量がさらに少なくなると、断片化したファイルを最適化できなくなったり、それ以上データを書き込めなくなったりします。空き容量は、常に1MB以上確保するようにしてください。

Fドライブの全容量は7.25MBありますが、システムファイルが約1MB使用します。システムファイルは隠しファイルになっているので、ユーザーが削除することはできません。空き容量が1MB以上必要ですので、ユーザーが格納できるファイルサイズは合計5.25MBまでとなります。これを超えないよう、アプリケーションソフトやシステムを構築してください。

起動時に最適化処理が実行される場合は、以下の画面が表示されます。この場合、処理が終了するまでお待ちください。



### ●Sドライブ

アプリケーションソフトの動作中に一時的なファイル（テンポラリファイル）を格納するための領域として使用します。

Sドライブは内蔵のRAMデバイスにファイルを書込みます。RAMデバイスはアクセス速度が非常に高速で、最適化も不要です。一時的なファイルはSドライブに作成することでアプリケーションソフトのパフォーマンスを向上することができます。

- 
- ・ファイルの受信と格納のために、Fドライブに十分な空き領域があることを確認してください。

#### **注意**

- ・ファイル受信時には、Fドライブに別名で一時的に保存した後、本来のファイル名にリネームします。既にFドライブに保存されているファイルと同名のファイルを受信する時には受信ファイルを格納するだけの空き容量が必要です。このような場合でも、Fドライブの空き容量が1MBを下回らないようにしてください。
-

## ■ファイル名について

本製品で利用できるファイル名には、次の制限があります。

|          |                                                                                                                  |
|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ファイル名の長さ | 拡張子を含め 31 バイト以内                                                                                                  |
| 使用可能文字   | 次の文字を任意に組合せて使用可能<br>・ アルファベット (A～Z)<br>・ 数字 (0～9)<br>・ 一部の記号 (!#%&' () @^_[]~.)<br>・ 半角スペース<br>・ SHIFT JIS の全角文字 |
| その他の制限事項 | ファイル名の先頭にスペースと「.」（ピリオド）は使用不可                                                                                     |

## ■拡張子について

本製品は、次の拡張子でファイル種別を認識しています。

|            |                                                 |
|------------|-------------------------------------------------|
| OUT        | アプリケーションソフト                                     |
| JPG<br>PNG | 画像ファイル<br>本製品で表示できる画像ファイルは、JPEG 形式と PNG 形式のみです。 |

### ■システムやアプリケーションソフトが作成するファイル

本製品のシステムプログラムやアプリケーションソフトの一部は、テンポラリファイルや設定保存用のファイルを作成します。ファイル数が多すぎる、ドライブに空き容量がない等の理由でこれらのファイルが作成できない時、各プログラムは正常に動作できなくなります。

システムプログラムは、システムメニューの設定値を保存するために F ドライブにレジストリファイルを作成します。これらは隠しファイルとなっており、ユーザーが参照、操作することはできません。



レジストリに関しては「4-4 レジストリ」(P.[158](#)) を参照してください。

## 2-2 アプリケーションソフトの作成

周辺ソフトウェアを使ってパソコン上でアプリケーションソフトを作成します。作成したアプリケーションソフトは、WLAN 通信を使って本製品に転送して使用します。

### ■周辺ソフトウェア

パソコンとのデータ通信や、システムを構築するために、次の別売ソフトウェアが必要です。

| 名称                        | 型番         | 備考                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|---------------------------|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| WebGlider PROGEAR         | WGE-001    | <p>WebGlider PROGEAR は、Web ベースのアプリケーションソフト開発ツールです。本ツールに同梱のエディタで、本製品で動かすアプリケーションソフト（HTML ファイル）とサーバサイドで動かすアプリケーションソフト（VBS ファイル）を作成することができます。本製品で HTML ファイルを動作させるために必要な Web ブラウザもパッケージに同梱されています。</p> <p>WebGlider PROGEAR ブラウザを使ってデータ通信をするためには、パソコン側に「WebGlider 統合サーバ」をインストールしてから通信環境をセットアップし、本製品に WebGlider PROGEAR ブラウザと、WebGlider PROGEAR エディタで作成したアプリケーションソフト（HTML ファイル）をインストールします。</p> <p>また、WebGlider PROGEAR で作成したサーバスクリプトファイル（VBS ファイル）は WebGlider 統合サーバをインストールしたパソコンにコピーします。</p> |
| WebGlider 統合サーバ           | WGS-001    | <p>WebGlider PROGEAR ブラウザと通信するための、簡易 Web サーバです。本製品と HTTP 通信をするシステムを構築する際に使用します。WebGlider PROGEAR で作成した VBS ファイルは WebGlider 統合サーバが使用します。</p> <p>WebGlider 統合サーバと通信するためには、本製品に WebGlider PROGEAR ブラウザと HTML ファイルをインストールします。</p>                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 転送ユーティリティ<br>BluePorter-V | WLF-003-BT | <p>パソコンとファイルを送受信する転送ユーティリティです。同梱の Bluetooth 通信アダプタを使用して、ファイルを送受信します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |

### ■動作環境

アプリケーションソフトの作成には、次の OS を搭載したパソコンが必要になります。

- Windows XP SP3 以降
- Windows Vista SP1 以降
- Windows Server 2003 SP2 以降
- Windows Server 2008

パソコンのハードウェアは、各 Windows OS が推奨しているスペックを満たしている必要があります。ただし、使用するデータベースやサーバサイドアプリケーションの仕様によっては、より多くのリソースが必要になります。



アプリケーションソフト作成に関する詳細は、WebGlider PROGEAR オンラインヘルプをご覧ください。

## 2-3 WLAN 通信環境の構築

作成したアプリケーションソフトのダウンロードやデータの送受信のために、パソコンとの間で WLAN 通信が実行できる環境を構築します。

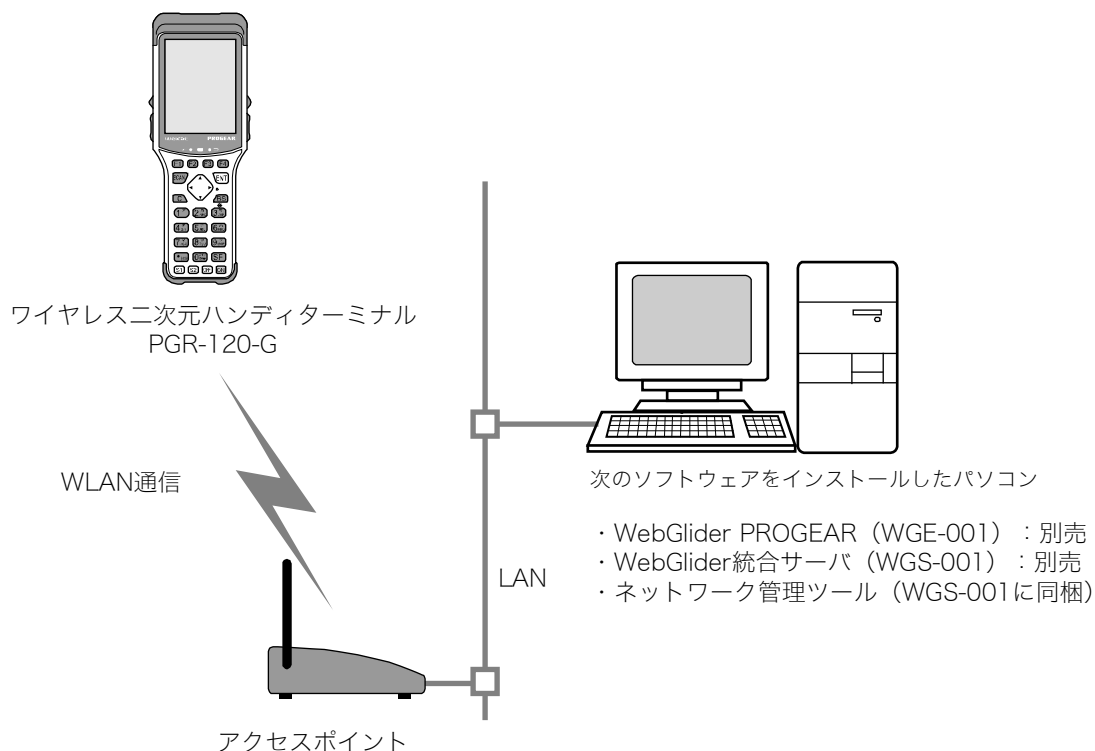
### 2-3-1 パソコン側の準備

WLAN 通信ができるシステムにパソコンを接続します。

アクセスポイント、LAN、HUB などは、お客様にてご用意ください。

パソコンには、次の周辺ソフトウェアをインストールして動作可能な状態にします。

- ・ ネットワーク管理ツール (WGS-001 に同梱)



アクセスポイントをイーサネット LAN に接続して、パソコンと通信できるように設定します。

必ずセキュリティ設定を実行してください。セキュリティ設定を有効にするため、アクセスポイントを再起動します (アクセスポイントによっては再起動が必要無い場合もあります)。

## 2-3-2 本製品側の準備

本製品で WLAN 通信の設定をするには、次の 3 つの方法があります。

- ・ 設定ウィザード
- ・ システムメニューから各項目を設定
- ・ DHCP 機能を使ってパソコンから設定

最初に、WLAN 設定に必要な次の情報を集めておきます。

| 設定情報   | 内容                                                                                 |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------|
| SSID   | 通信相手となるアクセスポイントの SSID（または ESSID）。                                                  |
| セキュリティ | 通信相手となるアクセスポイントのセキュリティ設定。                                                          |
| TCP/IP | イーサネット LAN 上のパソコンと TCP/IP 通信ができるアドレス。                                              |
| FTP    | WLAN 通信でファイル転送をする場合に設定します。「WebGlider 統合サーバ」に同梱されているネットワーク管理ツールの FTP サーバに対応します。     |
| DNS    | DNS を使って名前の解決をする場合に設定します。DNS を使うかどうかはアプリケーションソフトに依存します。                            |
| DHCP   | DHCP クライアント機能を使用する場合に設定します。「WebGlider 統合サーバ」に同梱されているネットワーク管理ツールの DHCP サーバに対応しています。 |
| 端末 ID  | 本製品の端末 ID（使用する場合）                                                                  |

### ■ 設定ウィザードによる WLAN 通信設定

#### 注意

設定ウィザードを始める前に、イーサネット LAN 側の WLAN 通信が使用可能な状態になっていることを確認してください。

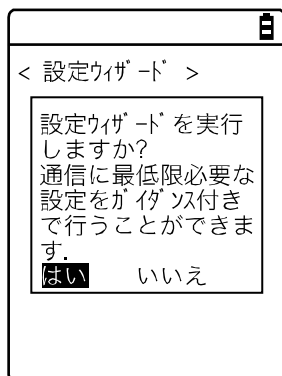
本製品を購入後、最初の起動時には、パソコンと WLAN 通信をするために最低限必要な設定をするための設定ウィザードが実行されます。

最初に設定しなかった場合は、システムメニューで [8:メンテナンス] - [4:ウィザード] を選択して設定ウィザードを起動します。



①設定ウィザード開始画面が表示されます。

「はい」を選択してウィザードを実行します。



②画面表示に従って、設定を進めます。

セキュリティ設定は必ず実行してください。

もし、セキュリティがまったく設定されていない状態で本製品を起動すると、「WLAN 通信セキュリティ未設定」注意画面が表示されます。

設定する項目は、次項「設定ウィザードの流れ」を参照してください。

③設定が完了したら、最初にアクセスポイントに対して Ping テストを実行します。

システムメニューで [9:テスト] - [1:WLAN] - [1:条件設定] を選択し、アクセスポイントの IP アドレスを入力した後、[2:無線/ping テスト] を実行します。



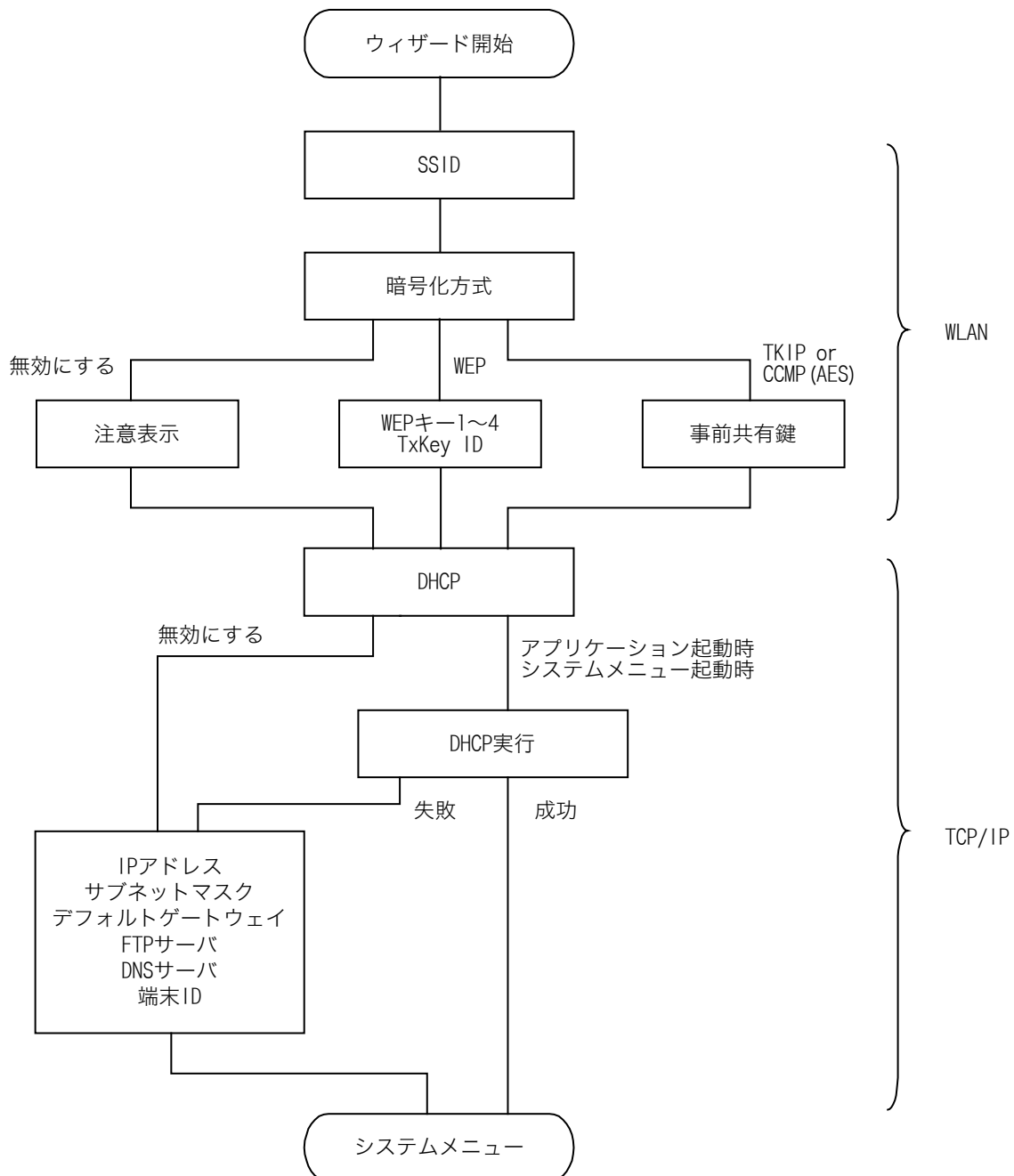
④同様に、パソコンの IP アドレスに対して Ping テストを実行します。

### 参考

DHCP 機能をご使用になる場合は、別途「WebGlider 統合サーバ」に同梱の「ネットワーク管理ツール」が必要です。

## ●設定ウィザードの流れ

設定ウィザードでは、次の図の流れに沿って各項目を設定します。途中の選択により設定する項目が異なります。



## 参考

- ・システムメニューからウィザードを実行した時は、DHCP を実行せずにシステムメニューに戻ります。
- ・WLAN 通信の認証方式はウィザードでは設定できません。特に EAP 認証では証明書等のファイル受信が必要であるなど設定が複雑なため、手動で設定してください。

## ■システムメニューでの WLAN 通信設定

システムメニューで各設定項目を個別に設定することができます。

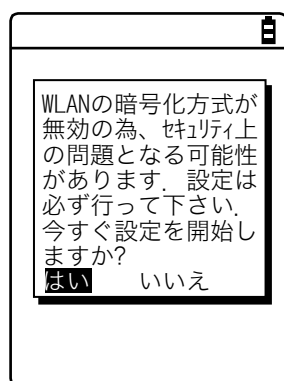
次の手順で設定します。

- ①システムメニューを起動します。
- ②次表を参考に必要な項目を設定します。
- ③Ping テストを実行して通信状態を確認します。

| 項目         | システムメニュー                | 参照ページ                                                   |
|------------|-------------------------|---------------------------------------------------------|
| SSID の設定   | [2:WLAN] － [1:SSID]     | 「3-4-1 SSID : SSID の設定」(P. <a href="#">86</a> )         |
| セキュリティの設定  | [2:WLAN] － [4:セキュリティ]   | 「3-4-4 セキュリティ:WLAN 通信のセキュリティ設定」(P. <a href="#">88</a> ) |
| TCP/IP の設定 | [3:ネットワーク] － [1:TCP/IP] | 「3-5-1 TCP IP : TCP/IP の設定」(P. <a href="#">97</a> )     |
| DHCP の設定   | [3:ネットワーク] － [2:DHCP]   | 「3-5-2 DHCP : DHCP の設定」(P. <a href="#">99</a> )         |
| FTP の設定    | [3:ネットワーク] － [3:FTP]    | 「3-5-3 FTP : FTP の設定」(P. <a href="#">101</a> )          |
| DNS の設定    | [3:ネットワーク] － [4:DNS]    | 「3-5-4 DNS : DNS の設定」(P. <a href="#">104</a> )          |

WLAN 通信の暗号化方式が無効になっている場合、起動時に設定を促すダイアログが表示されます。

**注意**



「はい」または「いいえ」を選択してください。

「はい」を選択すると、「2:WLAN」へ移動します。「いいえ」を選択するとシステムメニューが表示されます。

## ■DHCP を使ってパソコンから設定

各機能は、DHCP クライアント機能を使って、パソコン側で一括して設定することもできます。DHCP クライアント機能を使用する場合は、別途「WebGlider 統合サーバ」に同梱されている「ネットワーク管理ツール」が必要です。

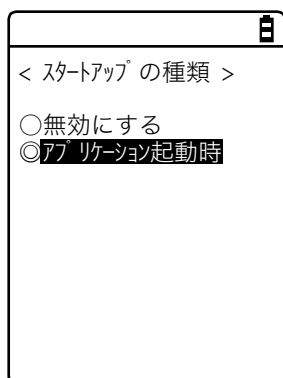
### 注意

「SSID の設定」、「セキュリティの設定」項目を DHCP クライアント機能を使用して設定するとセキュリティ上の弱点になります。なるべく使用しないでください。

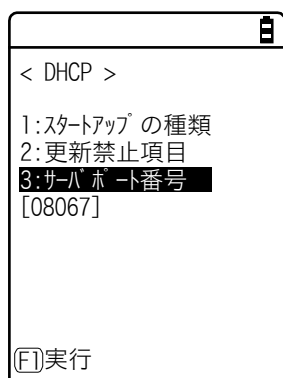
DHCP 機能を有効にする場合は、システムメニューで次の設定をします。

① [3:ネットワーク] - [2:DHCP] - [スタートアップの種類]

② [アプリケーション起動時] をチェックします。



③DHCP サーバのポート番号を設定します。



「3-5-2 DHCP : DHCP の設定」(P.99) および『WebGlider 統合サーバ WGS-001 マニュアル』を参照してください。

### 参考

本書では、DHCP で設定可能な項目に



マークが付いています。

## 2-4 WLAN 通信によるアプリケーションソフトのダウンロード

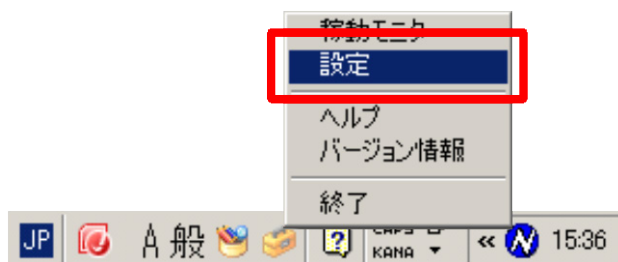
WLAN 通信環境が整ったら、次の手順でFTP サーバからファイルをダウンロードします。

①パソコンでネットワーク管理ツールを起動します。

ネットワーク管理ツールが起動すると、パソコンのタスクトレイにアイコンが表示されます。

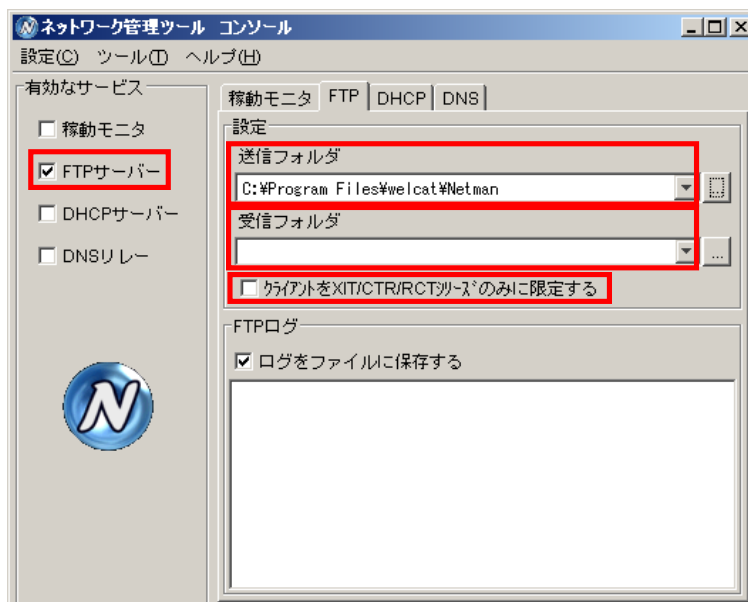


②ネットワーク管理ツールのアイコンを右クリックして、表示されるメニューから「設定」をクリックします。



③ネットワーク管理ツール設定画面で、「FTP」タブをクリックして、次の設定を行います。

- ・「FTP サーバー」のチェックボックスをチェックします。
- ・「クライアントを XIT/CTR/RCT シリーズのみに限定する」のチェックを外します。
- ・「送信フォルダ」と「受信フォルダ」には、アプリケーションソフトが存在する FTP サーバ上のフォルダを指定します。



④システムメニューで[4:受信]－[1:WLAN] を選択します。

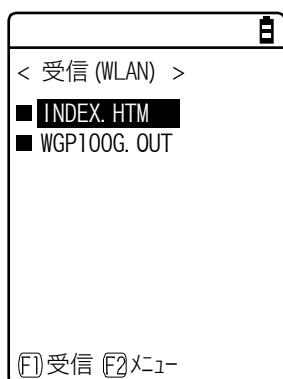


⑤ダウンロード可能なファイルのリストが表示されます。

ダウンロードするファイル名をチェックします。

【F1】キーを押してダウンロードを開始します。確認メッセージボックスが表示されるので[はい]を選択して【ENT】キーを押します。

数秒から数分で完了します。ファイルサイズが大きい場合は、ダウンロードに時間がかかることがあります。



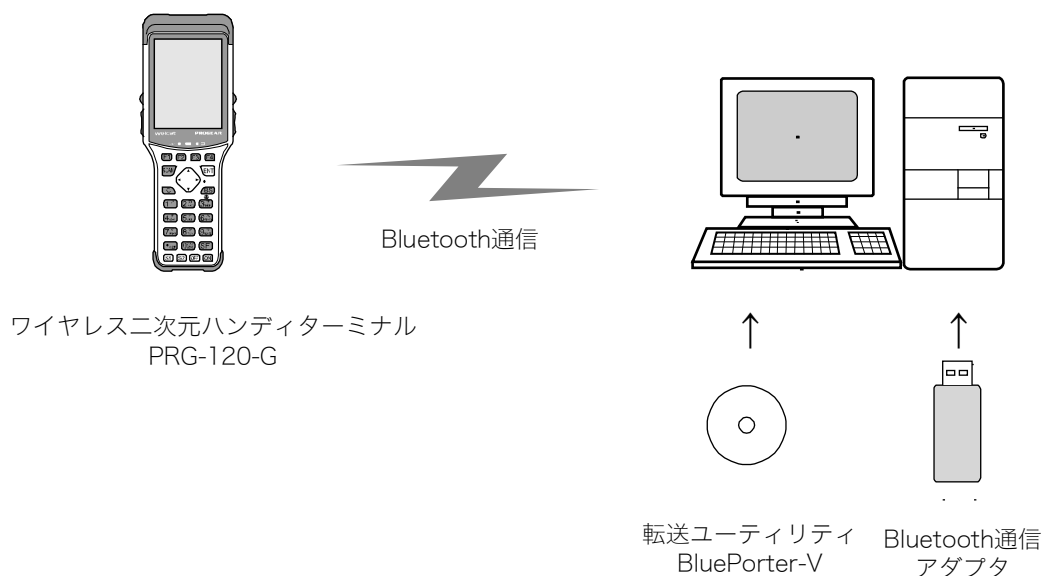
## 2-5 Bluetooth 通信環境の構築

作成したアプリケーションソフトのダウンロードやデータ送受信のために、パソコンとの間で Bluetooth 通信が実行できる環境を構築します。

### 2-5-1 パソコン側の準備

パソコンには、次の周辺ソフトウェアをインストールして動作可能な状態にします。  
インストールと設定の方法は、BluePorter-V の運用ガイドを参照してください。

- ・ 転送ユーティリティ BluePorter-V
- ・ Bluetooth 通信アダプタのドライバソフト



#### ■COM ポートの確認

Bluetooth 通信アダプタが接続されている COM ポートの確認をします。

COM ポートの確認方法は、BluePorter-V の運用ガイドを参照してください。

### 2-5-2 本製品側の準備

本製品で Bluetooth 通信をするには、あらかじめデバイス登録をしておく必要があります。

デバイス登録の方法は「3-9-2 Bluetooth : Bluetooth の登録設定」(P. 124) を参照してください。

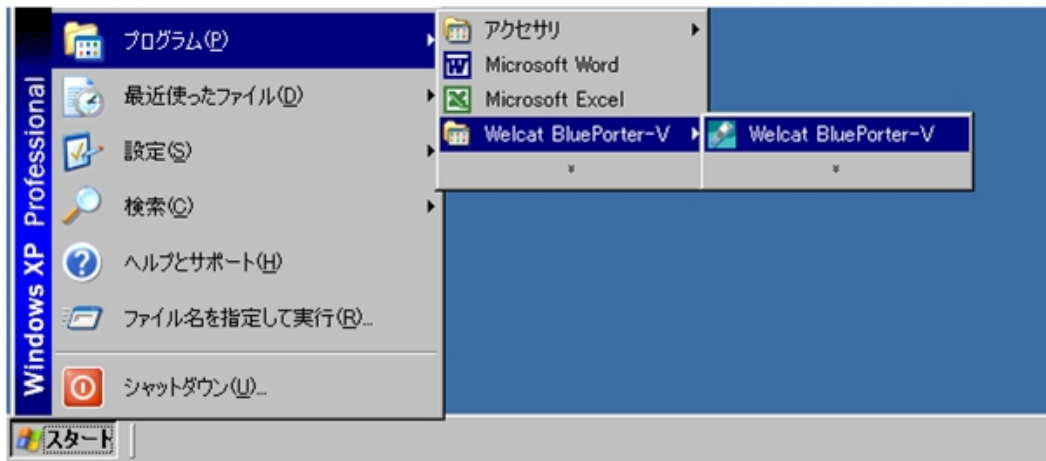
Bluetooth 通信アダプタの BD アドレスの確認方法は、BluePorter-V の運用ガイドを参照してください。

## 2-6 Bluetooth 通信によるアプリケーションソフトのダウンロード

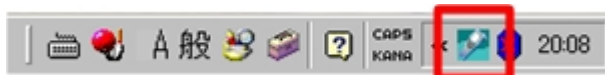
Bluetooth 通信環境が整ったら、次の手順でファイルをダウンロードします。

①パソコンで転送ユーティリティ BluePorter-V を起動します。

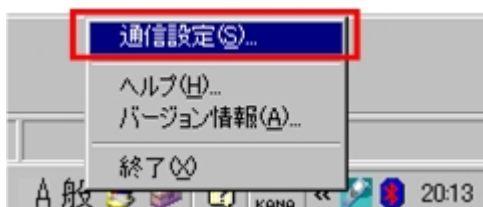
[スタート] - [プログラム] - [Welcat BluePorter-V] - [Welcat BluePorter-V] をクリックします。



②タスクトレイに表示される転送ユーティリティ BluePorter-V のアイコンを右クリックします。



③表示されるメニューから [通信設定] をクリックします。

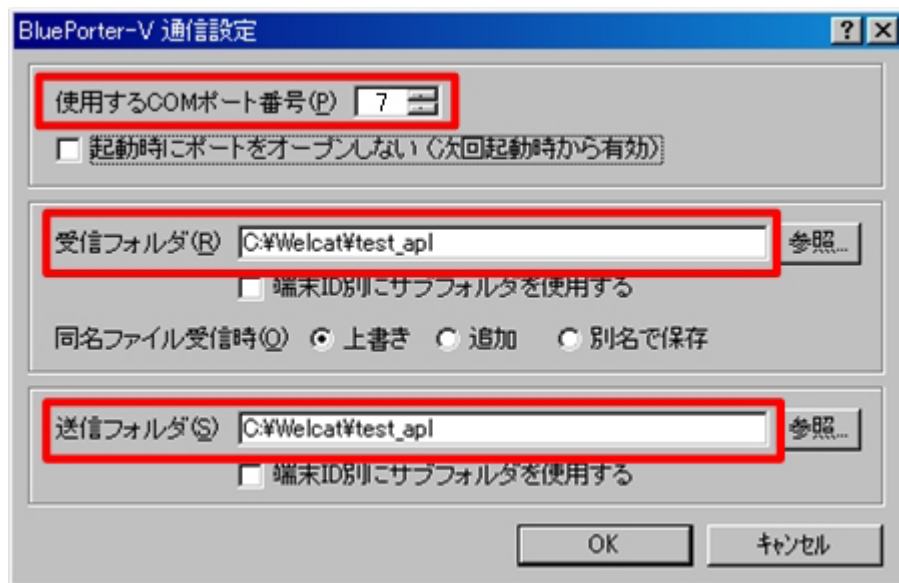




④COM ポート番号を「使用する COM ポート番号」に設定します。

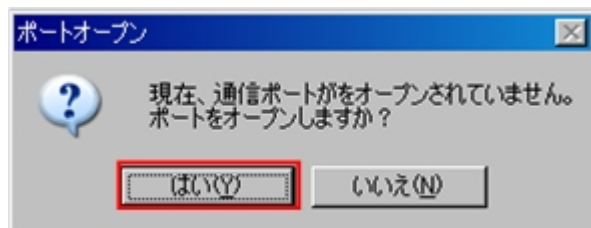
「受信フォルダ」と「送信フォルダ」には、アプリケーションソフトのファイルが存在するフォルダを指定します。

下図は、「C:\Welcat\test\_apl」フォルダにアプリケーションソフトが保存されている場合の例です。

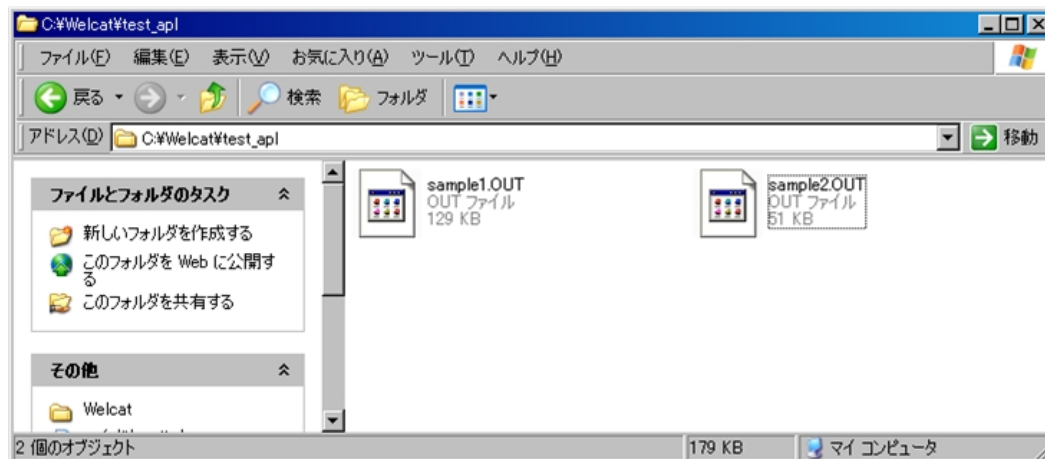


⑤ [OK] ボタンを押してウィンドウを閉じます。

次の画面が表示された場合は「はい」をクリックします。



⑥BluePorter-V の送信フォルダとして設定したフォルダ（上の例では「C:\Welcat\test\_apl」）に、アプリケーションソフトの実行ファイルをコピーします。



⑦システムメニューで [4:受信] - [2:Bluetooth] を選択します。

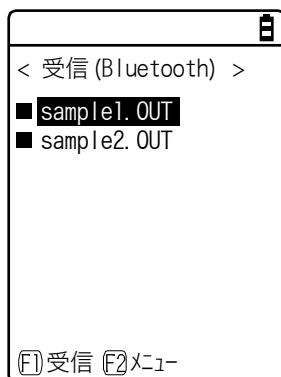


⑧本製品は自動的に BluePorter-V にログインし、ダウンロード可能なファイルのリストが表示されます。

ダウンロードするファイル名をチェックします。

【F1】キーを押すと確認メッセージボックスが表示されます。カーソルを [はい] に合わせて【ENT】キーを押すと、ダウンロードが開始され、数秒から数分で完了します。

ただし、ファイルサイズが大きい場合は、ダウンロードに時間がかかることがあります。



### 参考

BluePorter-V でファイルを受信する場合、ファイルリストに表示できるファイル数は最大 60 個です。

BluePorter-V の送信フォルダに格納するファイル数は、60 個以下にしてください。

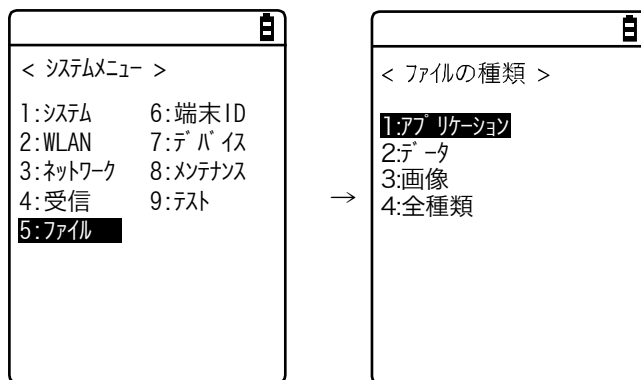
## 2-7 アプリケーションソフトの実行方法

ダウンロードしたアプリケーションソフト（拡張子=OUT）は、本製品に受信するだけでインストールが完了し、実行する準備が整います。

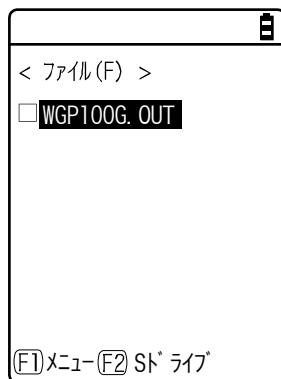
### ■ファイルリストから選択して実行

複数のアプリケーションソフトをインストール済みの場合、ファイル一覧から選択して実行することができます。

①システムメニューで [5:ファイル] - [1:アプリケーション] を選択します。

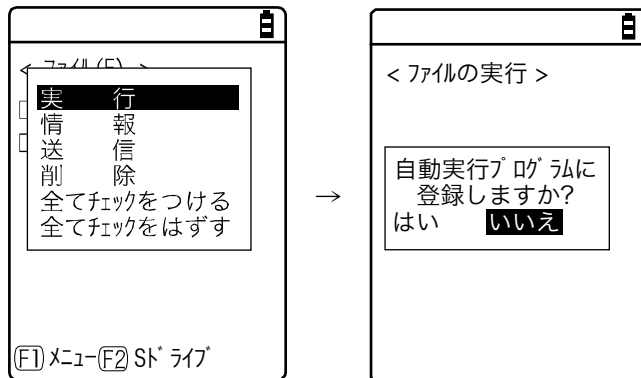


②実行するアプリケーションソフトにフォーカスを合わせ、【F1】キーを押します。



③ポップアップしたメニューから、[実行]を選択して【ENT】キーを押します。

<ファイルの実行>画面が表示され、自動実行プログラムへの登録確認が表示されます。自動実行をする場合は[はい]、しない場合は[いいえ]を選択して【ENT】キーを押します。



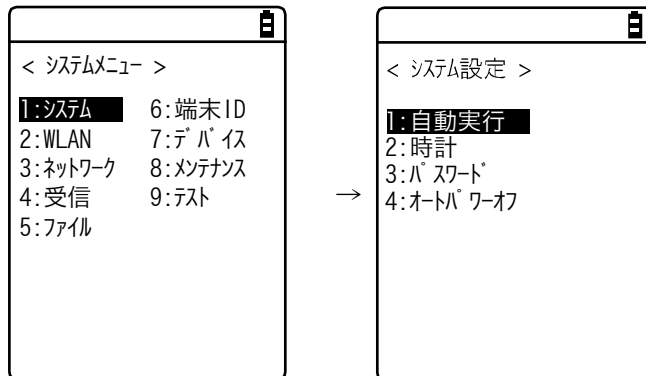
アプリケーションソフトが起動します。

それぞれのアプリケーションソフトの使い方は、アプリケーションソフトの開発元やシステム管理者が用意する操作説明書等を参照してください。アプリケーションソフトは、基本的には【OFF】キーを押すことで終了しますが、アプリケーションソフトによっては異なる場合があります。

### ■起動時に自動実行

本製品の起動時に、システムメニューを起動することなく自動的にアプリケーションソフトを実行することができます。

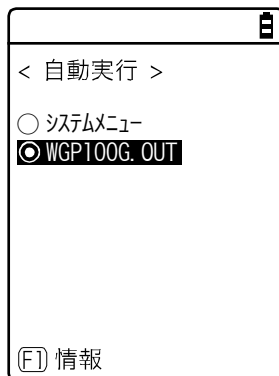
①システムメニューで [1:システム] - [1:自動実行] を選択します。



②インストール済みアプリケーションソフトの一覧から実行するファイル名を選択し、【ENT】キーを押すと<システム設定>画面に戻ります。これで自動実行ファイルの登録が完了します。

次回、電源 ON すると、登録したアプリケーションソフトが起動します。

システムメニューを選択した時はシステムメニューが起動します。



第

3

章

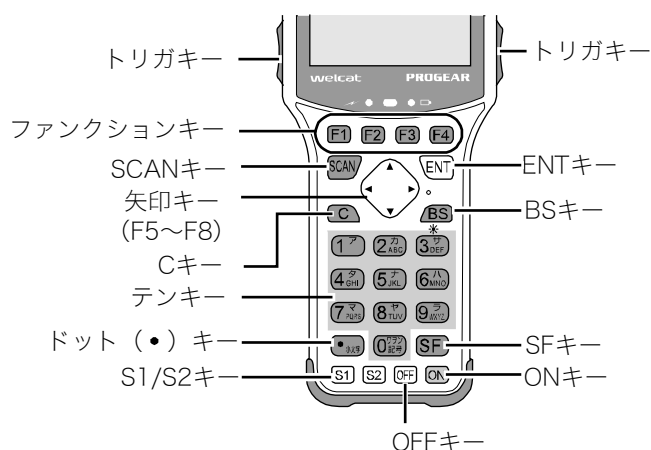
## システムメニュー

## 3-1 システムメニューの使い方

システムメニューはシステムプログラムを構成する機能の一部として、本製品の環境設定やアプリケーションソフトのプラットフォームなど、様々な機能を提供します。お客様の使用環境に合わせた設定をして頂くことで、より効率良く本製品をご使用頂けます。

### 3-1-1 操作キー

各キーの機能について説明します。



| キー                        | 機能                                                                             |
|---------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|
| 【SCAN】キー                  | バーコードを読取ります                                                                    |
| 【ENT】キー                   | 操作を決定します。                                                                      |
| 【C】キー                     | 一つ前の状態に戻したり、入力した文字を消去したりします。                                                   |
| 【BS】キー                    | 入力した文字を1文字削除します。                                                               |
| 【S1】キー                    | シフトキー。他のキーと同時に押すことで、特殊な働きをします。                                                 |
| 【S2】キー                    | システム予約キー。アプリケーションソフトでは使用できません。                                                 |
| 【SF】キー                    | 文字入力モードを切替えます。                                                                 |
| 【F1】、【F2】、【F3】、<br>【F4】キー | 機能ごとに用意されたファンクション（特殊機能）を実行します。                                                 |
| 【◀】、【▲】<br>【▼】、【▶】キー      | カーソル操作をします。<br>「◀F5」「▲F6」「▼F7」「▶F8」を指定する場合、各矢印キーにF5～F8が割当てられています。ライブラリ等で使用します。 |
| トリガキー                     | バーコードを読取ります<br>トリガキーには、【F9】キーが割当てられています。                                       |

| キー     | 機能                                                                                         |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| ON キー  | 電源をオンする時に使用します。<br>【ON】 + 【3】 キーで、液晶表示部のバックライトの明るさを変更できます<br>（「■液晶画面のバックライト輝度設定」（P.45）参照）。 |
| OFF キー | 電源をオフする時に使用します。                                                                            |

### ■キーの文字割当て一覧

| キー | 数字入力モード | 英数字入力モード   |
|----|---------|------------|
|    | 1       | スペース、1     |
|    | 2       | ABC、2      |
|    | 3       | DEF、3      |
|    | 4       | GHI、4      |
|    | 5       | JKL、5      |
|    | 6       | MNO、6      |
|    | 7       | PQRS、7     |
|    | 8       | TUV、8      |
|    | 9       | WXYZ、9     |
|    | 0       | 記号、0       |
|    | —       | 大文字/小文字切替え |

### 参考

本書では、キー名称を【 】で表記しています。

（例）【1】キー、【F2】キー、【ENT】キー

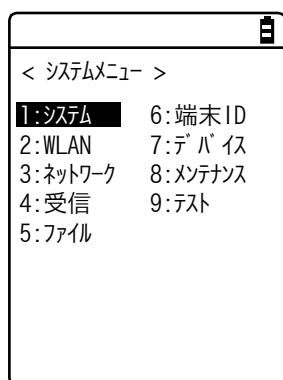


## 3-1-2 システムメニューの起動

初期設定では、電源を ON にするとシステムメニューが起動します。

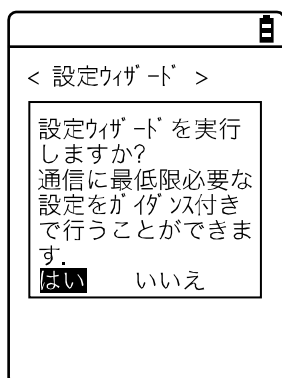
自動実行プログラム（「3-3-1 自動実行：アプリケーションソフトの自動実行（P. 81）参照」）にアプリケーションソフトが選択されている場合は、次の操作でシステムメニューを起動します。

- ① 電源が OFF の状態で、【SCAN】キーを押しながら【ON】キーを 1 秒程度押し続けます。  
電源が ON になりシステムメニューが起動します。
- ② オープニング画面の表示後に、システムメニューが表示されます。



## 3-1-3 初めてシステムメニューを起動する時

ご購入後、初めて本製品を起動すると、端末とサーバ間での WLAN 通信に最低限必要な設定を行うための設定ウィザードが実行されます。



- 「はい」を選択すると、WLAN 通信の設定をするウィザードが実行されます。
- 「いいえ」を選択するとシステムメニューが起動します。

「いいえ」を選択して設定ウィザードをスキップするか、設定ウィザードを実行して最後まで設定を完了すると、次回起動時から設定ウィザードは起動しなくなります。

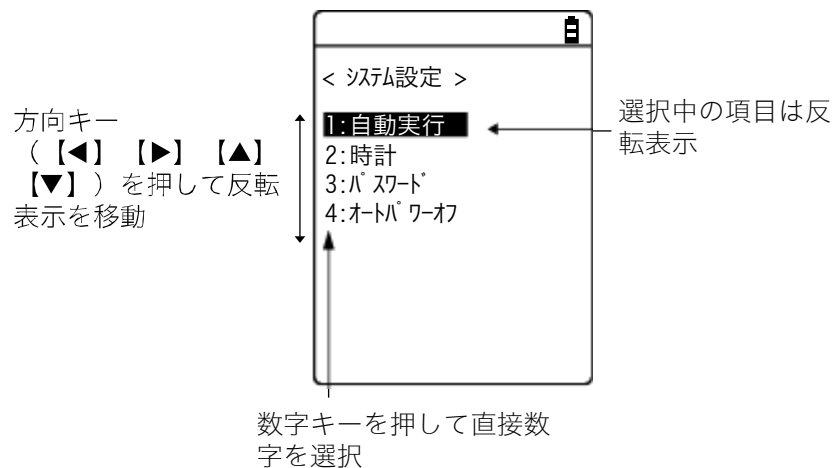


設定ウィザードの使い方は「■設定ウィザードによる WLAN 通信設定」(P.55) を参照してください。

## 3-1-4 システムメニューの操作方法

システムメニューの基本的な操作方法について説明します。

### ■設定項目の選択



#### ●項目を選ぶ

選択中の項目は**反転表示**されます。

各項目に該当する【0】～【9】キーを押すか、矢印キー（【▲】、【▼】）キーを使用して反転表示を移動します。

#### ●項目を決定する

【ENT】キーを押すと、選択中の項目を決定します。

決定後の動作は項目により異なります。

- 選択した機能を実行
- 「はい」または「いいえ」の意思表示（チェックボックス）
- 次のメニューを表示
- サブメニューを表示

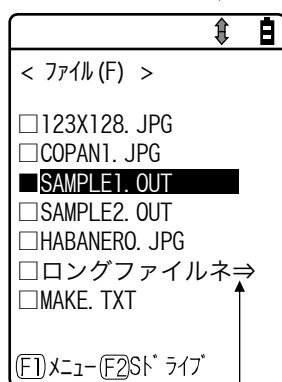
#### ●選択を中止する

【C】キーを押すと一つ前の操作に戻ります。

### ●画面の表示について

メニュー項目が1画面に収まらない場合は、画面上部のステータスバーにスクロールアイコンが表示されます。また、項目名が1行に収まらない場合、項目名の最後が「⇒」に変換されて表示されます。

スクロールアイコン  
画面に応じて上、下、上下の  
アイコンが表示されます。



項目名が画面に収まらない場  
合は「⇒」で表示される

### ■キーでデータを入力する

テンキー、【SF】キーを使って文字を入力します。

数字、英字（大/小）、記号が入力できます。

### ●文字入力モードを切替える

【SF】キーを押すと入力モードが切替わります。<sup>※1</sup>

数字入力モード： 数字と小数点が入力できます。

英数字入力モード： 英字（大/小）や数字、記号が入力できます。

ステータスバーに「A」アイコンが表示されます。

### ●数字を入力する

【SF】キーを押して数字入力モード（カーソル：\_\_\_\_（下線））にします。

使えるキー：【0】～【9】キー

また、英数字入力モードでも、キーを押して文字をローテーションさせると、数字も入力することができます。

### ●英字を入力する

【SF】キーを押して英数字入力モード（カーソル：■（矩形））にします。

使えるキー：【2】～【9】キー

- 同じキーに割当てられている英字を続けて入力する場合は、【▶】キーを押してカーソルを移動させてから、次の英字を入力します。

- 【▲】 / 【▼】 キーを押すと、カーソル位置の英字が大文字⇄小文字に変換されます。<sup>※2</sup>

#### ●記号を入力する

【SF】 キーを押して英数字入力モード（カーソル：■（矩形））にします。

使えるキー：【0】 キー

- 同じキーに割当てられている記号を続けて入力する場合は、【▶】 キーを押してカーソルを移動させてから、次の記号を入力します。
- カーソルが入力したデータの末尾にある時【▶】 キーを押すと、スペースがカーソルの右側に挿入されます。<sup>※2</sup>

#### ●入力したデータを確定する

【ENT】 キーを押します。

#### ●文字を削除する<sup>※3</sup>

- 【BS】 キーを押すとカーソル位置の文字を1文字削除します。
- 【C】 キーを押すと全ての文字を消去します。

#### ●入力を中止する

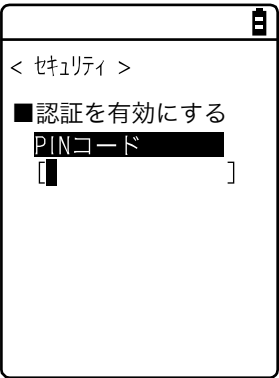
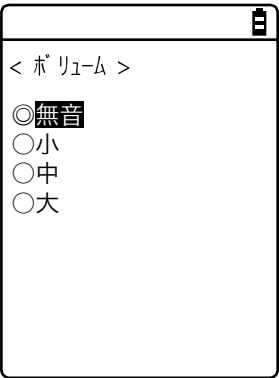
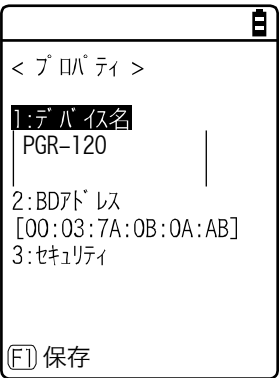
- 文字を削除できない項目<sup>※3</sup>では、【C】 キーを押すと直ちに入力を中止します。
- 文字を削除できる項目では、入力した文字を全て削除した後で【C】 キーを押します。

#### ●その他

入力文字数が登録可能な文字数を超えた場合、カーソルは先頭に戻ります。

- \*1 入力可能な文字種が制限されている項目（例：端末 ID は数字のみ）は、入力モードを切替えられません。
- \*2 項目により入力できる文字数が制限される場合があります。
- \*3 入力フォーマットが固定の項目（例：ローカル BD アドレス）では文字を削除できません。本マニュアルでは入力フォーマット固定の項目に下記の削除禁止アイコンを付けて表記しています。

## ■その他の操作

|                                                                                                       |                                                                                                                                                          |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一つ前の状態に戻る                                                                                             | 【C】キー                                                                                                                                                    |
| <p>チェックボックス</p>      | <p>項目を選択して、【ENT】キーを押すごとに選択/非選択（はい/いいえ）が切替わります。</p> <p>選択されたボックスは黒く塗りつぶされます。</p> <p>チェックボックスは同時に複数項目を選択する場合にも使用されます。</p>                                  |
| <p>ラジオボタン</p>       | <p>二重丸になっている項目が、現在有効であることを表しています。</p> <p>ラジオボタンは複数の項目から1つだけを選択する場合に使用されます。</p>                                                                           |
| <p>メッセージボックス</p>   | <p>ボックス内の下部に「はい」や「いいえ」などボタンが2つ表示されている場合は、【1】または【2】キーを押すか、矢印（【▲】、【▼】、【◀】、【▶】）キーを使用してボタンを選択（反転表示）し、【ENT】キーで決定します。</p> <p>【C】キーを押すと右側のボタンが選択されたことになります。</p> |
| <p>サブメニューの呼出し</p>  | <p>画面下部に【F1】または【F2】が表示されている時に、該当するキーを押すとサブメニューを表示したり、ファンクション（特殊機能）を実行したりします。</p>                                                                         |

|              |                                                                                                                                                                                                  |
|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| バックライトの輝度調整  | <p>何もキー操作をしないと、省電力のため 30 秒後にバックライトは自動的に暗くなります。キーを押すと自動的に再点灯します。</p> <p>【ON】キーを押しながら【3】キーを押すと、輝度を 4 段階に変更できます。</p> <p>詳細については「1-4-3 使用時に役立つ機能－■液晶画面のバックライト輝度設定」（P.45）を参照してください。</p>               |
| 操作時のインジケータ変更 | <p>操作時に作動するインジケータ（ブザー/バイブレータ/LED）は、お客様独自の設定に変更することが可能です。変更方法については「3-9-3 音/パイプ：音量・LED・バイブレータの設定」（P.128）をご覧ください。</p> <p>この設定を変更することで、お客様独自のインジケータが簡単に作成できます。</p> <p>なお、一部インジケータが適用されない操作があります。</p> |

### ■バーコードでデータを入力する

各種設定や文字などをバーコードで入力することができます。

【SCAN】キーまたはトリガキーを押してレーザーを照射させ、バーコードをスキャンします。

データ入力において読取り可能なバーコードは次の通りです。

#### 一次元コード

JAN-13/8, EAN-13/8, UPC-A/E, NW-7, Code39, Code93, Code128, EAN-128(GS1-128), ITF,  
インダストリアル 2 of5, GS1 DataBar(RSS)

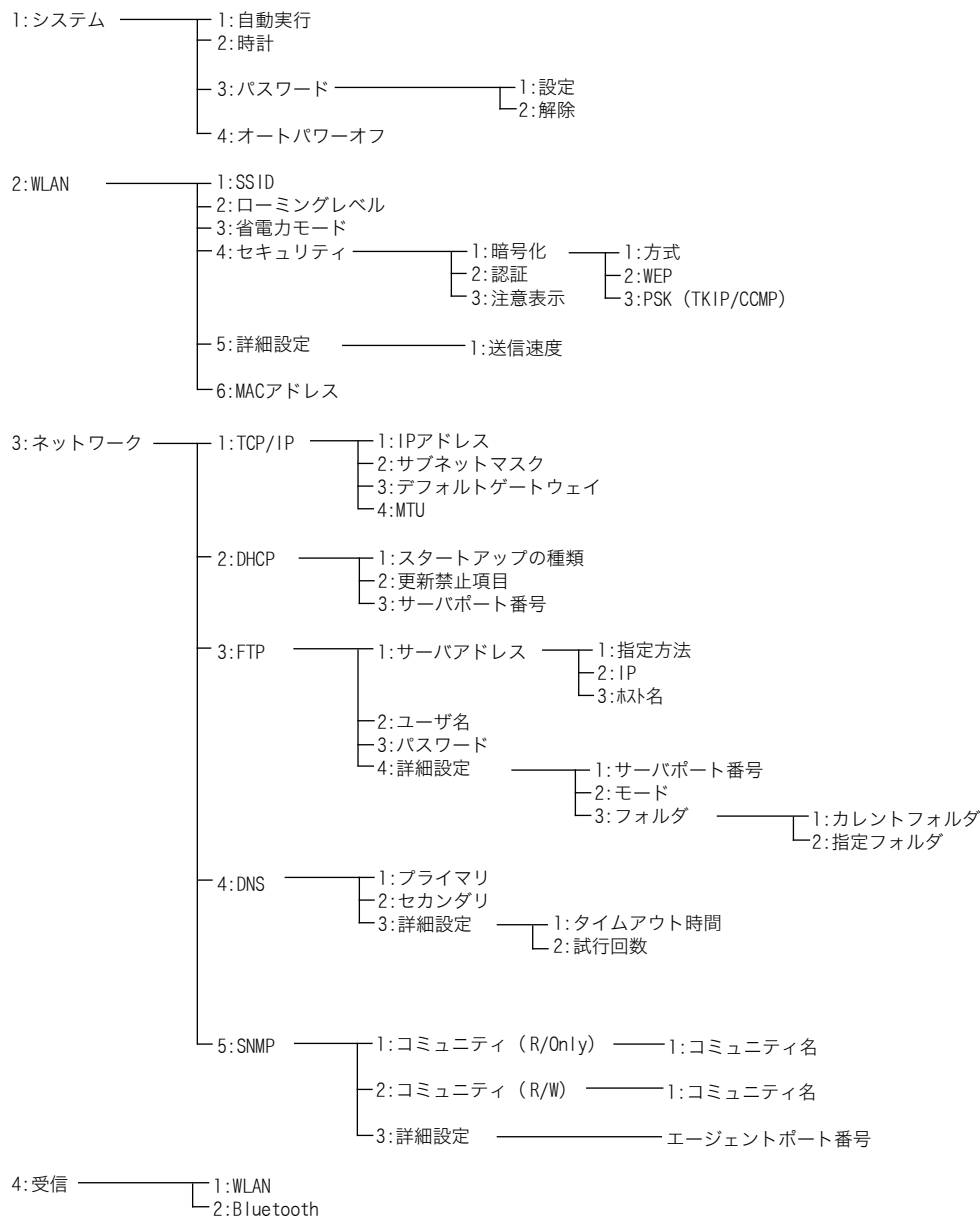
#### 二次元コード

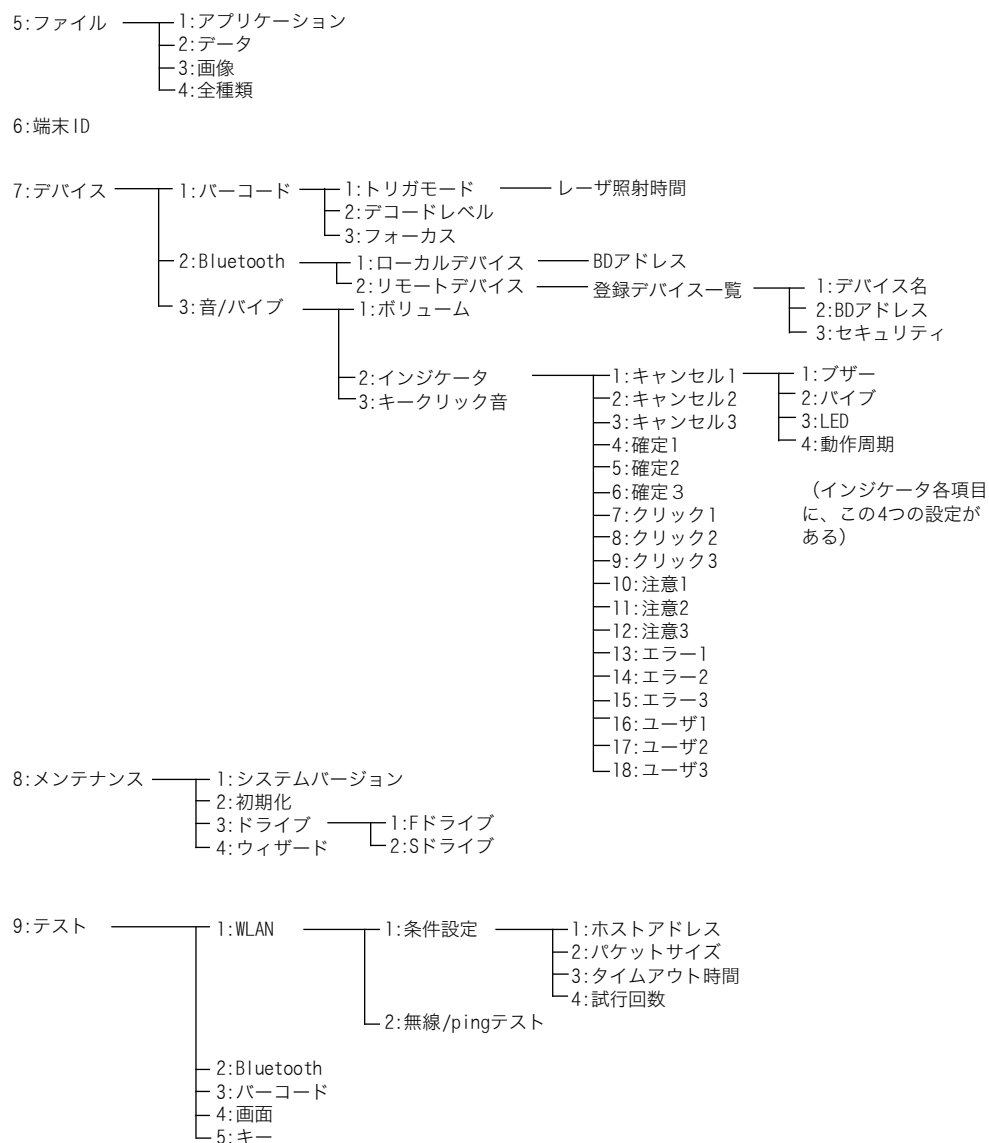
QR コード（マイクロ QR 可）, PDF417（Micro PDF 可）, DataMatrix(ECC200), MaxiCode

レーザーの照射時間はトリガモードで設定します。

## 3-2 システムメニュー一覧

システムメニューは、機能ごとに分類された階層構造になっています。





システムメニューの出荷時設定については、「付録-1 出荷時設定一覧」(P.[171](#))を参照してください。



## 3-3 システム：快適にご使用頂くための設定

本製品をより快適にご使用頂くための各種機能を設定します。

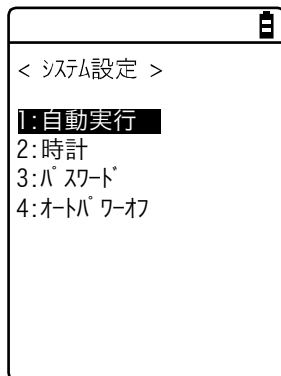
DHCP 機能を使用すると、各システム設定を自動的に登録することも可能です（パスワードの設定は除く）。



「3-5-2 DHCP：DHCP の設定」(P.[99](#))

### 操作手順

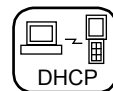
【システムメニュー】 → 【1:システム】



設定する項目を選択します。

- ・ 自動実行：アプリケーションソフトの自動実行 (P.[81](#))
- ・ 時計：時刻の確認 (P.[82](#))
- ・ パスワード：パスワードの設定・解除 (P.[83](#))
- ・ オートパワーオフ：自動的に電源 OFF (P.[85](#))

### 3-3-1 自動実行：アプリケーションソフトの自動実行



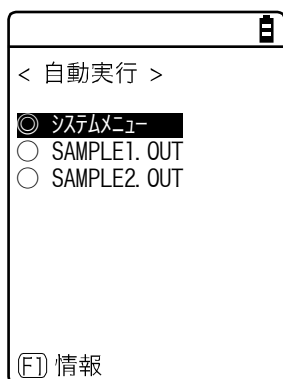
電源を ON にした時に起動するアプリケーションソフトを登録します。

出荷時設定では、システムメニューが起動します。

#### 操作手順

**[システムメニュー] → [1:システム] → [1:自動実行]**

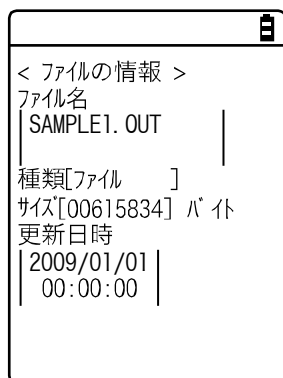
電源を ON した時に起動するアプリケーションソフトを選択します。



現在インストールされているプログラムの一覧が表示されるので、目的のアプリケーションソフトを選択します。

【ENT】キーを押すと<システム設定>画面に戻ります。これで自動実行ファイルの登録が完了します。

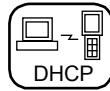
次回、電源を ON すると、登録したアプリケーションソフトが起動します。



【F1】キーを押すと選択中のアプリケーションソフトに関する情報が表示されます。

【C】キーを押すと<自動実行>画面に戻ります。

## 3-3-2 時計：時刻の確認



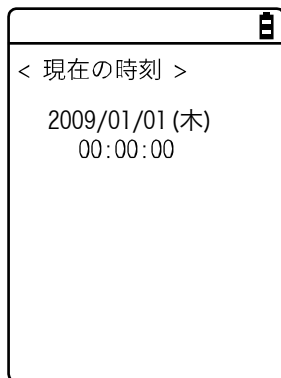
現在設定されている時刻が表示されます。

### ■現在の時刻

#### 操作手順

[システムメニュー] → [1:システム] → [2:時計]

現在設定されている時刻が表示されます。



#### 参考

現在時刻を設定する場合は、DHCP 機能を使用してサーバから時刻データを取得します。

DHCP 機能を使用して現在時刻を設定する際は、あらかじめ次のことを確認してください。

- ・本製品とアクセスポイントの WLAN 通信（SSID、セキュリティ等）が正しく設定されている。
- ・アクセスポイントとパソコンの電源が入っている。
- ・アクセスポイントとパソコンが正しく設定、接続されている。
- ・アクセスポイントが正常に動作している。
- ・「WebGlider PROGEAR」ネットワーク管理ツールの DHCP サーバが起動している。

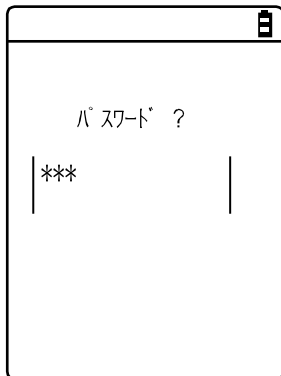
#### 注意

PROGEAR シリーズの内蔵時計（RTC）は、累積稼働時間が 50 時間を超えると、次回起動時にリセットされます。内蔵時計がリセットされた際は、再設定する必要があります。内蔵時計は、アプリケーションソフトからも設定することができます。設定方法については『WebGlider PROGEAR ヘルプ』または『WebGlider PROGEAR 開発ガイド』の「注意事項」を参照してください。

本製品で時刻データを使用したアプリケーションソフト等を使用する場合には、起動毎に時刻データを取得してください。

### 3-3-3 パスワード：パスワードの設定・解除

システムメニューを不用意に起動させないためにパスワードを設定します。パスワードを設定すれば管理者以外の第三者が設定内容を確認したり変更したりできないようになります。



パスワードが設定されると、システムメニュー起動時にパスワードチェックを実施します。パスワードが入力されない限り、システムメニューは起動しません。

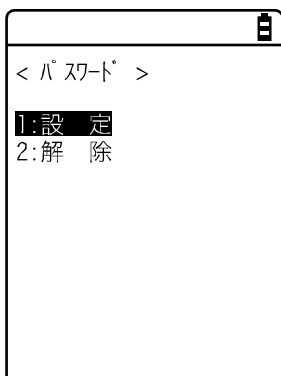
#### 注意

パスワードは忘れないようにメモを取って保管してください。万一忘れてしまった場合は、弊社営業までお問合せください。

#### 操作手順

【システムメニュー】→【1:システム】→【3:パスワード】

パスワードを設定するか解除するかを選択します。



次の項目から選択します。

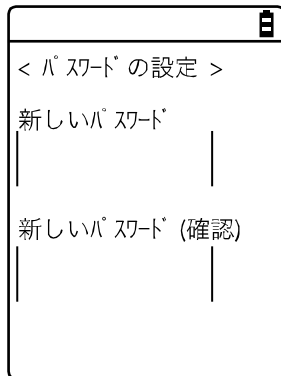
- ・ 設定
- ・ 解除

## ■設定：パスワードの設定

### 操作手順

[システムメニュー] → [1:システム] → [3:パスワード] → [1:設定]

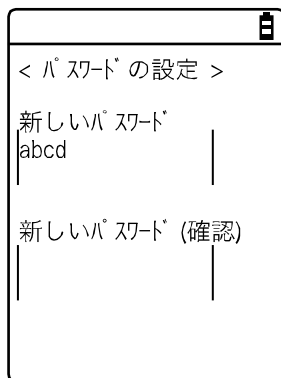
- ① 新しいパスワードを入力します。



パスワードは4文字～30文字までの英数記号で、大文字/小文字が区別されます。

新しいパスワードを入力したら、【ENT】キーを押します。

- ② 確認のため、もう一度パスワードを入力します。



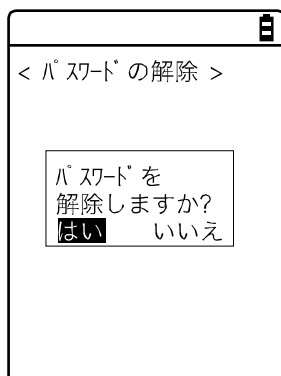
入力後、【ENT】キーを押します。

## ■解除：パスワードの解除

### 操作手順

[システムメニュー] → [1:システム] → [3:パスワード] → [2:解除]

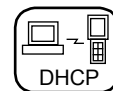
パスワードを解除します。



【はい】を選択するとパスワードが解除され、設定されていたパスワードが消去されます。

【いいえ】を選択すると解除を中止します。

### 3-3-4 オートパワーオフ：自動的に電源 OFF



オートパワーオフとは一定時間何も操作されなかった場合に、自動的に電源を OFF にする機能です。

#### 操作手順

【システムメニュー】 → 【1:システム】 → 【4:オートパワーオフ】

自動的に電源が OFF するまでの時間を設定します。

< オートパワーオフ時間 >  
[0600] 秒  
(F) ガイダンス

設定可能な時間は 0060 秒～3600 秒です。

なお、0000 秒に設定するとオートパワーオフは無効になります。

【ENT】キーを押すと、設定は完了します。

【F1】キーを押すと、設定値に関するガイダンスが表示されます。

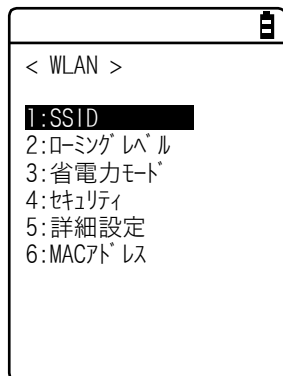
## 3-4 WLAN : WLAN 通信の設定

WLAN 通信に関する設定をします。

### 操作手順

[システムメニュー] → [2:WLAN]

WLAN 通信の設定項目を選択します。



設定する項目を選択します。

- ・ SSID : SSID の設定 (P.[86](#))
- ・ ローミングレベル : ローミングレベルの設定 (P.[87](#))
- ・ 省電力モード : 省電力モードの ON/OFF (P.[87](#))
- ・ セキュリティ : WLAN 通信のセキュリティ設定 (P.[88](#))
- ・ 詳細設定 : WLAN 通信に関する詳細設定 (P.[94](#))
- ・ MAC アドレス : MAC アドレスの表示 (P.[96](#))

### 3-4-1 SSID : SSID の設定

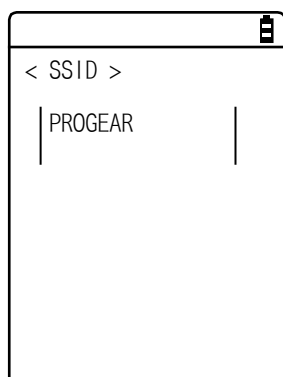
WLAN 通信のアクセスポイントを識別するための SSID を設定します。

#### 注意

SSID は、DHCP 機能を使って自動的に設定することも可能ですが、セキュリティ上の問題が発生する可能性があります。DHCP による設定は、避けてください。

### 操作手順

[システムメニュー] → [2:WLAN] → [1:SSID]



SSID を入力します。

SSID は、32 文字までの英数記号で指定します。大文字/小文字は区別されます。

### 3-4-2 ローミングレベル：ローミングレベルの設定

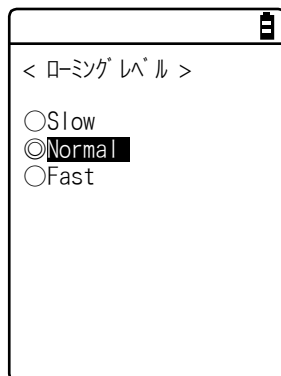


ローミングは、本製品を移動して使用する際に、電波がより強いアクセスポイントを自動的に選んで切替える機能です。切替えの判定をする値をローミングレベルと呼びます。

ローミングは、同じ SSID を持つアクセスポイント間でのみ実行されます。

#### 操作手順

[システムメニュー] → [2:WLAN] → [2:ローミングレベル]



切替え判定にかかるスピードを選択します。

Slow    ローミングしにくい  
Normal    ↑  
Fast    ローミングしやすい

### 3-4-3 省電力モード：省電力モードの ON/OFF



省電力モードを使用して WLAN 通信を行うことができます。

省電力モードを ON にすると、WLAN 通信時の電力消費を抑え、稼働時間を延ばすことができます。

#### 操作手順

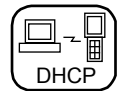
[システムメニュー] → [2:WLAN] → [3:省電力モード]



省電力モードの ON/OFF を選択します。



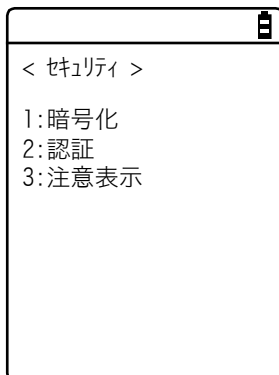
### 3-4-4 セキュリティ : WLAN 通信のセキュリティ設定



WLAN 通信のセキュリティに関する設定をします。

#### 操作手順

[システムメニュー] → [2:WLAN] → [4:セキュリティ]



設定する項目を選択します。

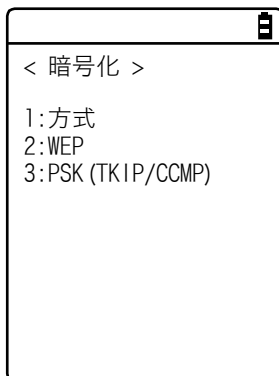
- ・ 暗号化 : 暗号化方式やキーの設定
- ・ 認証 : 認証方式を選択
- ・ 注意表示 : セキュリティ未設定時の注意表示

#### ■ 暗号化

暗号化方式の選択や暗号に使うキーを設定します。

#### 操作手順

[システムメニュー] → [2:WLAN] → [4:セキュリティ] → [1:暗号化]



設定する項目を選択します。

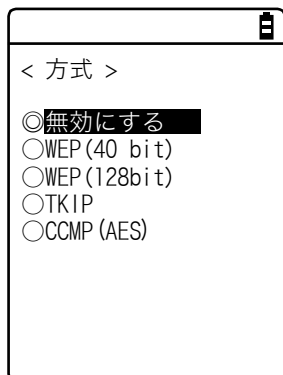
- ・ 方式 : 暗号化方式の選択
- ・ WEP : WEP キーの設定
- ・ PSK(TKIP/CCMP) : 暗号化キーの設定

### ●方式

暗号化方式を選択します。

#### 操作手順

[システムメニュー] → [2:WLAN] → [4:セキュリティ] → [1:暗号化] → [1:方式]



暗号化方式を選択します。

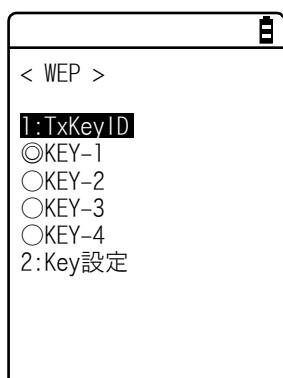
- ・ 無効にする
- ・ WEP(40bit)
- ・ WEP(128bit)
- ・ TKIP
- ・ CCMP(AES)

### ●WEP

本製品の WLAN 通信で使われている IEEE802.11b/g は一般的な無線規格であるため、第三者により容易に傍受されてしまう可能性があります。アクセスポイントと本製品の WLAN 通信データに、暗号化の標準である WEP (Wired Equivalent Privacy) を使用することによって傍受の危険を回避することができます。本製品は「40bit (64bit ともいう)」と「128bit」の2種類の WEP キー (共通鍵) に対応しています。

#### 操作手順

[システムメニュー] → [2:WLAN] → [4:セキュリティ] → [1:暗号化] → [2:WEP]



項目を選択します。

## • TxKey\_ID

次の「KEY 設定」で設定された KEY1～KEY4 のなかで、送信に使用する ID を選択します。WEP 設定が「無効」以外の時有効になります。

ここで設定された TxKey\_ID の WEP キーの内容とアクセスポイントの WEP キーの内容が一致し、かつアクセスポイントで設定されている TransmitKEY の WEP キーの内容と本製品側の WEP キーの内容が一致していなければ通信できません。

**注意**

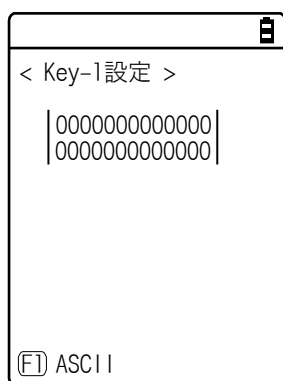
例えば、本製品の TxKey\_ID を「2」とした場合、本製品の WEP キー2 の内容とアクセスポイントの WEP キー2 の内容が一致する必要があります。逆にアクセスポイントの TransmitKEY を「3」とした場合、アクセスポイントの WEP キー3 の内容と本製品の WEP キー3 の内容が一致する必要があります。

## • Key 設定

各 WEP キー（1、2、3、4）の内容を設定します。

設定方法には、HEX 文字列（「0」～「9」、「A」から「F」）と ASCII 文字列があります。入力切替えはキーで行います。トリガキーを使うと、バーコード読取りによる設定も可能です。

## HEX 文字列（デフォルト）



40bit を選択した場合 10 文字固定で、128bit を選択した場合は 26 文字固定になります。実際の入力には常に 26 文字であり、40bit 選択時はその 26 文字前半の 10 文字が採用されます。

【F1】キーを押すと ASCII 文字列入力画面になります。

## ASCII 文字列

40bit を選択した場合 5 文字固定で、128bit を選択した場合は 13 文字固定になります。実際の入力には常に 13 文字であり、40bit 選択時はその 13 文字前半の 5 文字が採用されます。また空白はスペース (0x20) と認識します。

**参 考**

各 WEP キーの設定は上書きはできますが、編集はできません。

KEY 設定画面に入るとセキュリティ上の観点から常に"00000..."を表示するようになっています。

**●PSK(TKIP/CCMP)****操作手順**

**[システムメニュー] → [2:WLAN] → [4:セキュリティ] → [1:暗号化] → [3:PSK(TKIP/CCMP)]**

暗号方式で PSK (TKIP/CCMP) を選択した場合、暗号化キー (鍵) を入力します。アクセスポイントと同じ設定をしてください。

ASCII 文字で設定する時は 8～63 文字で入力します。16 進数で設定する時は 64 文字で入力します。

PSK (TKIP/CCMP) を使用する場合は認証方式 (P.93) を「Open」にしてください。

## セキュリティ機能について

本製品は、WLAN 通信セキュリティ機能として WPA、WPA2 を搭載しています。

### ■WPA (WPA-PSK)、WPA2 (WPA2-PSK) について

#### ・ PSK

PSK とは事前共有鍵 (Pre-Shared Key) のことです。アクセスポイントと本製品で WLAN 通信する前に同じ暗号鍵を設定します。この鍵は第三者に漏れないように管理する必要があります。この意味でいうと WEP で設定する鍵も PSK となります。

#### ・ WPA-PSK、WPA2-PSK

WPA、WPA2 は IEEE802.1X (EAP) 認証に必要な電子証明書、RADIUS サーバなど設備的なコストと技術が必要なため、簡易認証方式として PSK 方式が準備されています。

これはアクセスポイントと同じ事前共有鍵 (PSK) を端末に設定することで簡易的な認証を行い、かつ設定された暗号化方式 (TKIP/CCMP (AES)) で通信します。この方式は事前共有鍵をそのまま暗号鍵とするのではなく、各アクセスポイントー各端末間の接続毎または周期的に乱数を使用して一時鍵を生成します。この処理のため、「暗号化無し」「WEP 方式」に比べてアクセスポイントとの WLAN 通信時には数秒の遅れが発生します。

### ■暗号化方式

本製品の暗号化方式は、以下の通りです。

#### ・ TKIP

TKIP は IEEE802.11i WLAN 通信用暗号化標準の一部で、一時鍵を用いる暗号プロトコル「Temporal Key Integrity Protocol」のことです。これは WEP で使用している暗号化アルゴリズム RC4 を使いながら WEP の弱点を強化した機能です。一時鍵をそのまま RC4 で暗号化するのではなく、鍵混合処理を 2 段階行うことによりパケット毎に異なる鍵で暗号化します。

#### ・ AES

AES はアメリカ政府が使用する暗号化方式として標準化した暗号で Rijndael (ラインデール) というアルゴリズムです。AES は安全性と速度という 2 つの条件が満たされています。しかし WEP、TKIP とはまったく異なる暗号化アルゴリズムのため、新たなハードウェア処理が必要となります。

#### ・ CCMP

CCMP (Counter mode with CBC-MAC Protocol) は AES で使用される改ざん検出プロトコルです。CBC-MAC (Cipher-Block Message Authentication Code) 方式を使用して改ざん検出を行います。WPA2 (IEEE802.11i) ではこの CCMP 方式が必須とされています。

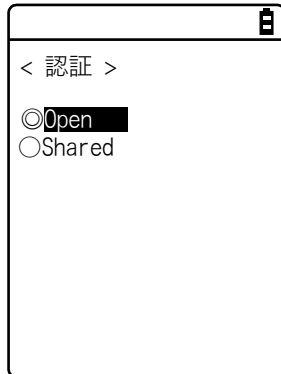
## ■ 認証

認証方式を選択します。

### 操作手順

[システムメニュー] → [2:WLAN] → [4:セキュリティ] → [2:認証]

認証方式を選択します。



・ Open

「Open 認証」方式を設定します。

本製品からの認証要求フレームを受信するとアクセスポイントは認証応答フレームを返信しデータ通信を許可します。

WEP が有効の場合、両者の WEP キーが合っていないければ認証ができません。

・ Shared

「Shared Key 認証」方式を設定します。

本製品から認証要求を行うと、アクセスポイントは暗号化されていない身元要求証明用テキスト文字列（チャレンジコード）を送信します。その後、本製品はチャレンジコードを WEP キーで暗号化して返送します。アクセスポイントはチャレンジコードを WEP キーで復号して送信したチャレンジコードと同じことを確認して認証を許可します。

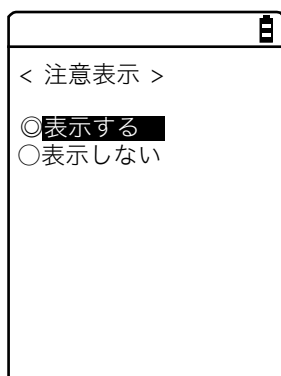
## ■ 注意表示

WLAN 通信セキュリティがまったく設定されていない状態で起動した場合、「WLAN 通信セキュリティ未設定」注意画面が表示されます。この表示を ON/OFF することができます。

この設定を OFF にすると、WLAN 通信セキュリティが未設定でも、起動時に注意画面は表示されません。

### 操作手順

[システムメニュー] → [2:WLAN] → [4:セキュリティ] → [3:注意表示]



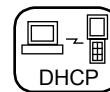
表示の ON/OFF を選択します。

**注意**

この設定を OFF にすることはセキュリティ上お奨めしません。

WLAN 通信をする場合は、必ずセキュリティの設定をしてください。

### 3-4-5 詳細設定 : WLAN 通信に関する詳細な設定

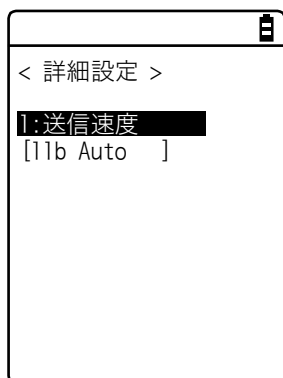


WLAN 通信に関する詳細な設定をします。

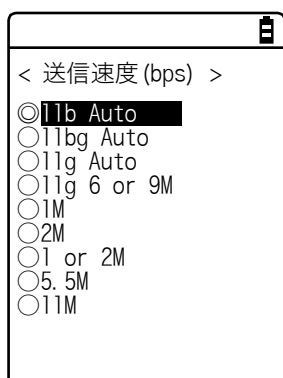
#### 操作手順

[システムメニュー] → [2:WLAN] → [5:詳細設定]

① [送信速度] を選択します。



② リストから送信速度を選択します。



送信速度を、リストから選択します。

送信速度に関しては次項を参照してください。

#### ●送信速度

高速通信で固定にするほど本製品の送信可能エリアは狭くなります。

本製品側の速度設定により、14ch の使用可否問題およびアクセスポイント側の速度設定による接続性について制限があります。下表を参照してください。

| 速度設定                | 説明                                                                                          | 14ch<br>※1 | アクセスポイント側速度<br>設定との接続性 ※2 |             |             |
|---------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|------------|---------------------------|-------------|-------------|
|                     |                                                                                             |            | 11b/g<br>両用               | 11b<br>Only | 11g<br>Only |
| 11b Auto<br>(デフォルト) | 本製品とアクセスポイントとの距離に応じて、適切な送信速度に自動的に変更されます。IEEE802.11b (11,5.5,2,1Mbps) の範囲となります。              | ○          | ○                         | ○           | ×           |
| 11bg Auto           | 本製品とアクセスポイントとの距離に応じて、適切な送信速度に自動的に変更されます。                                                    | ×          | △                         | ○           | ◎           |
| 11g Auto            | 本製品とアクセスポイントとの距離に応じて、適切な送信速度に自動的に変更されます。IEEE802.11g (54、48、36、24、18、12、9、6Mbps) の速度範囲となります。 | ×          | △                         | ○           | ◎           |
| 11g 6 or 9M         | 本製品とアクセスポイントとの距離に応じて、9Mbps または 6Mbps の送信速度に自動的に変更されます。                                      | ×          | △                         | ○           | ◎           |
| 1M                  | 送信速度は 1Mbps 固定です。                                                                           | ○          | ○                         | ○           | ×           |
| 2M                  | 送信速度は 2Mbps 固定です。                                                                           | ○          | ○                         | ○           | ×           |
| 1 or 2M             | 送信速度は 1Mbps、2Mbps でのみ自動的に変更されます。                                                            | ○          | ○                         | ○           | ×           |
| 5.5M                | 送信速度は 5.5Mbps 固定です。                                                                         | ○          | ○                         | ○           | ×           |
| 11M                 | 送信速度は 11Mbps 固定です。                                                                          | ○          | ○                         | ○           | ×           |

※1 14ch の使用可否

○ : 使用可能です。

×

※2 アクセスポイント側の速度設定との接続性

◎ : 接続可能です。11g の速度が優先され高速通信できます。

○ : 接続可能です。11b の速度で通信します。

△ : 接続可能です。11b/g のネゴシエーションのためスループットが若干落ちます。

×

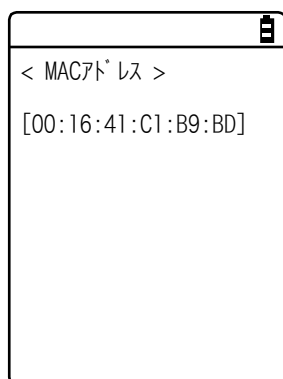


## 3-4-6 MAC アドレス : MAC アドレスの表示

MAC アドレス（ハードウェア固有のアドレス）を表示します。MAC アドレスは変更できません。

### 操作手順

[システムメニュー] → [2:WLAN] → [6:MAC アドレス]



本製品の MAC アドレスが表示されます。

## 3-5 ネットワーク：ネットワーク接続の設定

ネットワーク接続に必要な設定をします。

### 操作手順

【システムメニュー】 → 【3:ネットワーク】



設定する項目を選択します。

- ・ TCP/IP : TCP/IP 通信に関する設定 (P.[97](#))
- ・ DHCP : DHCP クライアント機能の設定 (P.[99](#))
- ・ FTP : FTP クライアント機能を使用するための設定 (P.[101](#))
- ・ DNS : DNS サーバのアドレスの設定 (P.[104](#))
- ・ SNMP : SNMP の各種設定 (P.[106](#))

### 3-5-1 TCP/IP : TCP/IP の設定

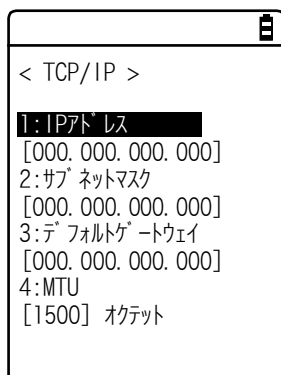


IP アドレスを始めとする TCP/IP 通信に関する設定をします。

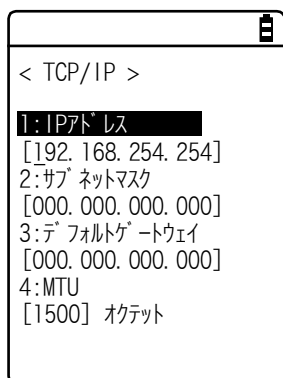
### 操作手順

【システムメニュー】 → 【3:ネットワーク】 → 【1:TCP/IP】

① 現在の設定内容が表示されます。



## ② 各項目を設定します。



```

< TCP/IP >
1: IPアドレス
   [192.168.254.254]
2: サブネットマスク
   [000.000.000.000]
3: デフォルトゲートウェイ
   [000.000.000.000]
4: MTU
   [1500] オクテット
  
```

項目名を選択すると入力可能になります。

## ・ IP アドレス

ネットワーク管理者から割当てられた IP アドレスを設定します。同一のネットワークに接続する全ての PGR-120-G について、固有の IP アドレスを設定します。

## ・ サブネットマスク

ネットワーク管理者から割当てられたサブネットマスクを設定します。サブネットマスクはネットワークの所属を特定するために IP アドレスとあわせて設定します。

## ・ デフォルトゲートウェイ

デフォルトゲートウェイのアドレスを設定します。ルータを介して異なるネットワークに接続する場合に必要になります。

## ・ MTU

IP パケットの最大長です。イーサネットでは通常 1500 オクテット（バイト）です。ルータを超えて使用する場合など、通信メディアによってはこの値を変更する必要があります。詳しくはネットワーク管理者にお問合せください。

## （入力例）IP アドレス

ピリオドで区切られた各フィールドに 000～255 の数値を入力します（例：192.168.254.254）。

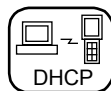
「サブネットマスク」「デフォルトゲートウェイ」も同様の手順で入力します。

各項目の設定値については、ネットワーク管理者にお問合せください。

**注意**

- ・ IP アドレスが [000.000.000.000] の状態では、WLAN 通信を実行できません
- ・ DHCP 設定の「■スタートアップの種類」（P.99）で「アプリケーションソフト起動時」を選択した場合、MTU 以外は確認のみとなり、変更することはできなくなります。

## 3-5-2 DHCP : DHCP の設定



TCP/IP や各種設定項目を自動的に設定できる DHCP クライアント機能を設定します。

### 参考

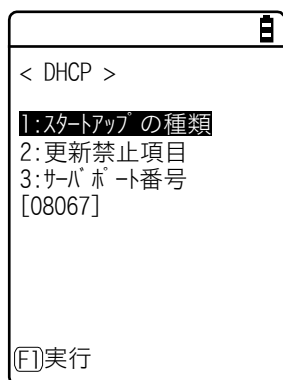
本書では、DHCP でパソコンから自動設定できるシステムメニュー項目には、次のマークが付けられています。



### 操作手順

【システムメニュー】→【3:ネットワーク】→【2:DHCP】

設定する項目を選択します。



- ・スタートアップの種類：DHCP の無効/実行の設定
- ・更新禁止項目：DHCP で更新を禁止する項目の設定
- ・サーバポート番号：DHCP サーバポート番号の設定

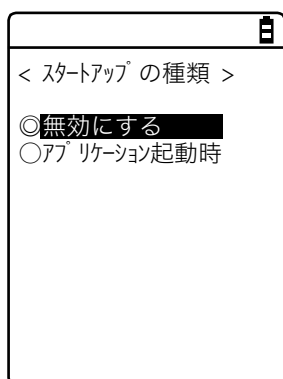
### ■スタートアップの種類

起動時の DHCP の無効/実行を設定します。

### 操作手順

【システムメニュー】→【3:ネットワーク】→【2:DHCP】→【1:スタートアップの種類】

スタートアップの種類を設定します。



- ・無効にする（出荷時設定）  
起動時に DHCP は実行されません。
- ・アプリケーション起動時  
アプリケーションソフトが実行される前に DHCP が実行されます。  
【システムメニュー】→【1:システム】→【1:自動実行】でアプリケーションソフトが選択されている場合、本製品起動後、アプリケーションソフトが実行される前に DHCP 機能が実行されます。  
なお、システムメニューの【5:ファイル】でアプリケーションソフトを起動した場合、DHCP は実行されません。

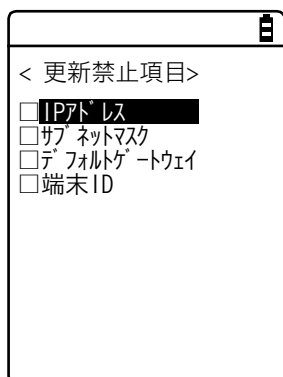
### ■更新禁止項目

DHCP 機能実行時に、指定した端末固有の情報を変更しないように設定することができます。

#### 操作手順

**[システムメニュー] → [3:ネットワーク] → [2:DHCP] → [2:更新禁止項目]**

更新禁止にする項目を選択します。



更新を禁止する項目をチェックします。

- ・ IP アドレス
- ・ サブネットマスク
- ・ デフォルトゲートウェイ
- ・ 端末 ID

#### 注意

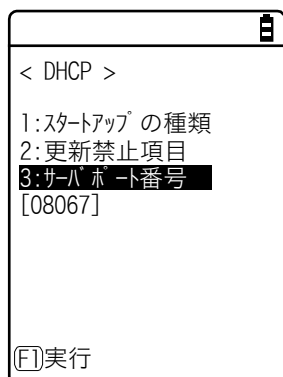
IP アドレスがチェックされている（IP アドレス更新禁止）場合、本製品に設定されている IP アドレスは変更されません。ネットワーク上に同一の IP アドレスのホストがないことを確認してご使用ください。

### ■サーバポート番号

DHCP サーバポートを設定します（出荷時設定：08067）。

#### 操作手順

**[システムメニュー] → [3:ネットワーク] → [2:DHCP] → [3:サーバポート番号]**



DHCP サーバのポート番号を入力します。

本製品特有の設定項目の自動設定を行わず、単に IP アドレスの割り振りを行うために既存の DHCP サーバを使用したい場合は、値を変更します。

DHCP サーバポート番号は、デフォルトで 08067 です。これは同一ネットワークで業務を運用している他の DHCP サーバとの競合を避けるためです（ウェルノウンポート番号は 67 番です）。

### 3-5-3 FTP：FTP の設定



FTP クライアント機能を使用するための設定をします。

DHCP 機能を有効にすると、自動的に設定することもできます。

#### 操作手順

【システムメニュー】 → 【3:ネットワーク】 → 【3:FTP】

設定する項目を選択します。

- ・サーバアドレス：FTP サーバのホスト名の設定
- ・ユーザ名：FTP サーバへのログインユーザー名の設定
- ・パスワード：FTP サーバへのログインパスワードの設定
- ・詳細設定：FTP の詳細な情報の設定

#### ■サーバアドレス

FTP サーバのホスト名を設定します。

#### 操作手順

【システムメニュー】 → 【3:ネットワーク】 → 【3:FTP】 → 【1:サーバアドレス】

「1:指定方法」で指定した IP またはホスト名が FTP サーバとして設定されます。

- ・ IP を選択した場合

「2:IP」に FTP サーバの IP アドレスを入力します。

- ・ ホスト名を選択した場合

「3:ホスト名」に FTP サーバのホスト名を入力します。

ホスト名に半角スペースを含むことはできません。

#### 参考

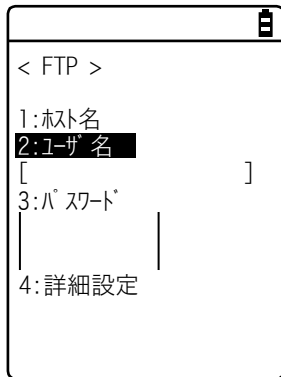
「ホスト名」を使用する場合は、DNS を設定してください (P.[104](#))。

## ■ユーザ名

FTP サーバへのログインユーザ名を設定します。

### 操作手順

**【システムメニュー】 → 【3:ネットワーク】 → 【3:FTP】 → 【2:ユーザ名】**



The screenshot shows a terminal window titled '< FTP >'. It contains a list of menu items: '1: ホスト名', '2: ユーザ名' (highlighted with a black bar), '3: パスワード', and '4: 詳細設定'. A vertical cursor is positioned to the right of the '2: ユーザ名' option.

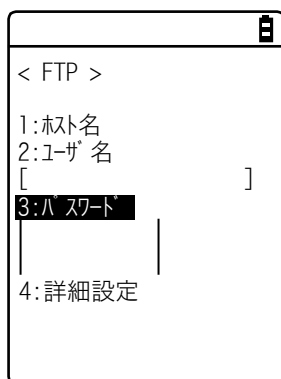
ユーザ名を、18 文字までの半角英数記号で、大文字/小文字を区別して入力します。

## ■パスワード

FTP サーバへのログインパスワードを設定します。

### 操作手順

**【システムメニュー】 → 【3:ネットワーク】 → 【3:FTP】 → 【3:パスワード】**



The screenshot shows a terminal window titled '< FTP >'. It contains a list of menu items: '1: ホスト名', '2: ユーザ名', '3: パスワード' (highlighted with a black bar), and '4: 詳細設定'. A vertical cursor is positioned to the right of the '3: パスワード' option.

パスワードを、20 文字までの半角英数記号で、大文字/小文字を区別して入力します。

パスワードに半角スペースを含むことはできません。

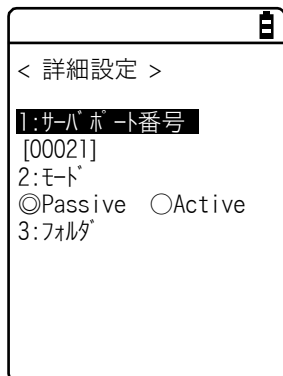
セキュリティ対策として、入力後のパスワードは伏字（\*）に変換されて表示されます。

## ■詳細設定

FTP の詳細な情報を設定します。

### 操作手順

【システムメニュー】 → 【3:ネットワーク】 → 【3:FTP】 → 【4:詳細設定】



設定する項目を選択します。

- ・サーバポート番号：FTP サーバの制御ポート番号の指定
- ・モード：モードの指定
- ・フォルダ：フォルダの指定

### ●サーバポート番号

FTP サーバの制御ポート番号を指定します。出荷時設定は、FTP のウェルノウンポート番号である 21 番（00021）に設定されています。

### ●モード

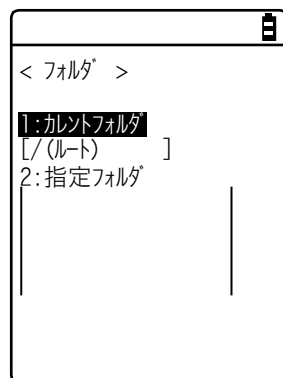
デフォルトは Passive モードです。FTP サーバが Passive モード対応されていない場合は Active モードにしてください。

### 参考

ファイアウォールの設定で、ファイアウォール外側からファイアウォール内側への接続を拒否する機能があります。この機能が有効な場合 Active モードでは FTP 通信ができません。Passive モードを使用すると、ファイアウォールを超えた場所にある FTP サーバとの通信が可能になります。

### ●フォルダ

FTP サーバの送受信フォルダを設定します。



・カレントフォルダ

「カレントフォルダ」を選択するとサブメニューが表示されます。

次の項目からカレントフォルダを選択します。

/ (ルート)

FTP サーバの指定するルートフォルダです。FTP サーバによってはユーザー名のフォルダをルートフォルダにする場合もあります。



/ (ユーザ名)

FTP サーバのルートフォルダ中にあるユーザー名と同一のフォルダをカレントフォルダにします。ユーザー名が設定されずに FTP 機能（ファイル送受信）を実行するとエラー画面になります。

/ (指定)

「指定フォルダ」（次項参照）で設定されたルートフォルダからの相対パスがカレントフォルダとなります。

・ 指定フォルダ

〔指定フォルダ〕を選択してフォルダ名を入力します。

ここで設定された文字列が FTP メソッド「CWD」に追加されます。ここで設定された文字列が直接 FTP 通信されるので、サーバに対応した文字列を設定してください。

（例）"dir1/dir2/dir3"

指定フォルダに半角スペースを含むことはできません。

### 3-5-4 DNS : DNS サーバの設定



DNS サーバのアドレスを設定します。

#### 操作手順

〔システムメニュー〕 → 〔3:ネットワーク〕 → 〔4:DNS〕

設定する項目を選択します。

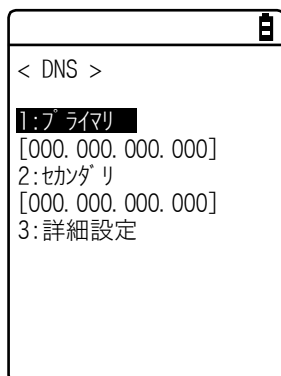
- ・ プライマリ：プライマリ DNS サーバの IP アドレスの設定
- ・ セカンダリ：セカンダリ DNS サーバの IP アドレスの設定
- ・ 詳細設定：DNS の詳細設定

## ■プライマリ

プライマリ DNS サーバの IP アドレスを設定します。

### 操作手順

[システムメニュー] → [3:ネットワーク] → [4:DNS] → [1:プライマリ]



< DNS >

1: プライマリ  
[000.000.000.000]

2: セカンダリ  
[000.000.000.000]

3: 詳細設定

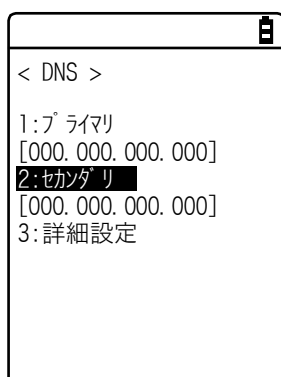
プライマリ DNS サーバの IP アドレスを入力します。

## ■セカンダリ

セカンダリ DNS サーバの IP アドレスを設定します。

### 操作手順

[システムメニュー] → [3:ネットワーク] → [4:DNS] → [2:セカンダリ]



< DNS >

1: プライマリ  
[000.000.000.000]

2: セカンダリ  
[000.000.000.000]

3: 詳細設定

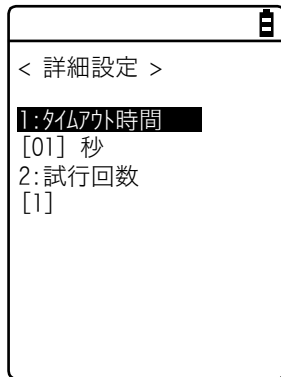
セカンダリ DNS サーバの IP アドレスを入力します。

### ■ 詳細設定

DNS の詳細を設定します。

#### 操作手順

[システムメニュー] → [3:ネットワーク] → [4:DNS] → [3:詳細設定]



項目を選択して設定します。

- ・ タイムアウト時間  
応答パケット待ち時間を 1～99 秒で設定します。
- ・ 試行回数  
リトライ回数を設定します。0 を設定すると 1 パケットのみ送信して、リトライしません。

## 3-5-5 SNMP : SNMP の設定



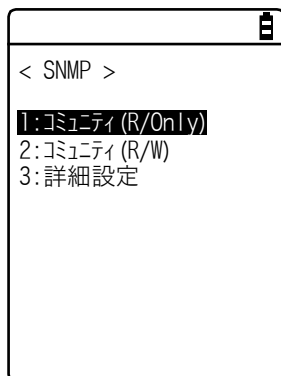
SNMP の各種設定をします。

DHCP 機能を有効にすると、自動的に設定することもできます。

#### 操作手順

[システムメニュー] → [3:ネットワーク] → [5:SNMP]

設定する項目を選択します。



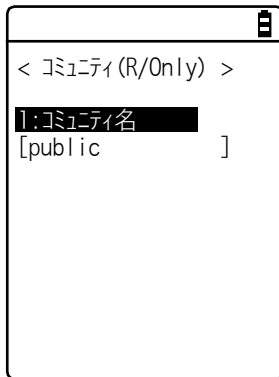
- ・ コミュニティ (R/Only) : リードオンリーのコミュニティ名を設定
- ・ コミュニティ (R/W) : リードライトのコミュニティ名を設定
- ・ 詳細設定 : SNMP の詳細な機能を設定

### ■コミュニティ (R/Only)

読取り専用のコミュニティ名を設定します。

#### 操作手順

[システムメニュー] → [3:ネットワーク] → [5:SNMP] → [1:コミュニティ (R/Only)]



項目を選択して設定します。

・コミュニティ名

コミュニティ名を最大 16 文字までの英数字で指定します。

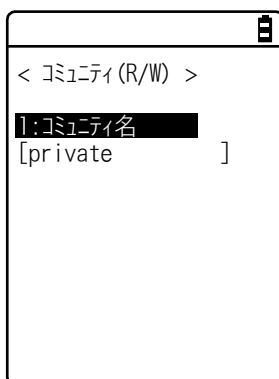
このコミュニティ名によって許可される動作は、"Read-Only"（読取り専用）です。GET、GET-NEXT リクエストは、このコミュニティ名の中でサポートされます。このコミュニティ名で SET リクエストされた場合、authentication trap を送信します。

### ■コミュニティ (R/W)

読み書き用のコミュニティ名を設定します。

#### 操作手順

[システムメニュー] → [3:ネットワーク] → [5:SNMP] → [2:コミュニティ (R/W)]



項目を選択して設定します。

・コミュニティ名

コミュニティ名を最大 16 文字までの英数字で指定します。

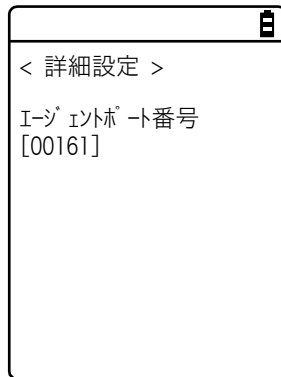
このコミュニティ名によって許可される動作は"Read-Write"（読み書き）です。GET、GET-NEXT、SET リクエストは、このコミュニティ名の中でサポートされます。

## ■詳細設定

SNMP の詳細な機能を設定します。

### 操作手順

[システムメニュー] → [3:ネットワーク] → [5:SNMP] → [3:詳細設定]



項目を選択して設定します。

・ エージェントポート番号

SNMP マネージャと通信するポート番号を設定します。

出荷時設定は SNMP のウェルノウンポート番号である 161 番 (00161) に設定されています。

## ●SNMP について

- ・ 本製品は、「WebGlider 統合サーバ」(WGS-001) に含まれている「ネットワーク管理ツール」を使用して管理することができます。
- ・ SNMP-PDU (Protocol Data Unit) は SNMPv1 に準拠しています。
- ・ 本製品では、次の各種 MIB グループのオブジェクトを管理しています。

|                           |                       |
|---------------------------|-----------------------|
| [1. 3. 6. 1. 2. 1. 1]     | MIB2-System           |
| [1. 3. 6. 1. 2. 1. 2]     | MIB2-Interfaces       |
| [1. 3. 6. 1. 2. 1. 4]     | MIB2-IP               |
| [1. 3. 6. 1. 2. 1. 5]     | MIB2-ICMP             |
| [1. 3. 6. 1. 2. 1. 6]     | MIB2-TCP              |
| [1. 3. 6. 1. 2. 1. 7]     | MIB2-UDP              |
| [1. 3. 6. 1. 2. 1. 11]    | MIB2-SNMP             |
| [1. 3. 6. 1. 4. 1. 12392] | Welcat Enterprise MIB |

Welcat Enterprise MIB は、ASN.1 フォーマットで記述されています。

Welcat Enterprise MIB は、「WebGlider 統合サーバ」に同梱されています（詳細は弊社営業までお問合せください）。

## 3-6 受信：WLAN/Bluetooth 通信でファイルを受信

### 3-6-1 受信：WLAN/Bluetooth 通信でファイルを受信

受信の際は、あらかじめ次のことを確認してください。受信したファイルは全て F ドライブに保存されます。

#### ●WLAN 通信を使用する場合

- 本製品とアクセスポイントの通信設定（IP アドレス、SSID、セキュリティ設定等）が正しく設定されている
- アクセスポイントとパソコンの電源が入っている
- アクセスポイントとパソコンが正しく設定、接続されている
- アクセスポイントが正常に動作している
- パソコン側で FTP サーバが起動している
- 本製品の FTP 設定（ホスト名、ユーザー名等）が正しく設定されている

#### ●Bluetooth 通信を使用する場合

- パソコンの電源が入っている
- パソコンに Bluetooth 通信アダプタが正しく挿入されている
- BluetoothManager を ON にし、パソコンのタスクトレイに表示されている BluetoothManager のアイコンが白になっている



- BluePorter-V が起動している
- 本製品のデフォルトデバイスとして、送信側のパソコンが登録されている

#### 参考

BluePorter-V でファイルを受信する場合、ファイルリストに表示できるファイル数は、最大 60 個です。

BluePorter-V の送信フォルダに格納するファイル数は 60 個以下にしてください。

## 操作手順

[システムメニュー] → [4:受信]

受信のための通信手段を選択します。



受信方法として WLAN または Bluetooth を選択します。

- ・ WLAN
- ・ Bluetooth

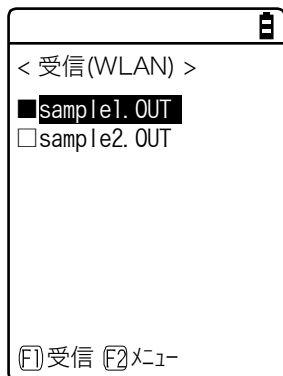
## ■ファイルの受信

### 操作手順

[システムメニュー] → [4:受信] → [1:WLAN] または [2:Bluetooth]

① ファイルリストを取得し、受信するファイルを選択します。

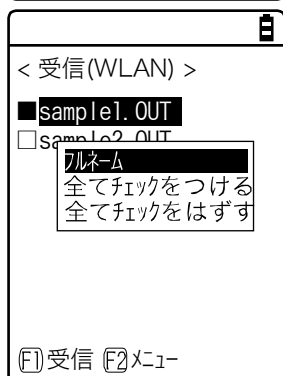
画面例は、WLAN 通信を選択した場合の表示です。



受信するファイルをチェックします。

【F1】キーを押すと受信確認ダイアログが表示されます。この際、チェックされているファイルが1つもない場合は、選択中のファイルを受信します。

[はい] / [いいえ] を選択します。

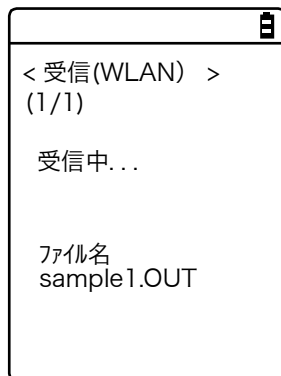


【F2】キーを押すとファイルリストを操作するためのサブメニューが表示されます。

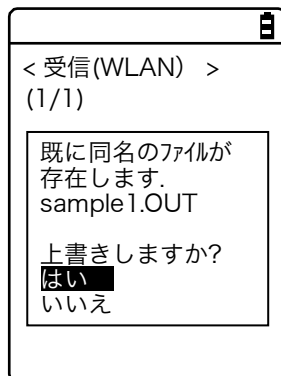
必要に応じて設定します。

- ・ フルネーム  
選択中のファイル名の全体を表示します。
- ・ 全てチェックをつける  
ファイルリストのチェックボックスを全てチェックします。
- ・ 全てチェックをはずす  
ファイルリストのチェックボックスから全てチェックをはずします。

## ② 受信が開始されます。



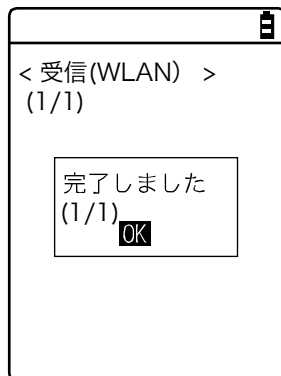
受信状況が画面に表示されます。



受信するファイルと同じファイル名が存在する場合は、上書き確認ダイアログが表示されます。

[はい] / [いいえ] を選択します。

## ③ 受信を完了します。



受信が完了すると、メッセージボックス内に「(受信成功数/チェック数)」が表示されます。

【ENT】キーを押します。



## 3-7 ファイル：ファイルの実行・送信・削除など

目的のファイルを探し、実行、送信、削除などの各種操作ができます。

各ドライブのファイル種類ごとに分類されたリストから、操作するファイルを選択します。ファイルの種類は拡張子（ファイル名のピリオドに続く3文字）により決定され、次のように分類されます。

| 拡張子     | ファイルの種類     |
|---------|-------------|
| OUT     | アプリケーションソフト |
| JPG、PNG | 画像データ       |
| それ以外    | データ         |

可能な操作は次の通りです。特定のファイルの種類に関連付けられた操作と、全てのファイルで有効な操作があります。

| 操作               | 説明                                                 |
|------------------|----------------------------------------------------|
| 実行 <sup>※1</sup> | アプリケーションソフトを起動します。ファイルの種類が「アプリケーション」のファイルのみ操作可能です。 |
| 閲覧 <sup>※2</sup> | 画像データを表示します。ファイルの種類が「JPG,PNG」のファイルのみ操作可能です。        |
| 情報               | ファイルに関する各種情報を表示します。                                |
| 送信               | ファイルを送信します。                                        |
| 削除               | ファイルを削除します。                                        |
| 全てチェックをつける       | ファイルリストのチェックボックスを全てチェックします。                        |
| 全てチェックをはずす       | ファイルリストのチェックボックスから全てチェックをはずします。                    |

※1 Sドライブのファイルは操作できません。

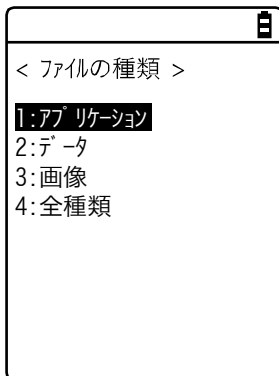
※2 サポートする画像データは次の通りです。

|        |                 |
|--------|-----------------|
| フォーマット | JPG、PNG         |
| サイズ    | 最大 240×296 ピクセル |

## 操作手順

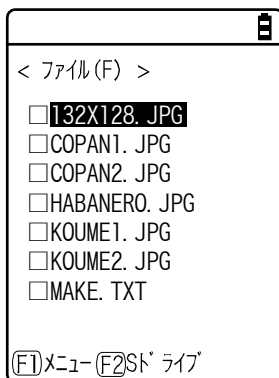
### [システムメニュー] → [5:ファイル]

#### ① ファイルの種類を選択します。



操作対象のファイルの種類を選択します。「全種類」を選択すると、ファイルの種類に関係なく、ドライブに保存されている全ファイルが対象となります。

#### ② ドライブを選択し、操作するファイルをチェックします。



Fドライブがカレントドライブになります。

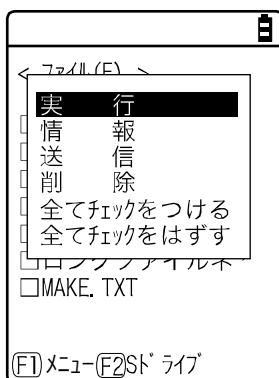
Fドライブにファイルが格納されていない場合はSドライブがカレントドライブになります。

【F2】キーを押すたびにカレントドライブが切替わります。

ファイルを選択して【ENT】キーを押すと、チェックボックスのチェックをつけたり外したりすることができます。

チェックされたファイルが対象になる操作と、選択されたファイルが対象になる操作があります。

#### ③ ファイルを操作します。



【F1】キーを押すと、ファイル操作のサブメニューが表示されます。

(注) 選択するファイルにより、以下のサブメニューの項目は異なります。

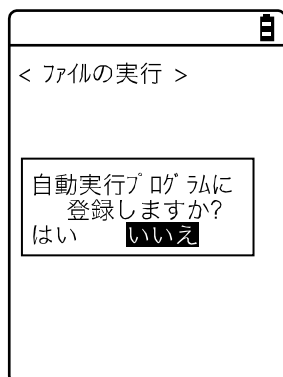
- ・実行：アプリケーションソフトの実行
- ・閲覧：画像データの表示
- ・情報：ファイル詳細情報の表示
- ・送信：ファイルをパソコンや他の端末に送信
- ・削除：ファイルを削除
- ・全てチェックをつける：全てのファイルを選択
- ・全てチェックをはずす：全てのファイルの選択をはずす

## ■実行：アプリケーションソフトの実行

### 操作手順

[システムメニュー] → [5:ファイル] → [1:アプリケーション] → [F1 メニュー]  
→ [実行]

選択したファイルを実行します。



選択中（反転表示）のファイルが実行されます（チェックボックスのチェック状態とは関係ありません）。

【ENT】キーを押すと実行されます。

実行するアプリケーションソフトが自動実行に登録されていない場合、登録を確認するダイアログが表示されます。

実行されたアプリケーションソフトを終了するには、アプリケーションソフトごとに定められた操作を行ってください。終了後にシステムメニューが再度表示されるか、本体の電源を OFF にするかはアプリケーションソフトに依存します。

動作中にバッテリーパック残量がなくなった時は、アラーム表示後に本体の電源が OFF になります。

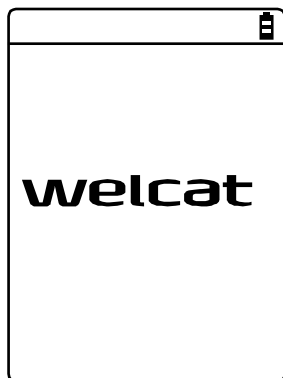
アプリケーションソフトを強制的に終了したい場合は、アプリケーションソフトの動作中に【ON】キーを 10 秒間押し続けてください。

## ■閲覧：画像データの表示

### 操作手順

[システムメニュー] → [5:ファイル] → [3:画像] → [F1 メニュー] → [閲覧]

画像データ（JPG、PNG）を表示して確認します。



選択中（反転表示）のファイルの画像が表示されます（チェックボックスのチェック状態とは関係ありません）。

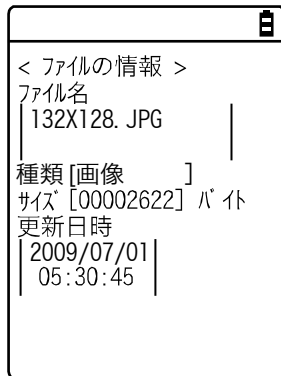
何かキーを押すと「ファイル操作メニュー」に戻ります。

## ■情報：ファイル詳細情報を表示

### 操作手順

[システムメニュー] → [5:ファイル] →ファイルの種類を選択→ [F1 メニュー] → [情報]

ファイルの詳細な情報を確認します。



< ファイルの情報 >  
ファイル名  
132X128. JPG  
種類 [画像]  
サイズ [00002622] バイト  
更新日時  
2009/07/01  
05:30:45

次の情報が表示されます。

- ・ ファイル名
- ・ ファイル種類
- ・ サイズ
- ・ 更新日時

選択中（反転表示）のファイルに関する情報が表示されます（チェックボックスのチェック状態とは関係ありません）。

何かキーを押すと<ファイル>画面に戻ります。

## ■送信：ファイルをパソコンや他の端末に送信



送信の際は、あらかじめ次のことを確認してください。

### ●WLAN 通信を使用する場合

- ・ 本製品とアクセスポイントの通信設定（IP アドレス、SSID、セキュリティ設定等）が正しく設定されている
- ・ アクセスポイントとパソコンの電源が入っている
- ・ アクセスポイントとパソコンが正しく設定、接続されている
- ・ アクセスポイントが正常に動作している
- ・ パソコン側でFTP サーバが起動している
- ・ 本製品のFTP 設定（ホスト名、ユーザー名等）が正しく設定されている

### ●Bluetooth 通信を使用する場合

- パソコンの電源が入っている
- パソコンに Bluetooth 通信アダプタが正しく挿入されている
- BluetoothManager を ON にし、パソコンのタスクトレイに表示されている BluetoothManager のアイコンが白になっている

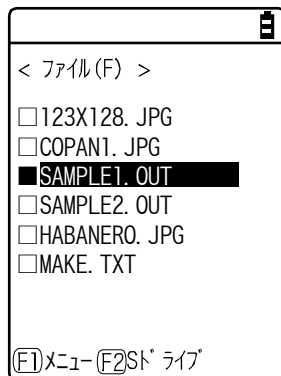


- BluePorter-V が起動している
- 本製品のデフォルトデバイスとして、送信側のパソコンが登録されている

### 操作手順

[システムメニュー] → [5:ファイル] → ファイルの種類を選択 → [F1 メニュー] → [送信]

#### ① チェックされているファイルが送信されます。

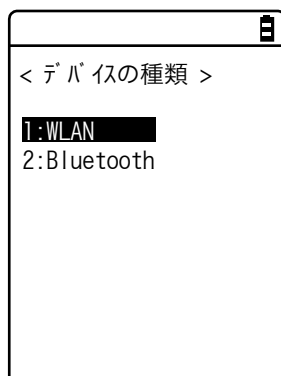


送信するファイルを選択して、チェックします。

チェックされているファイルが1つもない場合は、選択中のファイルが送信されます。

【F1】キーを押して、[送信] を選択して【ENT】キーを押します。

#### ② 送信方式を選択します。

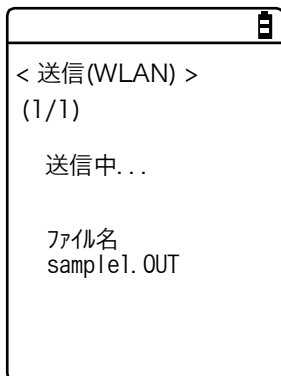


送信方式を選択します。

- ・ WLAN
- ・ Bluetooth

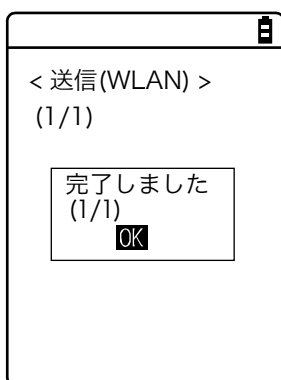
## ③ 送信が開始されます。

画面例は、WLAN 通信を選択した場合の表示です。



送信状況が画面に表示されます。

## ④ 送信を完了します。



送信が完了すると、メッセージボックス内に「(送信成功数/チェック数)」が表示されます。

【ENT】キーを押します。

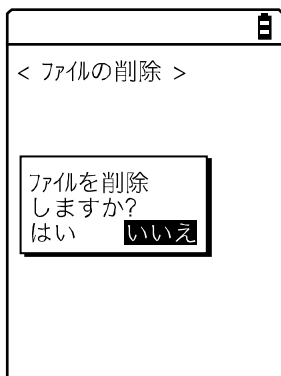
## ■ 削除：ファイルを削除

### 操作手順

【システムメニュー】→【5:ファイル】→ファイルの種類を選択→【F1 メニュー】→【削除】

チェックされているファイルを削除します。

ただし、チェックされているファイルが1つもない場合は、選択中（反転表示）のファイルが削除されます。



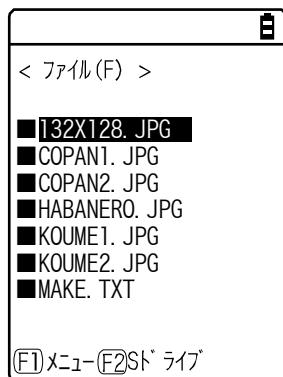
確認ダイアログが表示されます。

【はい】 / 【いいえ】 を選択します。

**■全てチェックをつける：全てのファイルを選択****操作手順**

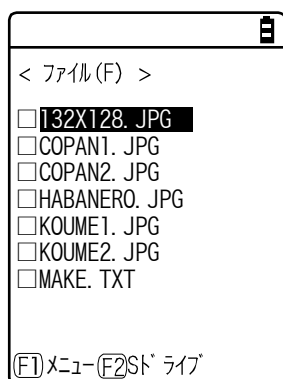
[システムメニュー] → [5:ファイル] →ファイルの種類を選択→ [F1 メニュー]  
→ [全てチェックをつける]

全てのチェックボックスがチェックされます。

**■全てチェックを外す：全てのファイルの選択を外す****操作手順**

[システムメニュー] → [5:ファイル] →ファイルの種類を選択→ [F1 メニュー] → [全てチェックをはずす]

全てのチェックボックスのチェックを外します。



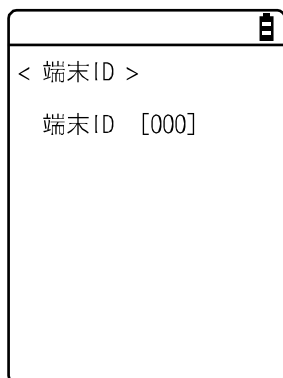
## 3-8 端末 ID : 端末識別用 ID を設定

個々の PGR-120-G に識別用の ID 番号を設定します。端末ごとに固有の番号を設定してください。

### 操作手順

[\[システムメニュー\]](#) → [\[6:端末 ID\]](#)

端末固有の識別 ID 番号を設定します。



< 端末ID >  
端末ID [000]

入力可能な ID は 000～999 です。



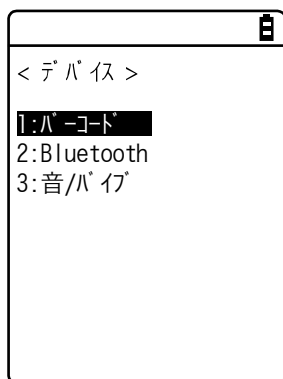
## 3-9 デバイス：ハードウェアの機能を設定

バーコードスキャナやキーなどのハードウェアデバイスを設定します。デバイスカテゴリ内は、デバイスの種類ごとに分類されています。

### 操作手順

[\[システムメニュー\]](#) → [\[7:デバイス\]](#)

設定するハードウェアデバイスを選択します。



設定する項目を選択します。

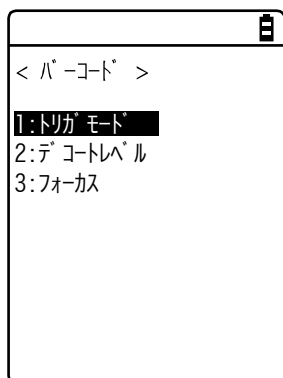
- ・バーコード：バーコードスキャナの設定（P.[120](#)）
- ・Bluetooth：Bluetooth の登録設定（P.[124](#)）
- ・音/バイブ：音量・LED・バイブレータの設定（P.[128](#)）

### 3-9-1 バーコード：バーコードスキャナの設定

### 操作手順

[\[システムメニュー\]](#) → [\[7:デバイス\]](#) → [\[1:バーコード\]](#)

設定するバーコードスキャナの機能を選択します。



次の項目から選択します。

- ・トリガモード：レーザースキャナのレーザー照射時間の設定
- ・デコードレベル：バーコードの読取許容範囲の設定
- ・フォーカス：レーザースキャナの焦点距離の設定

## ■トリガモード

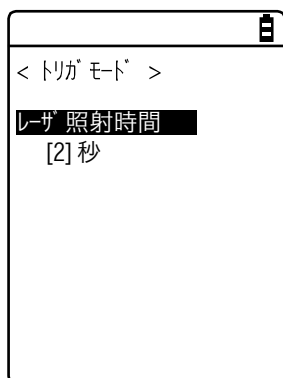
レーザースキャナのレーザー照射時間を設定します。

この設定は、バーコードの読取りに「トリガモード」を使用しているアプリケーションソフトでのみ有効です。

### 操作手順

【システムメニュー】 → 【7:デバイス】 → 【1:バーコード】 → 【1:トリガモード】

自動的にレーザー光を消すまでの時間を設定します。



設定可能な時間は 1～7 秒です。

■デコードレベル

バーコードの読取許容範囲を設定します。

デコードレベルを「厳しい」に設定すると、ラベルを厳格にチェックします。そのため品質の悪いラベルは読みにくくなりますが、誤読する可能性は低くなります。

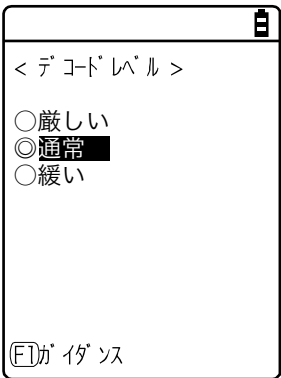
一方、デコードレベルを「緩い」に設定すると、ある程度品質の悪いラベルも読取るようになりますが、誤読する可能性も高くなります。

「緩い」に設定する場合は、必ずチェックデジットのチェックや、桁数チェック、データチェック等のソフトウェア上のチェックをするようにしてください。

操作手順

[システムメニュー] → [7:デバイス] → [1:バーコード] → [2:デコードレベル]

デコードレベルを設定します。



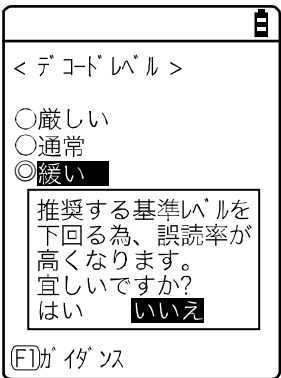
「厳しい」、「通常」、「緩い」から選択します。

レベル値と読取りやすさの関係は次の通りです。

読取レベルと誤読レベルは比例します。

| レベル値 | 読取（誤読）率     |
|------|-------------|
| 厳しい  | 厳しい（誤読しにくい） |
| 通常   | ↑<br>↓      |
| 緩い   | 緩い（誤読しやすい）  |

【F1】キーを押すと設定値に関するガイダンスが表示されます。



レベルを「緩い」に設定しようとした場合、誤読に関する注意ガイダンスが表示されます。

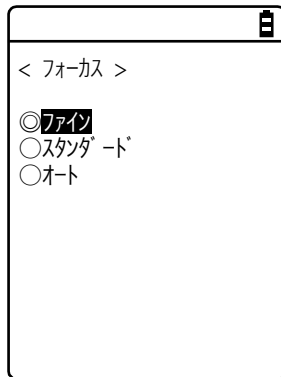
[はい] または [いいえ] を選択します。

## ■フォーカス

二次元スキャナの焦点距離を設定します。

### 操作手順

[システムメニュー] → [7:デバイス] → [1:バーコード] → [3:フォーカス]



「ファイン」「スタンダード」「オート」から選択します。

・ファイン

分解能は高いが、読取り可能な範囲は狭い。小さいバーコードを読取る時に選択します。

・スタンダード

分解能は低いが、読取り可能範囲は広い。大きなバーコード、幅の広いバーコードを読取る時に選択します。

・オート

ファインとスタンダードが周期的に変更されます。

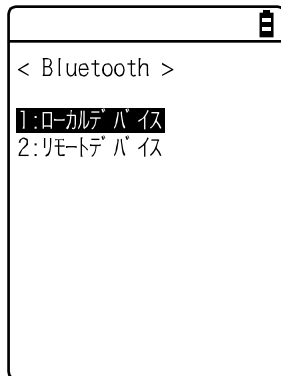
※読取り時にスキャナ駆動音が生じますが、故障ではありません。

## 3-9-2 Bluetooth：Bluetooth の登録設定

### 操作手順

[システムメニュー] → [7:デバイス] → [2:Bluetooth]

設定対象を選択します。



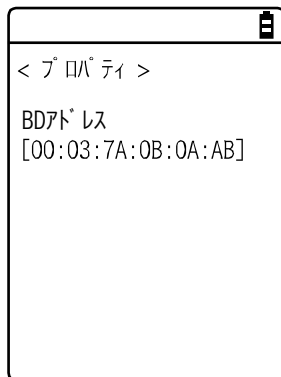
- ・ローカルデバイス：本製品の設定
- ・リモートデバイス：本製品と接続するデバイスの設定

### ■ローカルデバイス

本製品の BD アドレスを表示します。

### 操作手順

[システムメニュー] → [7:デバイス] → [2:Bluetooth] → [1:ローカルデバイス]



BD アドレスはデバイス固有のハードウェアアドレスです。

16 進文字 (0~9、A~F) で 12 桁の固定長です。

本製品の BD アドレスは固定のため、設定内容を変更できません。

## ■リモートデバイス

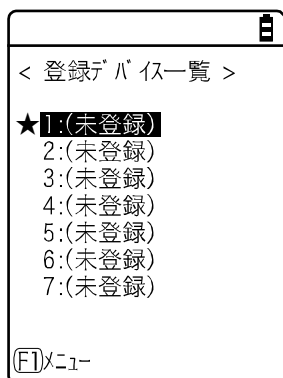
本製品と接続するデバイス（リモートデバイス）に関する設定をします。

### 操作手順

**[システムメニュー] → [7:デバイス] → [2:Bluetooth] → [2:リモートデバイス]**

接続先のリモートデバイス情報を最大 7 件まで登録できます。あらかじめ登録しておけば、接続のたびにデバイス情報を設定する必要はありません。

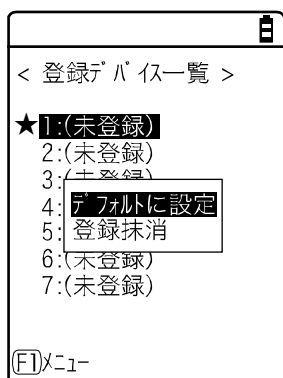
#### ① 登録する項目番号を選択します。



項目番号を選択し、デバイス情報を順次設定します。

デバイス情報が登録済みの場合は項目番号の右側にデバイス名が表示されます。未登録の場合は項目番号の右側に「(未登録)」と表示されます（デバイス名が 1 文字以上で、かつ BD アドレスが「00:00:00:00:00:00」以外の場合に登録済みとして認識されます）。

項目番号の左側に★が表示されているデバイスはデフォルトデバイスです。システムメニューでは Bluetooth と接続する場合、デフォルトデバイスに接続します。

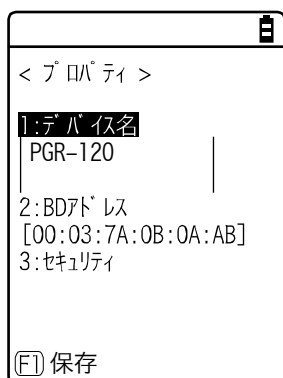


【F1】キーを押すとサブメニューが表示されます。

必要に応じて次の設定をします。

- ・デフォルトに設定  
選択中の登録デバイスをデフォルトデバイスに設定します。
- ・登録抹消  
登録したデバイス情報を消去します。

#### ② 設定する項目を選択します。



次の項目を設定し、【F1】キーを押して「はい」を選択すると設定が保存されます。

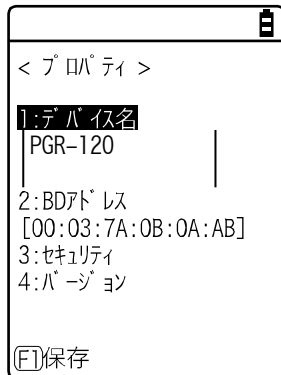
- ・デバイス名
- ・BD アドレス
- ・セキュリティ

## ●デバイス名

## 操作手順

[システムメニュー] → [7:デバイス] → [2:Bluetooth] → [2:リモートデバイス]  
→ [1:登録デバイス] → [1:デバイス名]

Bluetooth デバイスの名前を入力します。



項目を設定し、【F1】キーを押して [はい] を選択すると設定が保存されます。

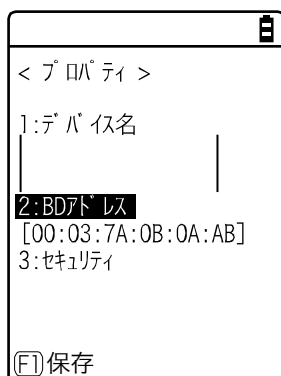
デバイス名は最大 30 文字までの英数記号で、大文字/小文字が区別されます。

## ●BD アドレス

## 操作手順

[システムメニュー] → [7:デバイス] → [2:Bluetooth] → [2:リモートデバイス]  
→ 登録デバイスを選択 → [2:BD アドレス]

BD アドレスを入力します。



項目を設定し、【F1】キーを押して [はい] を選択すると設定が保存されます。

BD アドレスはデバイス固有のハードウェアアドレスです。

16 進文字 (0~9、A~F) で 12 桁の固定長です。

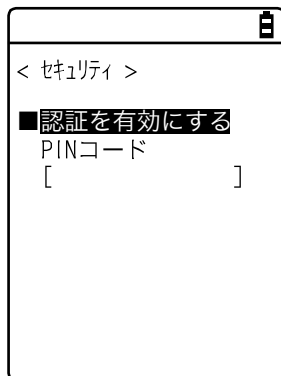
### ●セキュリティ

接続時の認証に関する設定をします。

#### 操作手順

[システムメニュー] → [7:デバイス] → [2:Bluetooth] → [2:リモートデバイス]  
→登録デバイスを選択→ [3:セキュリティ]

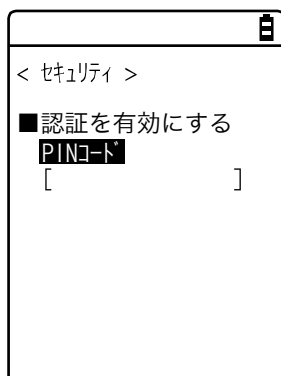
##### ①認証の設定をします。



チェックボックスをチェックすると、ローカルデバイスがリモートデバイスから接続要求を受けた場合に認証します。

認証できたリモートデバイスだけが接続を許可されます。

##### ②PIN コードを設定します。



PIN (Personal Identification Number) コードは認証の際に使用するパスワードです。

大小英文字、数字、記号で最大 16 桁まで入力可能です。

セキュリティ対策として、入力後の PIN コードは伏字（\*）に変換されて表示されます。



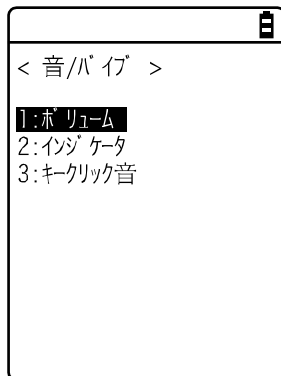
### 3-9-3 音/バイブ：音量・LED・バイブレータの設定

音、LED、バイブレータの設定をします。

#### 操作手順

【システムメニュー】 → 【7:デバイス】 → 【3:音/バイブ】

設定するデバイスを選択します。



次の項目から選択します。

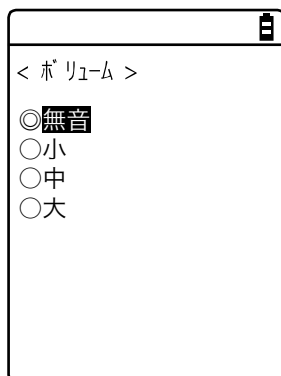
- ・ ボリューム
- ・ インジケータ
- ・ キークリック音

#### ■ ボリューム

#### 操作手順

【システムメニュー】 → 【7:デバイス】 → 【3:音/バイブ】 → 【1:ボリューム】

ブザーの音量を調節します。



音量を選択します。

音量は無音～大の4段階に調節できます。

## ■インジケータ

インジケータとは、作業者の注意を喚起する3つのデバイス（ブザー/バイブレータ/LED）を組合せた総称です。

インジケータを使用すれば、作業者に対して現在の状況をより感覚的に知らせることができます。どのインジケータがどのような場面で使用されるかは、アプリケーションソフトごとに設定します。なお、システムメニューは各シーンのパターン3のインジケータが適用されます。

例えば、

- ・ 確定時は高音を短めに1回鳴らし、緑色のLEDを点灯させる
- ・ エラー時はバイブレータを振動させながら低音を3回鳴らし、赤色のLEDを点滅させる

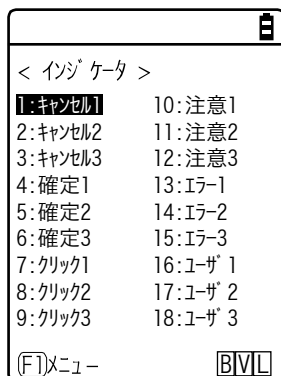
など、お客様の使用環境に合わせた様々な設定が可能です。

キーを押す（クリック）、確定するといった作業時の代表的なシーン5種類と、お客様の任意のシーン（ユーザー）を1つ加えた合計6シーンが、それぞれ3パターンずつ用意されています。

### 操作手順

**[システムメニュー] → [7:デバイス] → [3:音/バイブ] → [2:インジケータ]**

#### ① 設定するインジケータを選択します。

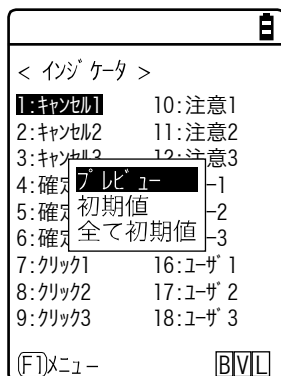


画面下部右下にインジケータの設定状況を示すアイコンが表示されます。

B：ブザーが設定されています。

V：バイブレータが設定されています。

L：LEDが設定されています。



【F1】キーを押すとサブメニューが表示されます。

#### ・ プレビュー

現在のインジケータを実際に体感できます

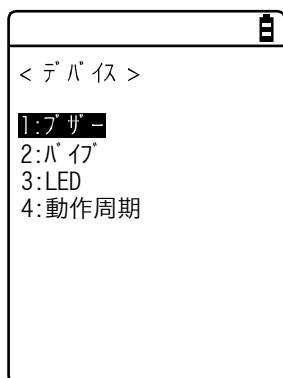
#### ・ 初期値

選択されているパターンの設定内容を破棄し、初期値にします

#### ・ 全て初期値

全シーンの全パターンの設定内容を破棄し、初期値にします。

## ② 設定するデバイスを選択します。



手順①の画面で、設定する項目を選択した後、【ENT】キーを押すとデバイス名が表示されます。

設定するデバイスを選択して【ENT】キーを押します。

次項を参照して各デバイスの動作条件を設定します。

## ●デバイス動作条件の設定

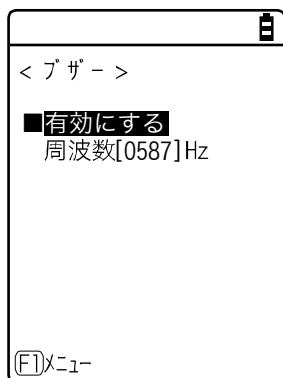
動作条件には全デバイスで共通なものと、デバイス独自のものがあります。

## 操作手順

【システムメニュー】→【7:デバイス】→【3:音/パイプ】→【2:インジケータ】

## →デバイスを選択

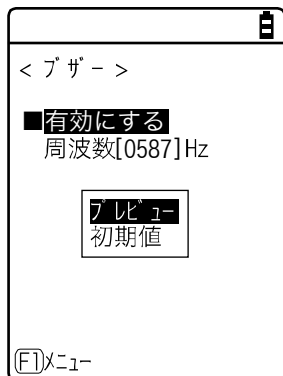
## 全デバイス共通の操作



チェックボックスでデバイスの動作を ON/OFF します。

チェックをするとデバイスが動作し、外すと他の設定に関わらずデバイスは動作しません。

本設定内容がアイコンとして表示されます。



【F1】キーを押すとサブメニューが表示されます。

必要に応じて設定します。

## ・プレビュー

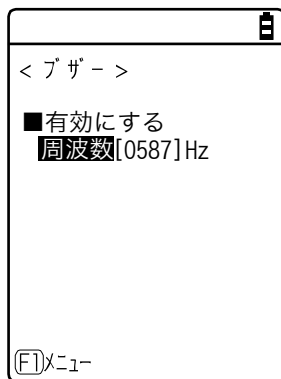
現在のインジケータを実際に体感できます。

## ・初期値

設定中のパターンの設定内容を破棄し、初期値にします。

なお、画面下部左下に【F1】が表示されている場合、デバイスの動作条件全体を通じ操作手順は同じです。

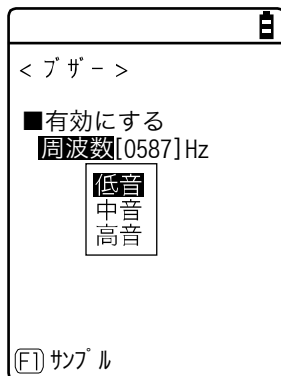
## ブザーの周波数設定（[1:ブザー]）



カーソルを〔周波数〕に移動して、【ENT】キーを押します。

周波数の値にカーソルが移動します。

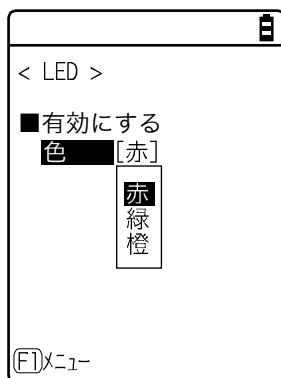
設定範囲は、245～9000Hz です。この周波数範囲内で、1Hz 単位で周波数を設定できます。スピーカーの特性上、500～3000Hz で使用することをお奨めします。



周波数入力中は画面下部左側のファンクションキーガイドンスの内容が変わります。

【F1】キーを押すと、周波数サンプルのサブメニューが表示されます。サンプルを基準に数値の微調整を行うと、スムーズに設定できます。

## LED の色設定（[3:LED]）



カーソルを〔色〕に移動して【ENT】キーを押します。

サブメニューから色を選択します。

## 動作周期の設定（[4:動作周期]）

< 動作周期 >

オン時間 [00040] ミリ秒

オフ時間 [00000] ミリ秒

回数 [00]

(F1)メニュー

ブザー、バイブレータ、LED のオン時間、オフ時間、繰返し回数を設定します。

- ・ オン時間：デバイスの 1 回あたりの動作時間を入力します。

設定範囲は 00000～65000 ミリ秒です。

00000 ミリ秒を設定するとデバイスは動作し続けます。

- ・ オフ時間：デバイスの 1 回あたりの停止時間を入力します。

設定範囲は 00000～65000 ミリ秒です。

00000 ミリ秒を設定するとオン時間（ミリ秒）後に停止します。

- ・ 回数：デバイスが動作と停止を繰返す回数を入力します。

設定範囲は 00～40 回です。

00 を設定すると、再度そのデバイスが動作されるまで繰返し続けます。

## ■キークリック音

キーを押した時にクリック音を鳴らすかどうかを設定します。

クリック音はキーを押すと、すぐに再生されます。アプリケーションソフトやインジケータで鳴らしている音がある場合、後から鳴った音で前の音が中断されます。タイミングによっては、その中断によって音が濁って聞こえることがあります。

## 操作手順

[\[システムメニュー\]](#) → [\[7:デバイス\]](#) → [\[3:音/バイブ\]](#) → [\[3:キークリック音\]](#)

キーを押した時に再生される音のパターンを選択します。

< キークリック音 >

☒ なし

☐ あり

- ・ なし（デフォルト）

キークリック音は鳴りません。

- ・ あり

【ON】、【S1】、【S2】キーを除く全てのキーに対して、押した時に「ピッ」というビープ音を鳴らします。

※キークリック音を ON にすると、アプリケーションソフトが鳴らす音と干渉します。アプリケーションソフトが鳴らす音を正しく出したい時は「なし」にしてください。

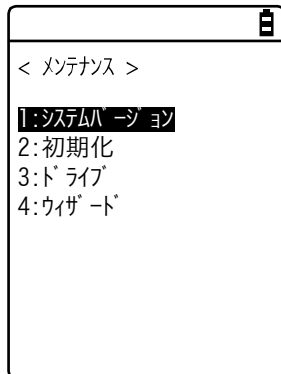
## 3-10 メンテナンス：基本情報とメンテナンスの設定

本製品の基本的な情報の確認、パフォーマンスの改善や保守などができます。

### 操作手順

【システムメニュー】 → 【8:メンテナンス】

メンテナンスする項目を選択します。



設定する項目を選択します。

- ・ システムバージョン：OS バージョンの確認 (P.[133](#))
- ・ 初期化：レジストリ/ドライブの初期化 (P.[134](#))
- ・ ドライブ：ドライブ情報の表示 (P.[136](#))
- ・ ウィザード：簡単に通信設定ができる画面の起動 (P.[137](#))

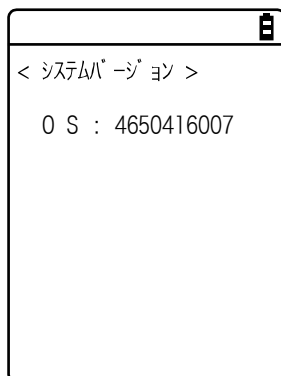
### 3-10-1 システムバージョン：OS バージョンの確認

インストールされている OS のバージョン情報を表示します。

### 操作手順

【システムメニュー】 → 【8:メンテナンス】 → 【1:システムバージョン】

OS のバージョンを確認します。



## 3-10-2 初期化：レジストリ/ドライブの初期化

レジストリやドライブを初期化します。

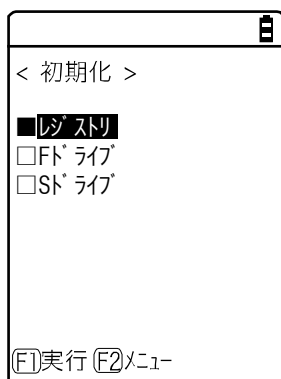
### 注意

初期化を実行すると設定した内容が出荷時の状態に戻ったり、ファイルが全て消去されたりします。初期化を実行する時はこの点を充分にご理解の上、細心の注意を払ってください。

### 操作手順

[システムメニュー] → [8:メンテナンス] → [2:初期化]

① 初期化する項目を選択します。



< 初期化 >

☒ レジストリ

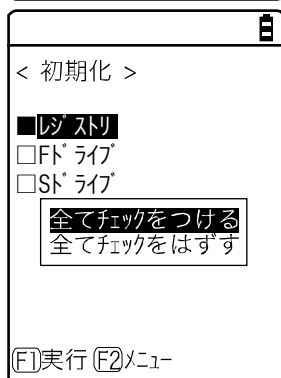
☐ Fドライブ

☐ Sドライブ

(F1)実行 (F2)メニュー

初期化する項目にチェックをつけます。

1 つもチェックされていない場合は実行できません。



< 初期化 >

☒ レジストリ

☐ Fドライブ

☐ Sドライブ

☒ 全てチェックをつける

☐ 全てチェックをはずす

(F1)実行 (F2)メニュー

【F2】 キーを押すとサブメニューが表示されます。

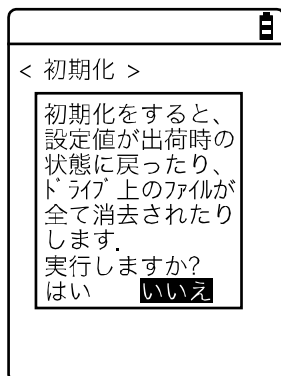
・全てチェックをつける

チェックボックスを全てチェックします。

・全てチェックをはずす

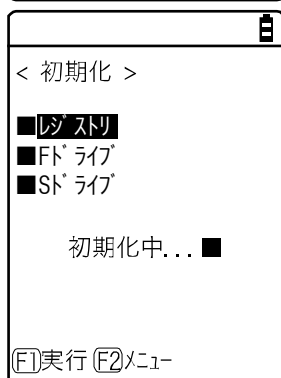
チェックボックスから全てチェックを外します。

## ② 初期化を開始します。



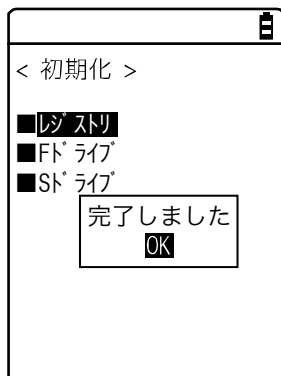
【F1】キーを押すと実行確認ダイアログが表示されます。

【はい】 / 【いいえ】を選択します。



チェックされた項目が順番に初期化されます。

## ③ 初期化を完了します。



【ENT】キーを押して初期化を完了します。

レジストリを初期化した場合は電源が OFF になります。

**注意**

レジストリを初期化する時に F ドライブにファイルが存在しない場合、チェックの有無を問わず自動的に F ドライブも初期化します。



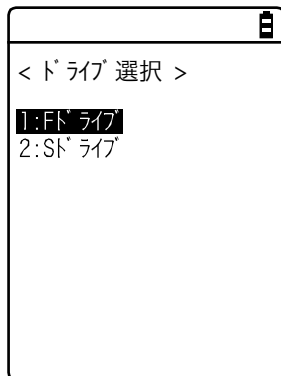
## 3-10-3 ドライブ：ドライブ情報の表示

ドライブに関する各種情報の確認および保守を実施します。

### 操作手順

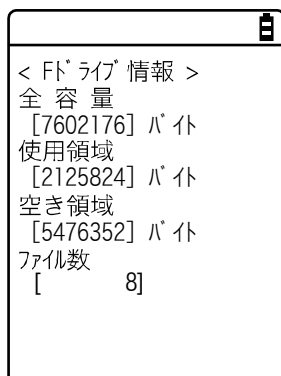
[システムメニュー] → [8:メンテナンス] → [3:ドライブ]

① ドライブを選択します。



ドライブを選択して【ENT】キーを押します。

② ドライブの情報が表示されます。



次の情報が表示されます。

- ・全容量
- ・使用領域
- ・空き領域
- ・ファイル数

### 参考

Fドライブでファイルの書き込みや削除を繰り返すと、次第に空き領域が断片化され、サイズの大きいファイルが格納できなくなったり、起動時間が長くなったりすることがあります。

Fドライブの断片化を防ぐために、以下の点に注意してください。

- ・データはできる限り、一度にまとめて連続したデータとして書込む。
- ・Fドライブに一時的に保存したデータは、終了時に消去する。
- ・一時的に保存しておくようなデータは、なるべくSドライブに書込む。

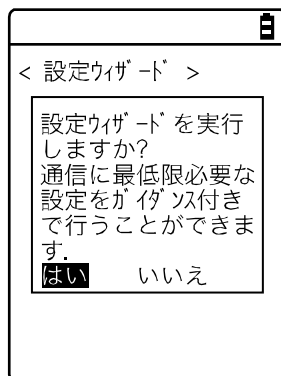
## 3-10-4 ウィザード：簡単に通信設定ができる画面の起動

本製品を最初に起動した時に実行される設定ウィザードを再度起動することができます。本製品とパソコンとの間で通信するために最低限必要な設定ができます。

### 操作手順

【システムメニュー】 → 【8:メンテナンス】 → 【4:ウィザード】

ウィザードによる設定を実行します。



【はい】 / 【いいえ】 を選択します。

【はい】 を選択すると、WLAN 通信を設定するウィザードが実行されます。【いいえ】 を選択すると元の画面に戻ります。

詳細は、「■設定ウィザードによる WLAN 通信設定」(P.[55](#)) をご覧ください。

## 3-11 テスト：ハードウェアデバイスのテスト



ハードウェアデバイスを動作させ、状態をテストします。

### 操作手順

【システムメニュー】 → 【9:テスト】

テストするデバイスを選択します。



次の項目から選択します。

- ・ WLAN：WLAN 通信のテスト (P.[138](#))
- ・ Bluetooth：Bluetooth 通信のテスト (P.[141](#))
- ・ バーコード：バーコードの読み取りテスト (P.[142](#))
- ・ 画面：液晶画面の表示テスト (P.[144](#))
- ・ キー：キー動作とインジケータのテスト (P.[145](#))

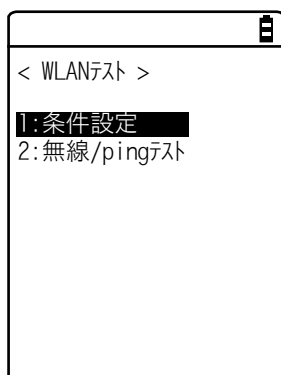
### 3-11-1 WLAN：WLAN 通信のテスト

WLAN 通信に関するテストおよび IP ネットワークの疎通をテストします。

### 操作手順

【システムメニュー】 → 【9:テスト】 → 【1:WLAN】

設定する項目を選択します。



次の項目から選択します。

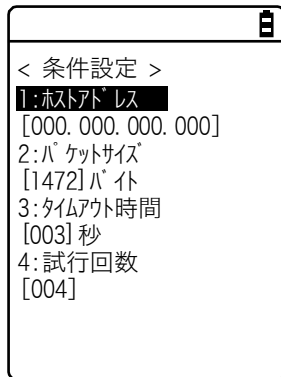
- ・ 条件設定：ping コマンドの実行条件の設定
- ・ 無線/ping テスト：ping コマンドで WLAN 通信テストを実行

## ■条件設定

ping コマンドの実行条件を設定します。WLAN通信テストはping を行いながらテストします。

### 操作手順

[システムメニュー] → [9:テスト] → [1:WLAN] → [1:条件設定]



< 条件設定 >  
1:ホストアドレス  
[000.000.000.000]  
2:パケットサイズ  
[1472]バイト  
3:タイムアウト時間  
[003]秒  
4:試行回数  
[004]

WLAN 通信テストの条件を設定します。

- ・ホストアドレス  
通信を確認する相手機器の IP アドレスを指定します。
- ・パケットサイズ（デフォルト＝1472 バイト）  
送信するデータパケットのサイズ（バイト）を選択します。  
設定可能値：32、64、128、256、512、1024、1472
- ・タイムアウト時間（デフォルト＝3 秒）  
タイムアウト時間を 1 秒単位で設定します。  
設定可能値：1～255 秒
- ・試行回数（デフォルト＝4 回）  
ping の送信回数を設定します。  
設定可能値：1～255 回  
0 を指定すると、【C】キーが押されるまで ping の送信を実行します。

## ■無線/ping テスト

ping コマンドを実行して WLAN 通信テストを実行します。条件設定で設定したホスト IP アドレスに ping を送信し続けます。表示される内容は ping コマンドの結果、同期しているアクセスポイントの MAC アドレス、通信品質（LnkQ）、受信した電波の強さ（ASL）、使用チャンネルです。

### 操作手順

【システムメニュー】 → 【9:テスト】 → 【1:WLAN】 → 【2:無線/ping テスト】



次の情報が表示されます。

<1 行目> このテストのタイトルです。

<2 行目> ping 送信先のホスト IP アドレスです。

<4 行目> 結果を表示します。

成功時

結果時間を表示します。（単位:msec）

タイムアウト

「ping Timeout」を表示します。

【C】 キーによる中断時

「中止しました」を表示します。

<5 行目> 送信パケット番号（1 ずつカウントアップ）、および送信バイト数

<6 行目> LnkQ インジケータを表示します。

LnkQ はアクセスポイントとの通信品質を表示します。

<7 行目> 同期しているチャンネルを表示します。

<8 行目> ASL インジケータを表示します。

ASL はアクセスポイントから受信した電波の強さを表示します。

<10 行目> WLAN 通信しているアクセスポイントの MAC アドレスを表示します。

### 参考

- ・ 十分安定した通信パフォーマンスを得るためには、LnkQ のインジケータが 4 以上であることを推奨します。
- ・ PSK（TKIP/CCMP）の場合、認証に失敗するとエラーメッセージが表示されます。
- ・ 6 行目の LnkQ、8 行目の ASL インジケータは電波の強さを正確に表示したものではありません。電波状態の目安としてください。

## 3-11-2 Bluetooth：Bluetooth 通信のテスト

他の端末と Bluetooth を使って 1 対 1 の通信をします。

Bluetooth 通信実行前に、従局になる機器（または端末）をデフォルトデバイスとして設定しておく必要があります。

「3-9-2 Bluetooth:Bluetooth の登録設定」－「**■**リモートデバイス」(P. [125](#)) を参照してください。

### 操作手順

[【システムメニュー】](#) → [【7:テスト】](#) → [【2:Bluetooth】](#)

通信テストが開始されます。



キーを押すと該当するキーデータを送信すると同時に、画面にも表示（ローカルエコー）されます。

データを受信すると、反転表示で画面に表示されます。

### 3-11-3 バーコード

バーコードの読取りテストをします。

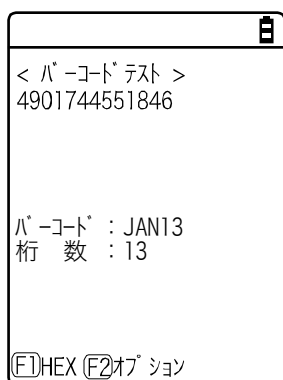
なお、ここでのバーコード入力はトリガモードの影響を受けません。

#### 操作手順

【システムメニュー】→【9:テスト】→【3:バーコード】

読取りモードになるので、【SCAN】キーまたはトリガキーを押してバーコードを読取ります。

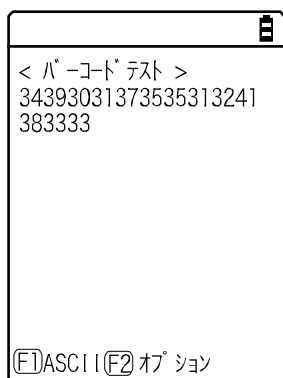
#### ●バーコードの読取り



バーコードを読取ります。

読取ったバーコード、バーコードの種類、桁数が表示されます。

#### ●文字コード変換表示



【F1】キーを押すと、文字コードを変換して表示します。

・ASCII（デフォルト）

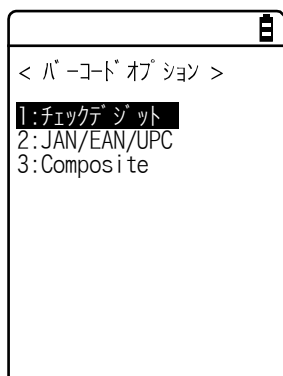
ASCII 文字コードで表示されます。

・HEX

16 進正数に変換して表示します。16 進変換すると「5」が「35」に、「m」が「6D」のように、1 文字を 16 進正数 2 文字で表示されます。

【F1】キーを押すたびに表示が切替わります。

#### ■バーコードオプション



【F2】キーを押すと各種バーコードオプションを設定できます。

なお、この設定はバーコードテストの間のみ有効になります。

**●チェックデジット**

チェックデジットをチェックするかどうかを設定します。

- [チェックをします] を OFF にする（デフォルト）  
チェックデジットをチェックしません。
- [チェックをします] を ON にする  
チェックデジットをチェックします。

**●JAN/EAN/UPC**

JAN/EAN/UPC のアドオンコードの読取り条件を設定します。

- 禁止（デフォルト）  
アドオンコードを読取りません。
- 許可  
アドオンコードの有無を問わず、どちらも読取り可能です。
- アドオンコードのみ許可  
アドオンコードのある JAN/EAN/UPC のみ読取り可能です。

**●Composite**

EAN/UCC Composite の読取り条件を設定します。

- 禁止（デフォルト）  
Composite コードの読取りを禁止します。
- 許可  
Composite コードの読取りを許可します。

**参 考**

Composite コードの読取りを許可すると、一次元コードか Composite コードかを判断するために、3 秒程度時間がかかります。



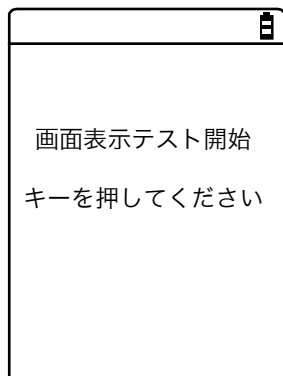
## 3-11-4 画面：液晶画面のテスト

画面表示に関するテストをします。

### 操作手順

[システムメニュー] → [9:テスト] → [4:画面]

テストパターンが表示されます。



液晶の表示状態をテストします。

【ON】、【OFF】、【C】、【S1】、【S2】キー以外のキーを押すたびに、液晶画面のカラー表示が切替わります。

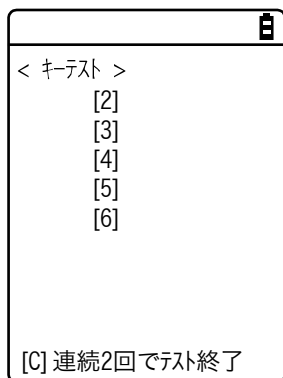
全ての表示が終わると、一つ前の操作に戻ります。

## 3-11-5 キー：キー動作とインジケータのテスト

キー入力と同時に、インジケータ（ブザー/バイブレータ/LED）もテストします。

### 操作手順

[システムメニュー] → [9:テスト] → [5:キー]



< キーテスト >  
 [2]  
 [3]  
 [4]  
 [5]  
 [6]  
 [C] 連続2回でテスト終了

【S1】、【S2】、【ON】、【OFF】キー以外のキーを押すと、押されたキー名が表示されます。

また、各キーに連動して、それぞれのキーに対応したインジケータが作動します。

各キーに割当てられているインジケータは次の通りです。

| キー                  | ブザー | バイブレータ | LED |
|---------------------|-----|--------|-----|
| 【0】～【9】、【.】         | ○   | ×      | 緑   |
| 【ENT】、【C】、【BS】、【SF】 | ○   | ×      | 橙   |
| 【SCAN】              | ×   | ○      | 橙   |
| 【F9】                | ×   | ○      | 橙   |
| 【F1】                | ○   | ×      | 赤   |
| 【F2】                | ○   | ×      | 赤   |
| 【F3】                | ○   | ×      | 赤   |
| 【F4】                | ○   | ×      | 赤   |
| 【◀】（【F5】）           | ○   | ×      | 赤   |
| 【▲】（【F6】）           | ○   | ×      | 赤   |
| 【▼】（【F7】）           | ○   | ×      | 赤   |
| 【▶】（【F8】）           | ○   | ×      | 赤   |

【C】キーが2回押されるか、全てのキーが押されるとテストを終了します。

# 第4章

## 仕様

## 4-1 製品の仕様

### 4-1-1 PGR-120-G ワイヤレス二次元ハンディターミナル

|        |             |     |                                                                                                            |
|--------|-------------|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| CPU    |             |     | PXA270                                                                                                     |
| OS     |             |     | Linux                                                                                                      |
| メモリ    | ROM         |     | 64MB（ユーザー領域 6.25MB） <sup>*1</sup>                                                                          |
|        | RAM         |     | 64MB（ユーザー領域 3MB）                                                                                           |
| スキャナ部  | 読取コード       | 一次元 | JAN/EAN/UPC（アドオン可）, NW-7, Code39, Code93, Code128, EAN-128(GS1-128), ITF, インダストリアル 2 of5, GS1 DataBar(RSS) |
|        |             | 二次元 | QR コード（マイクロ QR 可）, PDF417（Micro PDF 可）, DataMatrix(ECC200), MaxiCode、EAN/UCC Composite                     |
|        | 読取方式        |     | CMOS イメージセンサ                                                                                               |
|        | レーザー照射時間    |     | 最大 7 秒（アプリケーションソフトにより最小 1 秒から 1 秒単位で設定可能）                                                                  |
|        | 光源          |     | 波長：650nm 可視光半導体レーザー                                                                                        |
|        | レーザー安全基準    |     | IEC60825 Class2 準拠                                                                                         |
|        | 分解能         | 一次元 | 0.127mm                                                                                                    |
|        |             | 二次元 | 0.169mm                                                                                                    |
|        | 画素数         |     | VGA33 万画素                                                                                                  |
|        | ピッチ角        |     | ±50° <sup>*2</sup>                                                                                         |
|        | スキュー角       |     | ±60° <sup>*2</sup>                                                                                         |
|        | チルト角        |     | 360° <sup>*2</sup>                                                                                         |
|        | ブラインド角      |     | 15° 以内（照明点灯時）                                                                                              |
| 表示 LED | 通信用 LED     |     | 緑色、赤色、橙色                                                                                                   |
|        | 電源用 LED     |     | 緑色、赤色、橙色                                                                                                   |
|        | ユーザー用 LED   |     | 緑色、赤色、橙色                                                                                                   |
| 表示部    | 表示素子        |     | 2.8 インチ TFT 透過型カラー液晶                                                                                       |
|        | 表示ドット数      |     | 320 (H) × 240 (W) ドット(QVGA) <sup>*3</sup>                                                                  |
|        | ドットピッチ      |     | 0.17×0.17mm                                                                                                |
|        | 表示文字数（漢字）   |     | 10 桁×12 行（24 ドットフォント）<br>8 桁×9 行（30 ドットフォント）                                                               |
|        | 表示文字数（半角文字） |     | 20 桁×12 行（24 ドットフォント）<br>16 桁×9 行（30 ドットフォント）                                                              |

|          |          |               |                                                                   |             |      |
|----------|----------|---------------|-------------------------------------------------------------------|-------------|------|
|          | 表示面積     |               | 42 (W) × 56 (H) mm                                                |             |      |
|          | 表示文字     |               | 漢字 (JIS 第 1 ・ 第 2 水準) ・ ANK ・ 記号 *4                               |             |      |
|          | バックライト   |               | 白色 LED (4 段階輝度調整)                                                 |             |      |
| バイプレータ   |          |               | 有り                                                                |             |      |
| キー入力部    | キー数      |               | 30 (左右トリガキーを含む)                                                   |             |      |
| スピーカー    | 周波数      |               | 設定可能周波数 245～9000Hz                                                |             |      |
|          | 音量       |               | 4 段階                                                              |             |      |
| 寸法       |          |               | 60(46) (W) × 172 (D) × 43(27) (H) mm<br>( ) 内はグリップ部の寸法 (突起物部を含まず) |             |      |
| 重量       |          |               | 約 235g (バッテリーパックを含む)                                              |             |      |
| 本体充電機能   |          |               | 有り (充電温度の範囲内で充電できます)                                              |             |      |
| 電源       | バッテリーパック |               | リチウムイオン二次電池 (BP-002)                                              |             |      |
|          | バックアップ電池 |               | リチウム二次電池 (メンテナンスフリー)                                              |             |      |
| 環境       | 使用温度/湿度  |               | -5～+45℃ 20～85%RH (結露なきこと)                                         |             |      |
|          | 保存温度/湿度  |               | -10～+60℃ 20～85%RH (結露なきこと)                                        |             |      |
|          | 充電温度     |               | 0～+40℃                                                            |             |      |
|          | 静電気      |               | ± 15Kv (気中放電:± 15kV,接触放電:± 8kV)<br>IEC1000-4-2 規格に準拠              |             |      |
|          | 耐落下強度    |               | 2.0m (自由落下 1 回) ※試験値であり保証値ではありません。                                |             |      |
|          | 防塵・防水    |               | IEC529 IP54 相当                                                    |             |      |
| 連続使用時間   |          |               | 約 8 時間 *5                                                         |             |      |
| バックアップ時間 |          |               | 約 3 分 (バックアップ電池が満充電時)                                             |             |      |
| 時計機能     | 現在時刻     |               | 年・月・日・時・分・秒・曜日 (時刻は 24 時間制, 歴は西暦のみ)                               |             |      |
|          | 精度       |               | ± 50ppm (日差 ± 5 秒程度)                                              |             |      |
|          | その他      |               | 閏年補正                                                              |             |      |
| 無線部      | WLAN     | 適合国際規格        | IEEE802.11b/g 準拠                                                  |             |      |
|          |          | 適合国内規格        | RCR STD-33A, ARIB STD-T66                                         |             |      |
|          |          | 通信方式          | 11b : DSSS (直接拡散) スペクトラム拡散<br>11g : OFDM (直交周波数分割多重)              |             |      |
|          |          | セキュリティ        |                                                                   | 認証方式        | 暗号方式 |
|          |          | WEP(40/128)   | OPEN SHARED                                                       | WEP(40/128) |      |
|          |          | WPA-PSK (互換)  | PSK                                                               | TKIP        |      |
|          |          | WPA2-PSK (互換) |                                                                   | CCMP(AES)   |      |

|  |           |          |                                                                           |
|--|-----------|----------|---------------------------------------------------------------------------|
|  |           | 通信速度     | 11b : 11/5.5/2/1Mbps<br>11g : 54/48/36/24/18/12/9/6Mbps                   |
|  |           | 情報変調方式   | BPSK/QPSK(CCK)                                                            |
|  |           | 無線周波数    | 2,400～2,483.5/2,471～2,497MHz                                              |
|  |           | 空中線電力    | +15dBm                                                                    |
|  |           | 通信距離     | 屋外見通し : 200m<br>オープン : 100m *6*7<br>セミオープン : 50m *6*7<br>クローズド : 20m *6*7 |
|  |           | 通信制御方式   | CSMA/CA                                                                   |
|  |           | 無線チャンネル数 | 11b : 14ch<br>11g : 13ch                                                  |
|  |           | アンテナ     | 内蔵アンテナ                                                                    |
|  | Bluetooth | 適合国際規格   | Bluetooth Ver2.0 準拠                                                       |
|  |           | 適合国内規格   | ARIB STD-T66                                                              |
|  |           | 通信方式     | FH (周波数ホッピング方式) スペクトラム拡散方式                                                |
|  |           | セキュリティ   | リンクキー : 128bit<br>暗号キー : 8～128bit (8bit 毎に可変)                             |
|  |           | 通信速度     | 最大 460kbps                                                                |
|  |           | 情報変調方式   | BT=0.5GFSK                                                                |
|  |           | 無線周波数    | 2,402～2,481MHz                                                            |
|  |           | 送信電力クラス  | Class2                                                                    |
|  |           | 通信距離     | 5m *6                                                                     |
|  |           | アンテナ     | 内蔵アンテナ                                                                    |

\*1 ROM ユーザー領域は、落下等により電源が遮断されると、データが消去される場合があります。入力データ等の大切なデータは、パソコン側に保存したり、バックアップを取るなどシステム上考慮してください。

\*2 バーコードまでの距離 : 127mm、使用コード : Code39 (分解能 0.5mm)、MRD=90%、周囲光 : 323Lx 以下

\*3 画素数の 0.01%以下の画面欠けや常時点灯するものがあります。

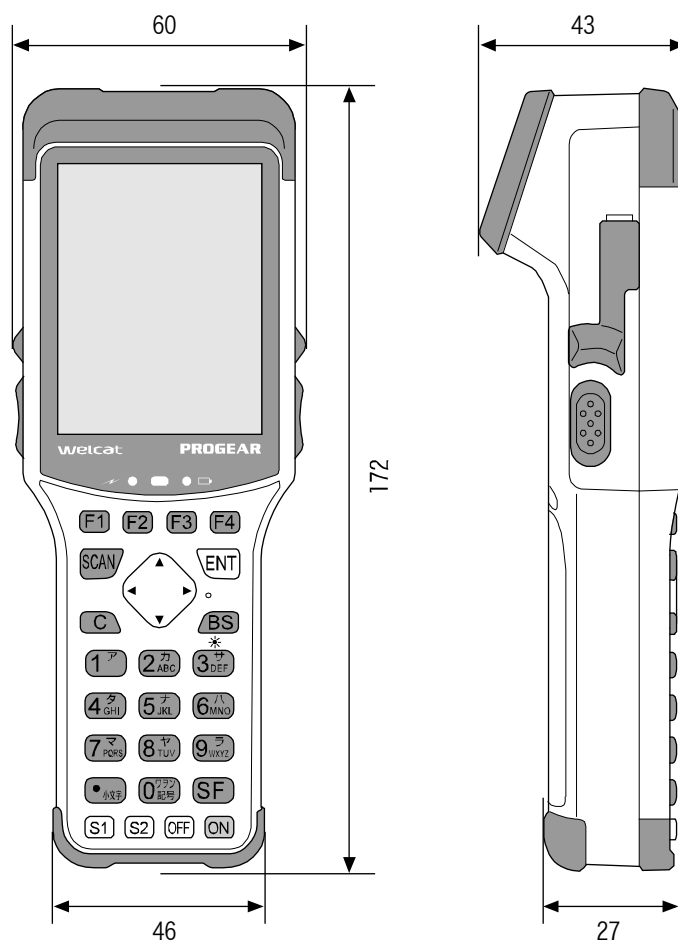
\*4 異なるフォントサイズの文字は、混在できません。

\*5 バックライトは「暗い」に設定。読取ったバーコードデータをパソコンとやり取りし、次の読取りまでの間隔を約 20 秒と想定した場合の運用時間です。

\*6 アンテナの周囲に金属物がある場合や空間の電波状況によっては、通信距離が短くなることがあります。

\*7 オープンは障害物がほとんどない状態。セミオープンとはオープンとクローズドの中間程度の状態。クローズドは障害物の高さがほとんど天井まで達している状態 (いずれも屋内を想定)。

## ■ 外形寸法



## 4-1-2 QC-008 シングルチャージャ

|         |          |                                 |
|---------|----------|---------------------------------|
| 充電部     | 使用温度     | 0～40℃（推奨：5～30℃）20～85%RH（結露なきこと） |
|         | 保存温度     | -10～60℃ 20～85%RH（結露なきこと）        |
|         | 充電時間     | 約 4 時間（常温）                      |
|         | 外形寸法     | 82（W）×77（D）×74（H）mm             |
|         | 重量       | 約 220g                          |
|         | 落下       | 75cm の高さより自由落下（安全性に問題なきこと）      |
| AC アダプタ | 定格入力     | AC100V 50-60Hz 30VA             |
|         | 定格出力     | DC5V±0.25V, Max 2A              |
|         | 外形寸法     | 33（W）×23.5（D）×45.5（H）mm         |
|         | AC ケーブル長 | 約 1.8m                          |
|         | 重量       | 約 70g                           |

## 4-1-3 QC-009 バッテリーパック充電器

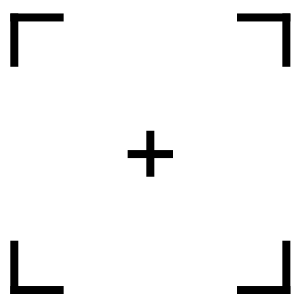
|     |                     |                                              |
|-----|---------------------|----------------------------------------------|
| 充電部 | 使用温度                | 0～40℃（推奨：5～30℃）20～85%RH（結露なきこと）              |
|     | 保存温度                | -10～60℃ 20～85%RH（結露なきこと）                     |
|     | 充電時間                | 約 3.5 時間（常温）                                 |
|     | 外形寸法                | 65（W）×80（D）×25（H）mm                          |
|     | 重量                  | 75g                                          |
|     | 定格入力                | AC100～240V 50～60Hz 15VA                      |
|     | 定格出力                | DC4.2±0.1V 630±70mA                          |
|     | 落下                  | 75cm の高さより自由落下（安全性に問題なきこと）                   |
|     | CHARGE LED<br>の表示内容 | 充電時：赤色点灯<br>充電完了時：緑色点灯<br>充電異常時：消灯<br>待機時：消灯 |
|     | AC ケーブル長            | 約 1.5m                                       |



## 4-2 読取仕様

### 4-2-1 エイミング

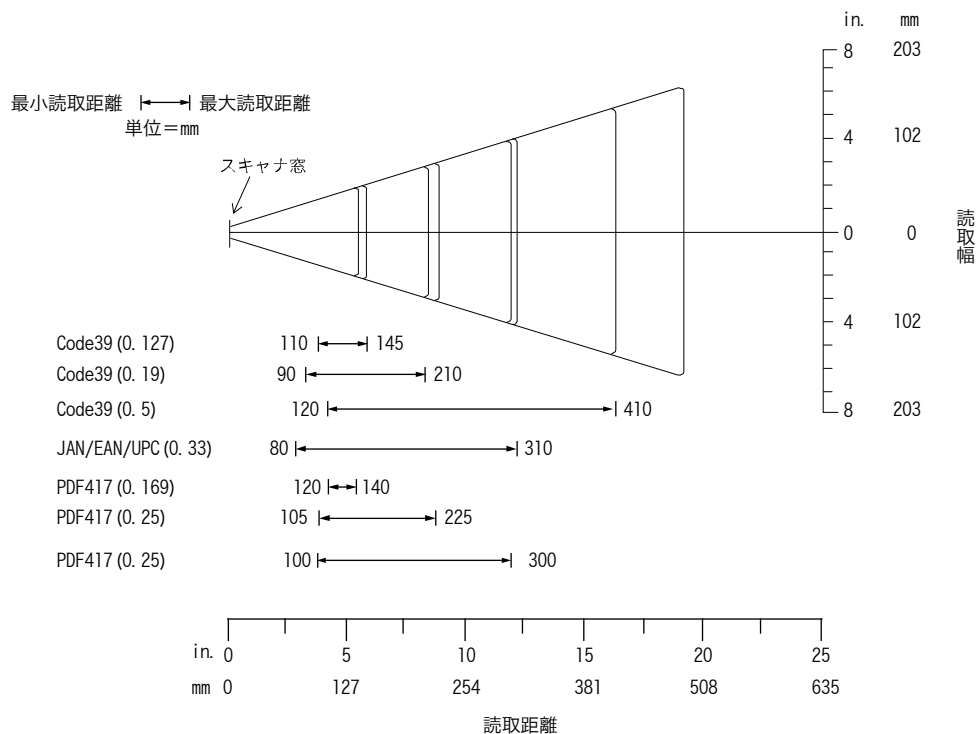
エイミングパターンの中心にある十字パターンをコードの中心に合わせ、読取り対象コードが枠の中に入るようにします。バーコードの種類によっては、枠から出た場合、読取れないことがあります。コードによって読取り深度が変わるので、本製品を前後に動かして最適な読取り深度で読取るようにします。



## 4-2-2 読取深度

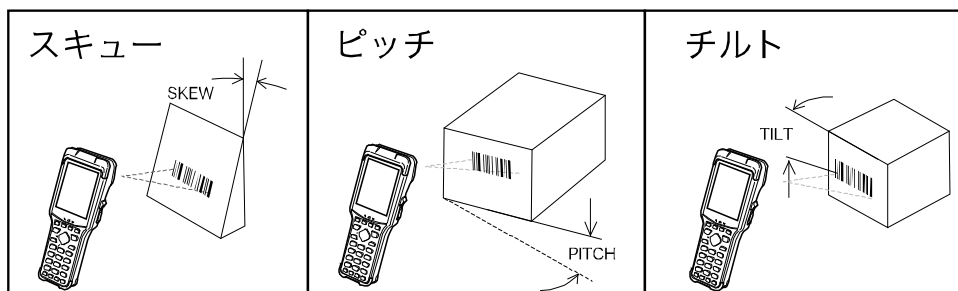
バーコードの読取り可能範囲のことを読取深度といいます。本製品の読取深度は次の図の通りです。

| 種類          | 分解能     | 読取り距離     |
|-------------|---------|-----------|
| Code39      | 0.127mm | 110～145mm |
|             | 0.19mm  | 90～210mm  |
|             | 0.5mm   | 120～410mm |
| JAN/EAN/UPC | 0.33mm  | 80～310mm  |
| PDF417      | 0.169mm | 120～140mm |
|             | 0.25mm  | 105～225mm |
|             | 0.38mm  | 100～300mm |



## 4-2-3 バーコードの傾きと読取り可能角度

バーコードと本体の傾き関係には、次の3種類があります。それぞれで、読取る角度が異なります。



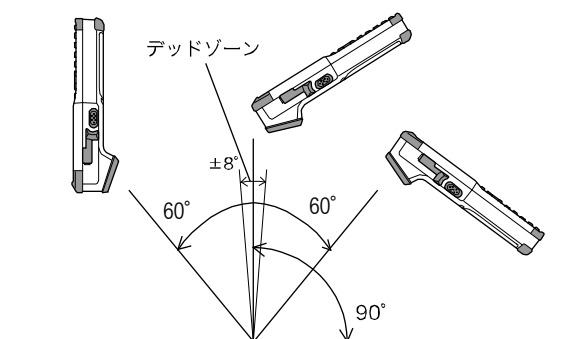
### 参考

ここで説明する値は、次の条件で測定しています。

- ・レーザースキャナモジュール先端より 127mm
- ・使用ラベル：Code39
  - ・分解能：0.5mm
  - ・MRD：90%
  - ・周囲光：323Lx 以下

### ■スキュー

バーコードに対し、垂直の上下 60° まで読取り可能です。

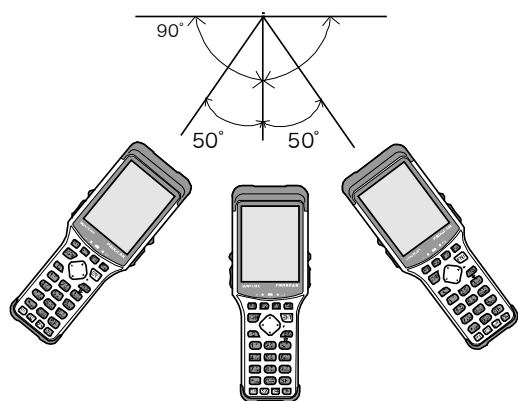


### 参考

バーコード正面の垂直 $\pm 8^\circ$ は正反射によるデッドゾーンで、読取りが悪くなることがあります。うまく読取れない場合は、角度を変えて再度読取ってください。

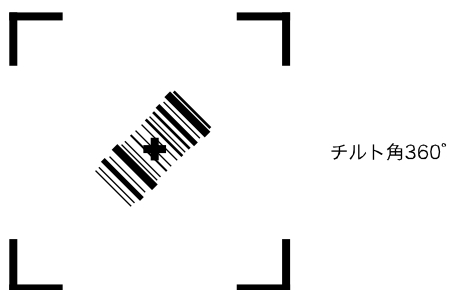
### ■ピッチ

バーコードに対し垂直の左右 50° まで読取り可能です。



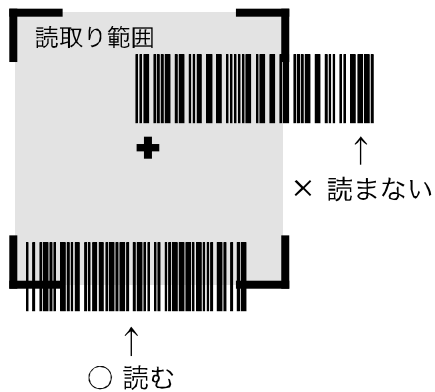
### ■チルト

バーコードに対しレーザー光を照射する角度です。360° まで読取り可能です。



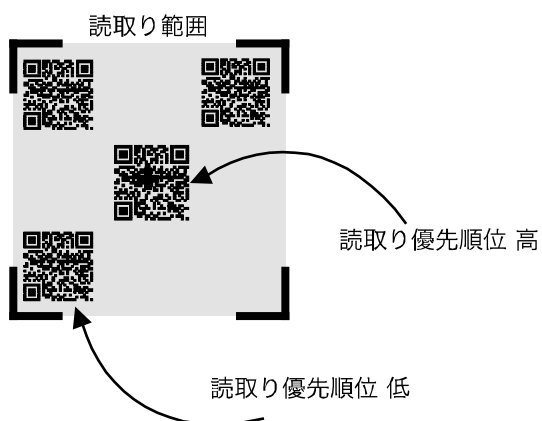
### ■読取り範囲

- ・バーコードが読取り範囲から出てしまう場合



- ・バーコードの読取り優先順位

(中心は読みやすく、周囲は読取りにくい)



### 参考

二次元バーコードは、読取り範囲から出てしまうと読取れません。読取り範囲内に対象となるバーコードが入るようにエイミングを合わせてください。

## 4-3 画面出力キャラクタ

本製品の液晶画面には、JIS 第 1/第二水準漢字、ANK、記号が表示できます。ただし、機種依存文字は表示できません。

●機種依存文字表示の例

①、②、③

I、II、III

## 4-4 レジストリ

システムメニューで設定される各種パラメータは、「レジストリ」と呼ばれます。

レジストリファイルは隠しファイルのため、システムメニューには表示されません。また、Fドライブに保存されるためバックアップ電池が消耗しても消えることはありません。

レジストリは以下の 5 つに分類されています。

|             |                                                                                                                |
|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ユーザーレジストリ   | 一般的な設定値です。システムメニューで設定された項目の大部分はユーザーレジストリになります。                                                                 |
| セキュリティレジストリ | パスワードや PIN コードなどセキュリティに関連する設定値です。                                                                              |
| ユニークレジストリ   | Bluetooth のローカル BD アドレスや端末 ID といった、一般的に他の端末とは重複することのない、その端末に固有の設定値です。                                          |
| システムレジストリ   | 本製品が独自に使用する設定値です。システムメニューから設定、参照することはできません。                                                                    |
| デバイスレジストリ   | バッテリーパック残量等、端末動作中にリアルタイムに変化するパラメータを参照するための項目です。デバイスレジストリに属する設定値はアプリケーションソフトからの参照のみが可能で、システムメニューから設定することはできません。 |

デバイスレジストリを除く 4 種類のレジストリは、それぞれ独立したファイルに保存されます。このため、Fドライブには常に 4 つのファイルが格納されています。レジストリはファイルとして Fドライブに保存されますので、バックアップ電池の容量がなくなっても消えることはありません。

デバイスレジストリは端末の動作状態によって変化するレジストリですので、ファイルには保存されません。

初期化メニュー（「3-10-2 初期化：レジストリ/ドライブの初期化」（P. [134](#)）参照）を使用すると、レジストリを消去し、工場出荷時の設定に戻すことができます。

第

5

章

## よくある質問と回答



## 5-1 よくある質問と回答

よくある質問やトラブルと、それを解決するために確認する必要のある項目や参照箇所について説明します。

### Q：電源が入らない

- 本製品の電極、バッテリーパックの電極が汚れたり変形したりしていませんか？
- バッテリーパックは正しく装着されていますか？
- バッテリーパックが消耗していませんか？
- バッテリーパックカバーは装着されていますか？

 「1-2 本体の使い方」 (P.[30](#)) / 「1-5 お手入れのしかた」 (P.[46](#))

### Q：画面に何も表示されない

- 本製品の電極、バッテリーパックの電極が汚れたり変形したりしていませんか？
- バッテリーパックは正しく装着されていますか？
- バッテリーパックが消耗していませんか？
- バッテリーパックカバーは装着されていますか？

 「1-2 本体の使い方」 (P.[30](#)) / 「1-5 お手入れのしかた」 (P.[46](#))

＜上記の項目を確認しても解決できない場合＞

次の方法で、システムメニューを起動してください。

1. バッテリーパックカバー、バッテリーパックを取外します。
2. 10 秒待ってから、バッテリーパック、バッテリーパックカバーを装着します。
3. 【SCAN】キーを押しながら【ON】キーを押します。

### Q：しばらく操作を中断したら、電源が OFF になってしまった

- バッテリーパックが寿命になっていませんか？
- バッテリーパックが消耗していませんか？

 「1-2 本体の使い方」 (P.[30](#))

- オートパワーオフ機能が有効になっていませんか？ --- (P.[85](#))
- アプリケーションソフトで省電力等の設定をしていませんか？

**Q：充電できない**

■ 本体はシングルチャージャに正しくセットされていますか？

■ 充電は 0℃～40℃の温度範囲で行っていますか？

 参照 「1-2-4 バッテリーパックの充電」 (P.[34](#))

<上記の項目を確認しても解決できない場合>

バッテリーパックの故障の可能性があります。

弊社営業までお問合せください。

**Q：日時を確認したい、修正したい**

「3-3-2 時計：時刻を確認」 (P.[82](#)) を参照してください。

**Q：システムメニューが起動しない**

■ 強制的にシステムメニューを起動する場合は、【SCAN】キーを押しながら【ON】キーを押します。

 参照 「3-1-2 システムメニューの起動」 (P.[72](#))

■ 常時システムメニューで起動したい場合は

システムメニューの [1:システム] → [1:自動実行] で [システムメニュー] のラジオボタンを選択してください。

 参照 「3-3-1 自動実行：アプリケーションソフトの自動実行」 (P.[81](#))

**Q：電源を ON にした時に起動するアプリケーションソフトを変更したい**

■ システムメニューの [1:システム] → [1:自動実行] で目的のアプリケーションソフトのラジオボタンを選択してください。

 参照 「3-3-1 自動実行：アプリケーションソフトの自動実行」 (P.[81](#))

**Q：別のアプリケーションソフトを起動するには**

■ システムメニューで [5：ファイル] → [1:アプリケーション] を選択し、サブメニューから [実行] を選択してください。

 参照 「3-7 ファイル」 - 「■実行：アプリケーションソフトの実行」 (P.[114](#))

## Q：バーコードがうまく読取れない

- 読取れない可能性があるバーコードについては「5-2 読取りが困難なバーコード」(P.166)を参照してください。
- アプリケーションソフトの設定に合ったバーコードを読取っていますか？  
アプリケーションソフトの設定によっては、特定の種類のバーコードが読取り禁止になっている場合があります。
- 正反射が起こっていませんか？  
表面がビニールに覆われていたり、ラミネート加工されたバーコードではありませんか？⇒ 正反射の角度でなくても読み難いことがあります。角度を変えてお試しください。
- バーコードを正しくスキャンしていますか？  
分解能と読取り距離には規程がありますので、バーコードのバー/スペースの最小幅に合わせた距離でスキャンしてください。
- 読取距離は正しいですか？（「4-2 読取仕様」(P.152) 参照）
- フォーカスの設定は正しいですか？  
フォーカスの設定によって読取り可能な分解能、読取り幅が異なります（「3-9-1 バーコード：バーコードスキャナの設定」(P.120) 参照）。
- ラベルの品質は良いですか？
  - ・ ラベルの品質が悪いと、正しく読取れない場合があります。以下のような場合は、ラベル品質を改善してください。
    - ① 薄い印字のバーコード（ドットインパクトプリンタで印字したり、複写伝票のようなバーコード）
    - ② 汚れたり、印刷の欠けたバーコード
    - ③ バー/スペースの幅が本製品の分解能を超える細さのバーコード
    - ④ 一次元コードで左右の空白（クワイエットゾーン）がないバーコード（バーコードの左右に文字や罫線のあるもの）、二次元コード（QR コード等）で周囲の空白（クワイエットゾーン）がないもの
    - ⑤ 印刷が滲んだり細ったりして、バー/スペースの幅が狂っているバーコード
    - ⑥ 湾曲したり、しわの入ったラベル
  - ・ デコードレベルの設定を変えて再度読取を実行してください。デコードレベルの設定は「3-9-1 バーコード：バーコードスキャナの設定」－「■デコードレベル」(P.122)を参照してください。
- スキャン光（レーザー光）に異常がありませんか？
  - ・ 読取り口に汚れやゴミが付着すると正常なスキャンができなくなります。  
その場合は、乾いた柔らかい布でフィルタを拭いてください。
  - ・ スキャン光が多少二重になったり、輪を描いても読めなくなることはありませんが、余りにもひどい場合は故障が疑われますので修理をご依頼ください。

## Q：ドライブの空き容量を確認するには

システムメニューの [8：メンテナンス] → [3：ドライブ] で確認します。

 「3-10-3 ドライブ：ドライブ情報の表示」 (P.[136](#))

## Q：WLAN 通信ができない

### ■イーサネット LAN にアクセスポイントが接続されていますか？

アクセスポイントによっては LAN ケーブルが抜けていたりリンクが確立していないと WLAN 通信を行いません。

### ■SSID はアクセスポイントと同じ設定ですか？---- (P.[86](#) 参照)

SSID をアクセスポイントと合わせてください。

端末が"ANY" (空白) 設定の場合、アクセスポイントの機能で接続できない場合があります。アクセスポイントのマニュアルを参照してください。

### ■認証設定は合っていますか？---- (P. [88](#) 参照)

アクセスポイントの認証方式と合わせてください。

「Shared」の場合、WEP 設定を確認してください。

### ■WEP の設定は合っていますか？

WEP 方式は合っていますか？ (無効、40bit、128bit)

WEP の TxKey\_ID と WEP キーは合っていますか？ (P.[88](#) 参照)

### ■同じチャンネル、または干渉するチャンネルで設定されたアクセスポイントが存在していませんか？

干渉しないチャンネル設定された場合、1 つのエリアで利用できるアクセスポイントの最大数は 4 台です。

### ■障害の原因となる電波が発生していませんか？

電子レンジや他の WLAN 通信など障害要因となる機器がないか確認してください。

またパソコンがノイズ発生源となることもありますので、アクセスポイントおよび本製品から 1m 以上離すようにしてください。

### ■IP アドレス等 TCP/IP の設定に問題ありませんか？---- (P.[97](#) 参照)

Ping 等でパソコンに接続できるか確認してください。

## Q：Bluetooth 通信ができない

### ■接続先リモートデバイスがデフォルトデバイスに設定されていますか？

### ■接続先リモートデバイスとセキュリティ設定は同一ですか？

 「3-9-2 Bluetooth：Bluetooth の登録設定」 (P.[124](#))

**Q：WLAN 通信と Bluetooth 通信を同一環境で同時使用できますか？**

同時使用は可能ですが、無線の相互干渉により通信の遅れが生じる場合があります。

**Q：ファイルの送受信中に「書込みに失敗しました」と表示された**

■ F ドライブの空き領域が少ない場合などに表示されます。

F ドライブおよび S ドライブのファイルを削除して空き容量を増やしてからやり直してください。

**Q：ファイルの送受信中に「タイムアウトです」と表示された**

送信または受信待ち状態のままで一定時間が経過すると表示されます。

■ パソコンのネットワーク管理ツールは起動していますか？

■ 通信設定は正しく設定されていますか？

■ 本製品とパソコンは正しく接続されていますか？

 「2-3 WLAN 通信環境の構築」 (P.54)

■ パソコンのリソースが不足していませんか？

ネットワーク管理ツール以外のアプリケーションソフトなどが起動している場合、パソコンのリソースが不足することで、ファイルの送受信に失敗することがあります。通信に必要なアプリケーションソフトは、できるだけ終了してから再度通信してみてください。

**Q：ファイルの送受信中に「接続に失敗しました」と表示された**

■ WLAN 通信の設定は正しく行われていますか？---- (「3-4 WLAN：WLAN 通信の設定」 [P.86](#) 参照)

■ パソコン上で FTP サーバは起動していますか？

■ アクセスポイント (弊社推奨品) とパソコンは LAN 回線上で正しく接続されていますか？---- (「3-4 WLAN：WLAN 通信の設定」 [P.86](#) 参照)

■ FTP の設定は正しく行われていますか？---- (「3-5-3 FTP：FTP の設定」 [P.101](#) 参照)

■ 目的のリモートデバイスとは異なるリモートデバイスに接続していませんか？

■ セキュリティ設定はリモートデバイスと同じですか？

■ リモートデバイスは正しく設定されていますか？

■ パソコン側で同じ名前のファイルを使用 (エディタで開いていたり、データベース関係でファイルがオープンされていたりなど) していませんか？

 「3-8 端末 ID：端末識別用 ID の設定」 (P.[119](#)) / 「3-9-2 Bluetooth：Bluetooth の登録設定」 (P.[124](#))

**Q：端末の IP アドレス等の設定をパソコンから一括設定したい**

「WebGlider-PROGEAR」の DHCP サーバを使って端末の設定を自動化することができます。

**Q：アプリケーションソフトの起動やファイルの送受信ができない**

■ バッテリーパックの電圧が低いと、一部の機能が操作できなくなります。バッテリーパックは充電されていますか？

 「1-2-3 バッテリーパックの充電」 (P.[34](#))

**Q：ファイルが壊れているようなのですが**

■ ファイルの書込み中（データ交信中、ファイル受信中、バックアップ中等）またはデフラグ中に、バッテリーパックを取外したり、誤って落としたり、強い衝撃を与えて電源が切れてしまった場合は、ファイルが壊れる恐れがあります。

ファイルを削除するか、パソコン等に転送してデータを復旧するなどの対応をしてください。  
この処置を行っても正常に動作しない場合は、故障が疑われますので修理をご依頼ください。

 「3-7 ファイル：ファイルの実行・送信・削除など」 (P.[112](#))

■ アプリケーションソフトによっては電源を切る時にデフラグ処理、バックアップ処理をするものがあります。バッテリーパックを交換する時は、必ず電源が切れていることを確認してください。

**Q：本製品のシステム設定が初期化されているようなのですが**

■ 設定はレジストリファイルに保存されていますので、上記のようなファイル破損が発生した場合、初期化されることがあります。

**Q：日付が初期状態にリセットされる**

■ PROGEAR シリーズの内蔵時計（RTC）は、累積稼働時間が 50 時間を超えると、次回起動時にリセットされます。

リセットされた場合は、内蔵時計を再設定してください。

 「3-3-2 時計：時刻の確認」 (P.[82](#))

## 5-2 読取りが困難なバーコード

次のようなバーコードは、読取れない場合があります。

### ●薄いバーコード

推奨 PCS 値は、0.25 以上です。



### ●かすれたバーコード

- ・全体にかすれたバーコード



- ・高さ方向に斜めのすじが入ったバーコード



### ●バーの欠落したバーコード

バーが1本以上欠落したバーコード



**●汚れたバーコード****●クワイエットゾーン不足のバーコード**

使用するバーコードの規格を参照してください。

枠や罫線が近すぎてクワイエットゾーンが不足



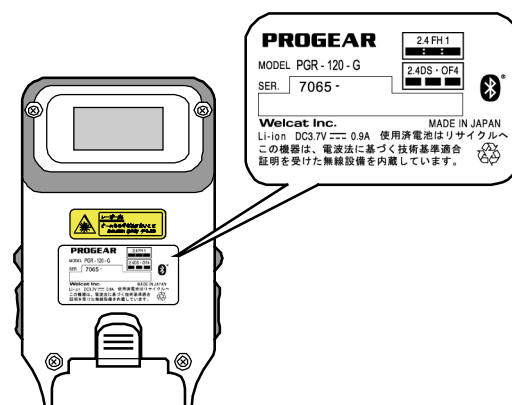


# 製品保証

## ■製品保証について

1. 製品の無償保証期間は弊社出荷日より1年となります。ただし、無償保証期間内でも、次のような場合は有償となることがありますのでご了承ください。なお、本製品に保証書の添付はございません。
  - シリアル番号の無いものおよび確認できないもの（出荷日の管理が不可能なため）
  - マニュアル等に記載された使用方法および注意事項に反する取扱いによる障害
  - 故意または重大な過失による障害
  - 使用環境が所定条件から逸脱したことによる障害
  - 許可無く、改造または他機器の接続、取付けを行ったことによる障害
  - 災害、地震、水害等の天災地変による障害
  - お客様の作成されたソフトウェアおよびシステムによる障害
  - 使用上避けられない消耗による障害・部品交換（消耗品交換）
2. 製品の内容は、改良やバージョンアップなどにより、予告無く変更することがあります。
3. 本製品の運用の結果生じた損失については、全てに關しての責任を負いかねますので、ご了承ください。

- 製品保証には製品のシリアル番号が必要になりますので、あらかじめご確認ください。シリアル番号は、本体背面の製品ラベルに記載されています。



## 消耗品

### ■保守について

安心してご使用頂けるように、購入時に「保守契約」を締結されることをお奨めしております。

保守については、弊社ホームページの「カスタマサポート」の「アフターサービス」でご案内しております。

### ■修理について

修理のご依頼は、弊社ホームページの「カスタマサポート」の「アフターサービス」にある修理依頼票フォームをご利用ください。

<http://www.welcat.co.jp>

### ■消耗品

消耗品（消耗部品）は、製品を使用し続けることで性能が低下してきます。製品の使用環境や使用頻度により性能低下までの期間は異なり、使用状況によっては弊社の保証期間より短い期間での交換（有償）が必要になることがあります。

- 操作キー（押しボタン）
- バイブレータ（振動モーター）
- レーザースキャナ（バーコード読取装置）
- 電極板（本体充電、バッテリーパック充電用電極とバッテリーパック端子）
- バッテリーパック
- バックアップ用電池  
バックアップ用電池はメンテナンスフリーですが、深い充放電を繰り返すことにより、容量が大幅に劣化する場合があります。この場合は、バックアップ用電池を交換する必要があります
- バッテリーパックカバー（防水パッキン）

などが消耗品となります。



ご使用が終わりましたバッテリーパックの取扱いは、「使用済みバッテリーパック（BP-002）について」（P.7）を参照してください。

# 付録

## 付録-1 出荷時設定一覧

| 設定項目                          | 設定可能範囲                                                                                         | 出荷時設定値            |
|-------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
| 自動実行プログラム                     | システムメニュー任意のアプリケーションソフト                                                                         | 1：システムメニュー        |
| パスワード                         | 4～30 文字の英数記号で大文字/小文字を判別                                                                        | 未設定               |
| オートパワーオフ時間                    | 0000、または 0060～3600（秒）                                                                          | 0600（秒）           |
| 端末 ID                         | 000～999                                                                                        | 000               |
| バーコードレーザー照射時間                 | 1～7                                                                                            | 5（秒）              |
| バーコードデコードレベル                  | 緩い、通常、厳しい                                                                                      | 通常                |
| バーコードフォーカス                    | ファイン、スタンダード、オート                                                                                | ファイン              |
| Bluetooth リモートデバイス 1～7 デバイス名  | 30 文字までの英数記号で大文字/小文字を判別                                                                        | 未登録               |
| Bluetooth リモートデバイス 1～7BD アドレス | 12 文字固定の 16 進文字（0～9、A～F）                                                                       | 00:00:00:00:00:00 |
| Bluetooth リモートデバイス 1～7 認証     | 有効にする、有効にしない                                                                                   | 有効にしない            |
| Bluetooth リモートデバイス 1～7PIN コード | 16 文字までの 16 進文字（0～9、A～F）                                                                       | 未設定               |
| バックライト輝度                      | 4 段階                                                                                           | 普通                |
| ボリューム                         | 無音/小/中/大                                                                                       | 大                 |
| キークリック音                       | なし、あり                                                                                          | なし                |
| SSID                          | 32 文字までの英数記号で大文字/小文字を判別                                                                        | PROGEAR           |
| ローミングレベル                      | Slow、Normal、Fast                                                                               | Normal            |
| 省電力モード                        | ON、OFF                                                                                         | ON                |
| 暗号化方式                         | 無効にする、WEP (40bit)、WEP (128bit)、TKIP、CCMP (AES)                                                 | 無効にする             |
| WEP TxKeyID                   | KEY-1、KEY-2、KEY-3、KEY-4                                                                        | KEY-1             |
| WEP Key 設定                    | KEY-1～KEY-4 それぞれに 16 進文字（0～9、A～F、a～f）で構成された文字列で WEP 40bit の場合は 10 文字固定、WEP 128bit の場合は 26 文字固定 | 未設定               |

| 設定項目                         | 設定可能範囲                                                         | 出荷時設定値          |
|------------------------------|----------------------------------------------------------------|-----------------|
| PSK(TKIP/CCMP)               | ASCII コードなら 8～63 文字、16 進文字(0～9、A～F、a～f) なら 64 文字固定             | 未設定             |
| 認証方式                         | Open、Shared                                                    | Open            |
| 注意表示                         | 表示する、表示しない                                                     | 表示する            |
| 送信速度                         | 11b Auto、11bg Auto、11g Auto、11g 6 or 9M、1M、2M、1 or 2M、5.5M、11M | 11b Auto        |
| IP アドレス                      | IP アドレス形式の任意値                                                  | 000.000.000.000 |
| サブネットマスク                     | IP アドレス形式の任意値                                                  | 000.000.000.000 |
| デフォルトゲートウェイ                  | IP アドレス形式の任意値                                                  | 000.000.000.000 |
| MTU                          | 0064～1500                                                      | 1500 (オクテット)    |
| DHCP スタートアップの種類              | 無効にする、アプリケーション起動時                                              | 無効にする           |
| DHCP 更新禁止項目                  | IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、端末 ID (複数選択可)                     | 未設定             |
| DHCP サーバポート番号                | 00001～65534                                                    | 08067           |
| FTP サーバアドレス指定方法              | IP、ホスト名                                                        | IP              |
| FTP サーバ IP アドレス              | IP アドレス形式の任意値                                                  | 000.000.000.000 |
| FTP ホスト名                     | 62 文字までの英数記号で大文字/小文字を判別                                        | 未設定             |
| FTP ユーザ名                     | 18 文字までの英数記号で大文字/小文字を判別                                        | 未設定             |
| FTP パスワード                    | 20 文字までの英数記号で大文字/小文字を判別                                        | 未設定             |
| FTP サーバポート番号                 | 00001～65534                                                    | 00021           |
| FTP モード                      | Passive、Active                                                 | Passive         |
| FTP カレントフォルダ                 | / (ルート)、/ (ユーザ名)、/ (指定)                                        | / (ルート)         |
| FTP 指定フォルダ                   | 62 文字までの英数記号で大文字/小文字を判別                                        | 未設定             |
| DNS プライマリサーバ                 | IP アドレス形式の任意値                                                  | 000.000.000.000 |
| DNS セカンダリサーバ                 | IP アドレス形式の任意値                                                  | 000.000.000.000 |
| DNS タイムアウト時間                 | 01～99                                                          | 03 (秒)          |
| DNS 試行回数                     | 0～9                                                            | 1               |
| SNMP コミュニティ (R/Only) コミュニティ名 | 16 文字までの英数記号で大文字/小文字を判別                                        | public          |

| 設定項目                         | 設定可能範囲                      | 出荷時設定値  |
|------------------------------|-----------------------------|---------|
| SNMP コミュニティ<br>(R/W) コミュニティ名 | 16 文字までの英数記号で大文字/小文字を<br>判別 | private |
| SNMP エージェントポー<br>ト番号         | 00001～65534                 | 00161   |

## 付録-2 サンプルバーコード

**注意**

印刷の際の拡大、縮小、汚れ等の印刷品質が著しい場合は、読取れなくなることがあります。

**●JAN13****●JAN8****●UPC-E****●CODE39 (C/D あり)**

●CODE39 (C/D なし)



●NW-7 (C/D あり)



●NW-7 (C/D なし)



●NW-7 (HEX)



●ITF (C/D あり)





●ITF (C/D なし)



●ITF (標準バージョン ITF-14)



●ITF (拡張バージョン ITF-16)



●ITF (アドオンバージョン ITF-6)



●CODE128 (コードセット A)



●CODE128 (コードセット B)



●CODE128 (コードセット C)



●EAN128 (コードセット A)



●EAN128 (コードセット B)



●EAN128 (コードセット C)



●RSS-14

●Standard



●Stacked



### ●RSS Limited



### ●RSS Expanded

#### ●Standard



#### ●Stacked



### ●EAN/UCC Composite

#### ●RSS-14 Stacked CC-A



#### ●RSS-14 Stacked CC-B



### ●PDF417



PDF417 は数字のみで最大 2725 桁、英字・記号のみで 1850 桁、バイナリのみで 1108 桁まで可能



英数記号、バイナリを扱う事が出来る

### ●Data Matrix

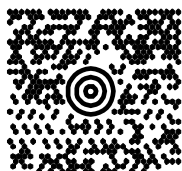


DataMatrix は桁数は数字のみで最大 3116 桁、  
英字のみで最大 2335 桁、  
バイナリのみで 1556 桁まで可能

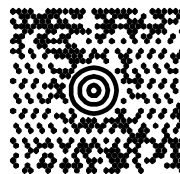


英数字、バイナリを扱う事が出来る、  
マトリックス型シンボル体系の二次  
元シンボル

### ●Maxi Code



同一エリア内に  
複数台運用できます



株式会社 ウェルキャット

### ●QR コード



QR コードは数字のみで最大 7089 桁、  
英字・記号のみで最大 4296 桁、  
バイナリのみで最大 2953 桁、漢字の  
みで  
最大 1817 桁まで可能



英数記号、バイナリ、漢字を扱う事が  
出来る

## 付録-3 用語集

本マニュアルで使われている専門用語の意味を説明しています。

### Fドライブ

アプリケーションソフト、データベースマスターファイルなどを格納するための領域です。パソコンからダウンロードしたアプリケーションソフトは、Fドライブに保存されます。

### Sドライブ

アプリケーションソフトの動作中に一時的なファイル（テンポラリファイル）を格納するための領域として使用します。

### システムプログラム

本製品に搭載されている OS です。

### システムメニュー

システムプログラムの機能を操作するプログラムです。

### デフォルトデバイス

システムメニューのリモートデバイスリストに登録された Bluetooth デバイスのうち、デフォルトに設定されたデバイスです。システムメニューでは、常にデフォルトデバイスに接続します。

### バッテリーパック

充電式のリチウムイオン二次電池です（BP-002）。

### バックアップ用電池

バッテリーパックを外した時や、バッテリーパックの残量が少なくなった場合、内蔵時計のデータやファイルの一時保存をするための電池です。

### リモートデバイス

ローカルデバイスの接続先となる Bluetooth デバイスです。

### ローカルデバイス

操作中の Bluetooth デバイスを指します。本製品を操作している場合は、本製品がローカルデバイスになります。

---

ワイヤレス二次元ハンディターミナル  
PGR-120-G  
ユーザーズマニュアル

---

2014 年 3 月 第 2 版発行

Copyright©2009 Welcat Inc.

**株式会社ウェルキャット**

<http://www.welcat.co.jp/>

[info@welcat.co.jp](mailto:info@welcat.co.jp)